

大阪市立自然史博物館館報

41

(平成27年度)



〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1番23号

大阪市立自然史博物館

平成28年6月1日発行

目 次

巻頭言	1
調査研究事業	2
資料収集保管事業	19
展覧事業	28
普及教育事業	33
広報事業	43
刊行物・情報システム	46
連携（ネットワーク）	47
庶務	49

巻頭言

スーパーアマチュアと自然史博物館の連携

館長 谷田 一三

大阪市立自然史博物館に奉職して1年が過ぎた。個性豊かな学芸員や豊富な資料や器材を楽しむ反面、施設の経年的な劣化、展示更新への道の遠いこと、悩みも尽きないこの1年だった。昨年の館報の巻頭言で、山西と佐久間（2015）は、対話と連携の博物館運営について紹介している。大阪市立自然史博物館の強みが、友の会、NPO大阪自然史センターなどとの連携にあることを、私もこの1年で再認識した。とくに、博物館を取り巻くスーパーアマチュアとの連携は、本博物館の大きな財産であり、今後ともさらに強化すべきこと間違いない。

関西における自然史学のスーパーアマチュアの歴史は古く、官学を中心に発展してきた江戸・東京とは一線を画している。江戸期の本草学者である木村兼葭堂は商人、本格的な植物誌を編んだ畔田翠山は紀州藩士、いずれもアマチュアだった。2005年の本館の特別展では、「なにわのナチュラリスト—自然の達人たち—」（大阪市立自然史博物館編、2005）として、約30名の自然史学者を取り上げている。その大部分がアマチュアでありながら、大部の図鑑やフロラやファウナの記録を残している。その専門分野と本業を、特別展解説書から列挙してみる。

芝川又之助（昆虫；実業家）、吉良哲明（貝類；住職・教員）、堀 勝（植物；教員）、梶山彦太郎（地質；大工の棟梁）、中島徳一郎（コケ；教員）、桑島正二（植物；教員）、山本虎夫（海藻・貝類；教員）、金子寿衛男（貝類；教員）、尾花 茂（トンボ；医師）、佐藤 納（ハチ；教員）、後藤光男（甲虫；会社員）、高砂久哉（シダ類；林業家）と、多くのアマチュア自然史学者が関西から生まれてきた。

さらに、これらの方のなかには、その専門分野を核として、研究会を立ち上げ、雑誌を刊行している人も多い。例えば私も白浜でお世話になった山本虎夫さんは、京大のサマーハウスの管理人をしながら「南紀生物」の編集と発行を続けてきた。また、吉良哲明さんは、「ゆめ蛤」という個人発行の情報・普及誌を、謄写版刷りで編集・刊行していた。それは、日本貝類学会の会報「ちりぼたん」につながるという。

ここにあげたスーパーアマチュアの遺産は、様々な形で本博物館の財産となっている。第一は、これらの方々集めたタイプも含む標本が、本館の貴重な収蔵品として残されていることである。次には、彼らの作った研究会、同好会、あるいは研究者集団が、今も博物館にとっての大きな知の遺産となっている。指導を受けた多くの後進は、今は館を支えるスーパーアマチュアになっている。彼らもまた、大きな図鑑を作り、論文を執筆し、研究会などを主宰している。

現在のスーパーアマチュアの凄さを痛感するのが、夏休みの終わりに近い日曜日に開催している標本同定会一標本の名前を調べよう&達人による標本トークである。近年は参加者・同定件数ともにやや伸び悩んでいるが、昆虫（とくに甲虫）、クモ類、貝類、植物、岩石などなど、講師陣はプロとともにスーパーアマチュアのオンパレードである。生物を扱う環境調査会社の人からみれば垂涎のメンバーだろう。

本館の収蔵標本の充実にも、これらのスーパーアマチュアを中心とした人材、研究会などは欠かせない。一昨年度の資料収集保管リストから代表的なものを挙げると、昆虫の春沢圭太郎コレクション、ハゼ科魚類の松井彰子コレクション、近畿地方植物の山住一郎コレクション、三重県などのシダ植物の市川正人コレクションなどが寄贈されている。ただし、これらの標本の登録作業は、現在の博物館スタッフでは対応しきれないし、アルバイトなどを雇用する資金も十分でない。博物館としての遺産の継承には、ここにも大きな課題が残っている。

当館からスーパーアマチュアなどに提供するサービスもある。外来研究員に登録してもらうことで、器材、標本、図書などを、ほとんど自由に使ってもらうことができる。このような研究員制度は、日本国内でももっとも充実していると思われる。また、外来研究員として、科学研究費補助金などの競争的資金に応募することもでき、現実に獲得している研究員もいる。また、近畿植物同好会、大阪鳥類研究グループ、関西トンボ談話会、日本甲虫学会、アサギマダラの会（アサギマダラを調べる会）、なにわホネホネ団、西日本ハチ研究会などの研究団体に、活動の場を提供している。いずれにしても、人が集まり物が集まることで、大きな利益を得ているのは博物館側であることに間違いない。

調査研究事業

本格的な調査研究を通じてこそ、質の高い博物館活動が可能となるから、博物館活動の根底に調査研究が位置づけられなければならない。自然史博物館はその50年余に及ぶ活動から、公立博物館としては群を抜く標本や資料の蓄積をもつ。基礎科学分野の研究機関として、これらは重要な社会的使命を帯びるものである。さらに、文部科学省指定の研究機関であり、科研費の申請資格や日本育英会（現：独立行政法人日本学生支援機構）の免除職の適用など、研究機関として一定の地位を確立している。自然史科学研究者が横断的にそろって博物館施設として中核的な使命を持つ博物館でもあり、自然史科学分野の発展のためにも調査研究面での競争力強化とその推進体制の整備が急務となっている。

学芸員の個別テーマによる研究の他に、平成29年度開催予定の特別展準備を兼ねた「瀬戸内海の総合調査」、平成31年度の特別展開催に向けて市民と協同で進める「大阪を中心とした外来生物の影響プロジェクト調査」などを実施してきた。その成果の一部は特別展「たまごとなね」でも紹介したほか、館で刊行する研究報告や学会誌で公表するとともに、講演会を通じて市民に普及した。

また、27年度は外部研究資金として文部科学省科学研究費補助金は基盤研究9件（基盤研究A1件、同B1件、同C7件）、若手研究2件、挑戦的萌芽研究1件の補助を受けた。また分担研究者として6件の研究を実施し、研究費（間接経費を含む）の配分を受けた。民間ファンドでは、全国科学博物館活動等助成事業、タカラ・ハーモニストファンド、河川整備基金助成事業、水源地環境基金、武田科学振興財団による研究助成も各1件採択された。

I. 研究体制

学芸員は、館長を除き全員が学芸課に所属し、5部門の研究室で研究業務に携わっている。

館長 谷田 一三 (Kazumi TANIDA)

動物 波戸岡清峰 (Kiyotaka HATOOKA) 主任学芸員
研究室 和田 岳 (Takeshi WADA) 主任学芸員
石田 惣 (So ISHIDA) 学芸員

昆虫 金沢 至 (Itaru KANAZAWA) 学芸課長代理
研究室 初宿 成彦 (Shigehiko SHIYAKE) 主任学芸員
松本吏樹郎 (Rikio MATSUMOTO) 学芸員

植物 佐久間大輔 (Daisuke SAKUMA) 主任学芸員
研究室 長谷川匡弘 (Masahiro HASEGAWA) 学芸員
横川 昌史 (Masashi YOKOGAWA) 学芸員

地史 川端 清司 (Kiyoshi KAWABATA) 学芸課長
研究室 塚腰 実 (Minoru TSUKAGOSHI) 主任学芸員
林 昭次 (Shoji HAYASHI) 学芸員

第四紀 石井 陽子 (Yoko ISHII) 学芸員
研究室 中条 武司 (Takeshi NAKAJO) 学芸員

平成28年3月31日現在

II. 研究テーマ

■谷田 一三 (館長)

- (1) 東アジア産トビケラ目などの水生昆虫の分類学的研究
- (2) 河川生態系の保全及び応用生態学的研究
- (3) 水生昆虫類の生態毒性学的研究
- (4) ダム湖生態系、とくにエコトーンの研究

■波戸岡清峰 (動物研究室)

- (1) ウナギ目魚類各科の系統分類学的研究
- (2) 大阪湾周辺および瀬戸内海海域の魚類相の調査

■和田 岳 (動物研究室)

- (1) ヒヨドリの採食生態に関する研究
- (2) 大阪の鳥類相及び哺乳類・両生爬虫類の調査
- (3) 大和川下流域及び周辺ため池の水鳥の個体数調査
- (4) 播磨灘岸及び瀬戸内海岸の水鳥の分布調査
- (5) キンバトの食性などに関する研究
- (6) 大阪府を中心とする外来鳥類の生息状況調査

■石田 惣 (動物研究室)

- (1) 自然史映像のアーカイビングとその活用
- (2) 大阪湾周辺および瀬戸内海海域の無脊椎動物相
- (3) 大阪近郊における外来無脊椎動物の分布と生態
- (4) 軟体動物の生態学・行動学的研究
- (5) 博物館標本から推定する生物相の変遷

■金沢 至 (昆虫研究室)

- (1) 日本及び東アジア産キバガの系統分類学的研究
- (2) アサギマダラの移動の調査
- (3) ゴケグモ類の分布拡大の研究
- (4) 近畿地方の蛾類記録の整理

■初宿 成彦 (昆虫研究室)

- (1) 新生代の昆虫化石（遺跡の昆虫遺体も含む）
- (2) 大阪府および周辺の甲虫類の分布調査
- (3) セミの分布と生態
- (4) カサアブラムシの虫えい形態と天敵相

■松本 吏樹郎 (昆虫研究室)

- (1) ヒメバチ科昆虫の寄生習性, 分類, 系統学的研究
- (2) マレーゼトラップによるハチ目昆虫ファウナと季節消長の調査
- (3) 近畿地方におけるハチ目昆虫相の調査
- (4) 近畿地方に移入したアカハネオンブバッタに関する調査

■佐久間 大輔 (植物研究室)

- (1) 本郷次雄菌類関連資料及びアマチュアによる菌類資料のアーカイブ化及び分子生物学的利用
- (2) 里山利用の民俗生態学的研究
- (3) 丘陵地植物群集の景観生態学的研究
- (4) 博物館利用者コミュニティの発達に関する教育学的研究
- (5) 自然史標本の文化財制度及び保存科学

■長谷川 匡弘 (植物研究室)

- (1) 顕花植物の花形態とポリネーターの共進化に関する研究
- (2) 里山環境における開花フェノロジーと訪花昆虫相の特徴
- (3) 希少植物種の保全生物学的研究

■横川 昌史 (植物研究室)

- (1) 日本産ハナシノブ属の遺伝構造と集団動態
- (2) 絶滅危惧種の保全遺伝生態学
- (3) 半自然草原の植生の動態
- (4) 海岸植物の分布と生態

■川端 清司 (地史研究室)

- (1) 津波被災した地質標本の修復に関する予察的・実験的研究
- (2) 白亜紀・古第三紀放散虫化石に関する研究
- (3) 遺跡から出土する石製品の石材に関する研究
- (4) 地質現象の「見える化」実演実験の開発とその博物館学的研究

■塚腰 実 (地史研究室)

- (1) 新生代古植物相の研究
- (2) ヒシ科化石の分類学的研究
- (3) バショウ科果実化石の分類学的研究
- (4) 愛媛県久万層群産果実化石の分類学的研究
- (5) 現生メタセコイアとイチヨウの生態学的研究

■林 昭次 (地史研究室)

- (1) 恐竜の生理学・生態学
- (2) 恐竜の外皮の機能と進化
- (3) 四足動物の二次的水生適応
- (4) 脊椎動物の巨大化と小型化

■石井 陽子 (第四紀研究室)

- (1) 大阪平野の第四系の地質層序と地質構造に関する研究

- (2) 大阪平野ボーリング試料を用いた中・上部更新統の火山灰層序に関する研究
- (3) ボーリング標本を用いた小・中学校理科地学分野の教材開発に関する研究

■中条 武司 (第四紀研究室)

- (1) 干潟・汀線などの沿岸域の微地形および地層形成に関する研究
- (2) 遺跡データに基づく大阪平野形成に関する研究
- (3) 再堆積性火砕堆積物に関する研究

Ⅲ. 文部科学省科学研究費補助金を受けて行った研究

1. 当館研究者が研究代表者となったもの

■若手研究 (B)

研究課題	研究代表者
海生爬虫類の水生適応：組織学的アプローチから復元する首長竜類の遊泳能力の進化	林 昭次

(3年間継続の2年目) (課題番号：26800270)

- 穂別博物館・中川町エコミュージアムセンターにおいて、白亜紀の首長竜類の組織サンプルを収集した。
- 名古屋市工業試験場にて、北米ならびに北海道の首長竜化石のCT撮影を行った。
- ドイツ・ボン大学にて、ヨーロッパならびに北米の首長竜化石のCT撮影・薄片作成を行った。
- 7月にドイツ・ボン大学の国際古脊椎動物組織学シンポジウムにて、10月にアメリカ古脊椎動物学会にて、研究成果の一部を発表した。

■若手研究 (B)

研究課題	研究代表者
絶滅が危惧される日本産ハナシノブ属植物の集団動態および局所適応メカニズムの解明	横川 昌史

(3年間継続の2年目) (課題番号：26830147)

- 北海道各地のハナシノブ属植物の自生地で現地調査と標本収集を行った。
- 国立科学博物館や東京大学など主要な植物標本庫で標本調査を行った。

調査研究事業

■基盤研究 (A)

研究課題	研究代表者
自然史系博物館等の広域連携による「瀬戸内海の自然探求」事業の実践と連携効果の実証	波戸岡清峰
(5年間継続の4年目)	(課題番号: 24240113)

- 市民参加型の観察会や採集・調査の大規模な例として、昨年に引き続き漁船により漁獲されたすべての海産生物を対象とした観察会を行った。平成27年度は、瀬戸内海全体に観察地を広げ、下関市立しものせき水族館との連携により、山口県宇部岬漁港(宇部市、9月)に於いて周防灘の生物を、愛媛県総合科学博物館との連携により、愛媛県桜井漁港(今治市、12月)に於いて燧灘の生物の観察会を行った。また、河口の干潟の生物の観察会を倉敷市立自然史博物館との連携により、高梁川の河口(倉敷市、5月)で行った。実施の際には有用性のアンケートも行った。
- 山口県から大分県にかけての周防灘、燧灘、備讃瀬戸で広く瀬戸内海の生物相の調査を行うとともに、標本資料の収集と登録作業を行った。
- 平成28年度開催予定の巡回型の特別展を開催するためのパネルや展示用の生物レプリカ、ハンズオン展示物等を作成した。
- 連携博物館である愛媛県総合科学博物館の企画展「めぐみの海 瀬戸内海」開催(平成27年12月～平成28年1月)に際しては平成26年度に作成した瀬戸内海地形模型を最初の巡回展示として貸し出した。また、企画展の講演会で、瀬戸内海東部の大阪湾の魚類について講演した。
- 標本に基づいた瀬戸内海の魚類のリストを作成するため、博物館に収蔵されている瀬戸内海産の魚類標本の整理を平成26年度に引き続き行った。

■基盤研究 (B)

研究課題	研究代表者
動画を博物館の「標本」として収集・収蔵・利用公開するための課題解決と環境整備	石田 惣
(3年間継続の1年目)	(課題番号: 15H02955)

- 動画を一次データとして用いる生物学研究者を対象

に、動画の保有状況、著作権に関する留保権利や利用許諾条件、動画の利用価値、必要とする動画のメタデータなどを尋ねるアンケート調査を行った。

- 動画のアーカイブの実務や、研究データとしての動画利用に関する課題を抽出するため、東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館、京都大学野生動物研究センター、京都大学霊長類研究所を訪問し、収蔵担当者や研究者にヒアリングを行った。
- 市民から博物館に寄贈された映像資料のデジタル化を行い、メタデータを付与する作業を行った。
- 動画標本として収蔵することを目的として、自然史に関連するテーマでの映像撮影を行った。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
市民が形成した重要菌類資料の研究 —市民科学者育成・支援機関としての自然史博物館論	佐久間大輔
(3年間継続の1年目)	(課題番号: 15K01157)

- 青木実菌類資料、及び吉見昭一副菌類資料について、資料の整理・解析及び、一部図版のデジタル化を勧めた。
- これらを元に、アマチュア向け普及教育を進め、2016年1月には菌類学講座2016「アマチュア菌学の活性化に必要な仕掛けを考える」を開催、約100人の参加を得て今後に向けた課題の整理を行った。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
アカハネオンブバッタの移入・拡散の実態と在来オンブバッタに与える影響の解明	松本吏樹郎
(4年間継続の2年目)	(課題番号: 26430209)

- 6月20日～26日の7日間、沖縄県与那国町(与那国島)竹富町(西表島、石垣島)でオンブバッタ属の生息状況の調査とサンプルの収集を行った。
- 11月23日～30日の8日間、アメリカ合衆国ハワイ州(オアフ島、ハワイ島)でオンブバッタ属の生息状況の調査とサンプルの収集を行った。
- 此花区において4月から10月まで定点サンプリングを行い発生消長のデータを得た。

○調査の結果を日本昆虫学会・日本応用動物昆虫学会合同大会および日本昆虫学会近畿支部会で発表した。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者	研究分担者
「対話と連携の博物館」の 実践的総括に基づく博物館 運営の新たな指針の構築に向けて	山西良平	佐久間大輔

(3年間継続の2年目) (課題番号: 26350396)

- 公開フォーラム「博物館に適した地方独立行政法人を考える」(2回)と第4回公立博物館の地方独立行政法人化に関する研究会を開催した。
- 2015国際自然史標本保全学会(アメリカ、5月15~23日)に出席した。
- 友の会サミット2015「ユーザーコミュニティが博物館を活性化する道を探る」を開催した。
- 日本博物館協会主催の研究協議会『運営の多様化と博物館登録制度の在り方—「対話と連携の博物館」の総括(3)』を開催した。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
生物標本作製作業への市民参加が 生物多様性の意義理解を促進する 効果の測定	和田 岳

(3年間継続の2年目) (課題番号: 26350265)

- 大阪市立自然史博物館に蓄積している鳥類死体を対象に、市民参加での標本化作業を実施。参加者等に対して生物多様性理解についてのアンケート調査を行った。
- 日本各地の自然史系博物館など鳥類標本を所蔵する施設に対して、鳥類標本の所蔵状況、その材料となる鳥類死体の蓄積状況、その標本化作業の実態のアンケート調査を実施した。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
現世および考古遺跡における高潮・ 越波堆積物の認定と津波堆積物との 比較	中条 武司

(3年間継続の3年目) (課題番号: 25400494)

- 三重県松阪市松名瀬海岸において、越波地形および堆積物について検討を行い、その成果を日本堆積学会などで発表した。
- 大阪市内遺跡堆積物における台風・越波堆積物と地形形成についての成果を国際第四紀学連合において発表を行った。
- 三重県南部、北海道道北地方、瀬戸内海沿岸部などで高潮および津波堆積物の検討を行い、両者の比較を行った。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
教科書を基本とした理科以外の教科 での自然史博物館活用と学校向け ールの調査・開発	釋 知恵子

(3年間継続の3年目) (課題番号: 25350411)

- 国語で使える貸出キット「タンポポ」と「虫の体」を学校に貸し出し、利用した教員や児童へのアンケート調査、また授業見学を行うなどして、貸出キットの改良と評価を行った。
- 8月7日(大阪歴史博物館)、8日(大阪市立自然史博物館)の「教員のための博物館の日」で貸出キットを紹介し、8日には特別展「たまごとたね」と学校の教科書との関連を紹介するコーナー展示を作った。
- 教育学会等で研究成果の発表を行った。また報告書としてまとめ、博物館ホームページ内の「学校と博物館」でPDFを公開した。

■挑戦的萌芽研究

研究課題	研究代表者
津波被災した地質標本の修復に関する 予察的・実験的研究 次の南海トラフ 地震に備える	川端 清司

(3年間継続の1年目) (課題番号: 15K12450)

- 新潟県上越市から糸魚川市にかけて分布する上部鮮新統~更新統川詰層、長野県長野市に分布する上部鮮新統柵層、滋賀県湖南市に分布する更新島弧琵琶湖層群の地質試料を実験用の試料として採集した。
- 地学団体研究会糸魚川総会、日本地質学会長野大会

調査研究事業

に参加して、関連情報の収集と研究発表を行った。

- 宮城県南三陸町、岩手県陸前高田市において地質試料を採集するとともに、津波被災した陸前高田市立博物館の地質標本の修復後の経過についてヒアリングを行った。

2. 当館学芸員が研究分担者となったもの

■基盤研究 (B)

研究課題	研究代表者	当館分担者
「草山」はいつどのようにして里山林となったか— 里山の今を理解し管理する 視座として	大住 克博	佐久間大輔 横川 昌史

(課題番号：15H02855)

- 島根県の三瓶山の草原において植生調査を行い、その成果を日本生態学会で発表した。
- 広島県、岡山県、愛媛県、高知県などの草原において予備的な調査を行った。
- 当館所蔵の草原性植物の標本の分布情報の検討を行った。

■基盤研究 (B)

研究課題	研究代表者	当館分担者
日本の博物館総合調査研究	篠原 徹	佐久間大輔

(課題番号：25282079)

- 平成25年度に実施された「博物館総合調査」のデータを元に博物館の現状に関する全国調査の解析を行うプロジェクト。佐久間はこのうち友の会、講演会、ボランティアなどの博物館活動への市民参加に関する研究、博物館学芸員の調査研究活動、SNSなどインターネットの利用に関する研究を分担した。報告書「日本の博物館総合調査研究平成25～27年度：平成27年度報告書」を刊行した。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者	当館分担者
博物館植物標本の生存組織を用いた絶滅集団の復元： 組織培養法の確立と普及	志賀 隆	長谷川匡弘

(3年間継続の2年目)

(課題番号：26350387)

- 博物館標本にある生存種子を探索し、その組織より絶滅植物の植物体を得て野生復帰を行うための技術、方法論を確立するための研究。長谷川はこのうち、博物館標本の種子の収集を担当した。

IV. 財団等の助成を受けて行った研究

■公益財団法人武田科学振興財団2015年度中学校理科教育振興奨励

研究課題	研究代表者
博物館所蔵ボーリング標本から探る 平野地下の地層：博物館学芸員による 中学校地学教育支援	石井 陽子

- 大阪市立自然史博物館所蔵のボーリング標本を調査し、大阪平野の地下に分布する第四系の層序と地質構造を検討した。その研究成果にもとづき、ボーリング標本を中心とした中学校向け教材開発を行った。

■一般財団法人全国科学博物館振興財団 全国科学博物館活動等助成事業 (平成27年度)

研究課題	研究代表者
「しぜんしワークショップ」展—月例 子ども向け体験学習ツールの展示化	佐久間大輔

- 大阪自然史センターなどと連携して行ってきた「しぜんしワークショップ」を作品や道具などを展示することで振り返り総括した。
- 2015年12月20日から2016年1月31日までナウマンホールにおいて「しぜんしワークショップ展」を開催した(32ページ参照)。
- ワークショップ実施者の課題交流を行うことを目的に2016年1月9日に「ワークショップ研究会」を実施した。これらの成果は全国科学博物館協議会などで報告した。

■琉球大学熱帯生物圏研究センター 平成27年度共同利用研究公募助成

研究課題	研究代表者
クロボウモドキの分布パターンを	横川 昌史

説明する3つの仮説の検証

- 西表島のクロボウモドキの自生地において詳細な微地形を測量した。
- 現地在住の研究者と協力しながらクロボウモドキの繁殖生態を調べた。
- 西表島の段丘崖においてクロボウモドキを探索した。

■平成26年度 タカラ・ハーモニストファンド

研究課題	研究代表者
草原再生が半自然草原の植生と 土壌に与える影響の検証	横川 昌史

- 熊本県高森町の草原再生実験区において植生調査を行った。
- 草原再生実験区の土壌の化学分析を行った。

■(一財)水源地環境センター 水源地生態研究会

研究課題	研究代表者
ダム湖生態系に関する研究	谷田 一三

- 三春ダム湖を中心にダム湖生態系に関する研究、とくにエコトーンの研究を行った。

■(公財)河川財団 河川整備基金

研究課題	研究代表者
透過型堰堤の河川環境と生態系への 影響評価	谷田 一三

- 白山地域を中心に透過型砂防堰堤の河川環境と生態系に与える影響を調査した。

V. 海外派遣

■科研費(基盤研究B)による出張

氏名：佐久間大輔
 日程：2015年5月15～23日(8日間)
 出張先：アメリカ合衆国フロリダ州
 目的：東日本大震災被災自然史標本の安定化処理の経過報告を発表するため、Society for Preservation of Natural History Collectionに参加。

■科研費(基盤研究C)による出張

氏名：松本吏樹郎

日程：2015年11月23～30日(8日間)
 出張先：アメリカ合衆国ハワイ州(オアフ島、ハワイ島)
 目的：アカハネオンブバッタの調査。

■(一財)水源地環境センター研究助成による出張

氏名：谷田一三
 日程：2015年6月3～8日(6日間)
 出張先：米国ニュージャージー
 目的：国際トビケラシンポジウム参加、研究討論

■中国・香港への出張

氏名：金沢 至
 日程：2015年6月24～28日、11月5～12日(13日間)
 出張先：中国・香港・広西・桂林周辺
 目的：香港環保協進会・鳳園蝴蝶保護区との共同研究により、国際会議に参加して、中国広西・花坪原生林などで移動昆虫の調査を行った。

■アメリカ農務省研究費による出張

氏名：初宿成彦
 日程：2015年4月9～15日(7日間)
 出張先：台湾台東県・南投県・宜蘭県
 目的：日米産との比較を目的とした、タイワンツガ樹上につくカサアブラムシのサンプリングと天敵相調査。

VI. 学術交流

■大阪大学工学部との共同研究

研究テーマ：化石骨の構造的研究
 研究者：中野貴由(大阪大学大学院工学研究科マテリアル生産科学専攻)・林 昭次
 期間：2015年4月1日～2016年3月31日

VII. 委託調査

業務名：撮影動画によるママコナ属訪花昆虫類調査業務委託

期間：2015年9月24日～2016年3月31日
 内容：ママコナ属の開花群落を撮影したビデオを確認しながら昆虫の訪花が確認できた時刻(ビデオで撮影された範囲に入って訪花を始めた時刻)を記録した。訪花昆虫は目レベルでの同定を行った。画像上で不鮮明なものについては、同定は必要なく、訪花開始時刻のみの記録とした。

VIII. 著作活動

■研究室別報文一覧

大阪市立自然史博物館友の会発行のNature Study誌

調査研究事業

は、ns.と略記した。当館職員以外の著者には氏名に*を付した。

【館長】

谷田一三 (2015.4) 館長就任のご挨拶. ns. 61 : 63.

Mochizuki, S.*, Y. Kayaba*, K. Tanida (2015.5) The multivoltine life history of *Cheumatopsyche brevilineata* (Iwata, 1927) (Trichoptera : Hydropsychidae), with a new method to estimate the population size of generations. Aquatic Insects 36 : 135-147.

谷田一三 (2015.6) 川虫の自然史学と食文化 (巻頭言). 河川文化 70 : 2-3.

谷田一三 (2015.7) 書評 河川生態学 (川那部浩哉・水野信彦監修, 中村太士編). 応用生態工学 18 : 65-67.

谷田一三 (2015.8) トビケラの属に見る東亜・北米型隔離分布. 昆虫と自然 50 (8) : 10-13.

谷田一三 (2015.10) かみがたの自然史文化 (ご挨拶). the OSTEC, 2015-Autumn : 1.

一柳英隆*・天野邦彦*・谷田一三・江崎保男* (2015.10) 水源地生態研究会の経過と成果. 水源地環境技術研究所所報平成26年度研究成果 : 61-73.

谷田一三 (2016.1) 雪カワゲラ. RIO (豊田市矢作川研究所季刊誌) (198) : 3.

谷田一三 (2016.3) 日本昆虫目録第5巻. 毛翅目. カワリナガレトビケラ科 : 69, ヒメトビケラ科 : 70-74, ヤマトビケラ科 : 75-77, ヒゲナガカワトビケラ科 : 78, カワトビケラ科 : 79-83, クダトビケラ科 : 84-86, キブネクダトビケラ科 87, シンテイトビケラ科 : 88, ムネカクトビケラ科 : 89, イワトビケラ科 90-93, シマトビケラ科 : 94-98, マルバナトビケラ科 : 98, トビケラ科 : 99-101, カクスイトビケラ科 : 102-104, キタガミトビケラ科 : 104, カクツツトビケラ科 : 105-110, エグリトビケラ科 : 111-118, コエグリトビケラ科 : 119-122, ニンギョウトビケラ科 : 124-126, ヒゲナガトビケラ科 : 127-134, ホソバトビケラ科 : 135, アシエダトビケラ科 : 136, フトヒゲトビケラ科 : 137, ケトビケラ科 : 138, カタツムリトビケラ科, ツノツツトビケラ科 : 138. 日本昆虫学会 (権歌書房).

【動物研究室】

波戸岡清峰 (2015.5) タマガンゾウビラメとデベラ. ns. 61 (5) : 4-5.

波戸岡清峰 (分担執筆) (2015.7) 大阪市立自然史博物館第46回特別展「たまごとたね」解説書「動かないタマゴと動くタネのひみつ」. 大阪市立自然史博物館. 92pp.

波戸岡清峰 (2015.9) 岡山県の岩礁海岸で採集された

魚類について. 2015年度日本魚類学会講演要旨 : 30.

波戸岡清峰 (2016.3) 瀬戸内海燧灘の底びき網の魚. ns. 62 (3) : 2-4, 12.

和田岳 (2015.5) 身近な鳥から鳥類学 第26回 夏鳥たちの歌、今は?. むくどり通信 (237) : 15.

和田岳 (分担執筆) (2015.7) 大阪市立自然史博物館第46回特別展「たまごとたね」解説書「動かないタマゴと動くタネのひみつ」. 大阪市立自然史博物館. 92pp.

和田岳 (2015.7) 身近な鳥から鳥類学 第27回 サギたちのスゴ技. むくどり通信 (238) : 9.

和田岳 (2015.9) 身近な鳥から鳥類学 第28回 コシアカツバメの集団をさがそう. むくどり通信 (239) : 11.

和田岳 (2015.9) 鳥の青いタマゴの不思議. ns. 61 : 113-115.

和田岳 (2015.11) 身近な鳥から鳥類学 第29回 カラスの枝落とし. むくどり通信 (240) : 11.

和田岳 (2016.1) 潜る水面採食ガモ 第30回 ムクドリ. むくどり通信 (241) : 10.

和田岳 (2016.1) 大阪バードフェスティバル2015 サシバシンポジウムの報告. むくどり通信 (241) : 12.

和田岳 (2016.1) カラスの枝落とし行動のひろがり. ns. 62 : 8.

和田岳 (2016.2) 岬町のザトウクジラ回収顛末. ns. 62 : 14-16.

和田岳 (2016.3) 身近な鳥から鳥類学 第31回 ユリカモメの頭はいつ黒くなる?. むくどり通信 (242) : 11.

石田惣・木邑聡美*・唐澤恒夫*・岡崎一成*・星野利浩*・長安菜穂子* (2015.5) 淀川のヌートリアによるイシガイ科貝類の捕食事例, および死殻から推定されるその特徴. 日本貝類学会平成27年度大会研究発表要旨集 : 26.

石田惣 (分担執筆) (2015.7) 大阪市立自然史博物館第46回特別展「たまごとたね」解説書「動かないタマゴと動くタネのひみつ」. 大阪市立自然史博物館. 92pp.

石田惣 (2015.8) 杵築で使われているハマグリ採りの道具「ジャリン」. ns. 61 (8) 8-10.

石田惣 (2015.9) 渦巻き型の卵～右巻きか左巻きかを定めるそれぞれの事情. ns. 61 (9) 8-9.

石田惣・中田兼介*・西浩孝*・藪田慎司* (2015.11) 生物の動画を博物館の標本として収蔵登録する試みと想定される課題. 日本動物行動学会第34回大会講

- 演要旨集：73.
- 石田惣・大阪湾海岸生物研究会（2016.1）岬町の昔の船だまり跡「谷川古港」の動物相調査. ns. 62 (1)：5-6.
- 石田惣・中田兼介*・西浩孝*・藪田慎司*（2016.3）生物の動画を博物館の標本として収蔵登録する試みと想定される課題. 日本生態学会第63回全国大会講演要旨：P2-323.
- 【昆虫研究室】**
- 平化隼逸*・金沢至（2015.4）伊勢湾周辺における移動昆虫調査の報告（2013年）. Gracile (75)：34-36.
- 今城香代子*・大竹義英*・川崎守夫*・西條良彦*・金沢至（2015.6）カシノナガキクイムシの簡単で効果的な防除方法. ns.61 (6)：6.
- 松田真平*・金沢至（2015.10）竹内栖鳳の描いた昆虫（1）. ns.61 (10)：2-4.
- 金沢至・清水裕行*（2015.9）ゴケグモ類の分布拡大の追跡. 日本昆虫学会第75回大会講演要旨：88.
- 金沢至（2015.10）アサギマダラなどの移動蝶の調査－2014年の成果－. 日本鱗翅学会第62回大会講演要旨.
- 金沢至（2015.10）総論にかえて. 特集 アサギマダラの移動調査最近の成果. 昆虫と自然 50 (11)：1-2.
- 金沢至・青山潤三*（2015.10）アサギマダラの故郷？南嶺山脈をたずねて. 特集 アサギマダラの移動調査最近の成果. 昆虫と自然 50 (11)：19-22.
- 金沢至・清水裕行*（2016.3）セアカゴケグモの日本における拡散とその被害. 衛生動物学会「衛生動物学の進歩 第2集」：287-296.
- 松田真平*・金沢至（2016.3）長居公園でホシミスジを捕獲. ns 62 (3)：9, 12.
- 金沢至・松田真平*（2016.3）バタフライガーデンとアサギマダラ. ミニガイド 28. 大阪市立自然史博物館. 48pp.
- 初宿成彦（2015.6）天道虫から出てくる、黄色いしるは何ですか？ 日本の学童はいく 2015年6月号：46.
- 初宿成彦（文責）（2015.7）. 22年間のご支援ありがとうございました 「韮公園セミぬけがらしらべ2014」（最終回）. ns. 61 (7)：4.
- Shiyake S., Hayashi M., Tominaga O., Hayashi Y., Miyatake Y. (2015.7) . [P36-P04] Fossil beetle assemblage from the LGM peat sediment of Tateoka Formation in Aomori Prefecture, Japan. INQUA 2015.
- 初宿成彦（2015.8）昆虫の卵の保管・展示について. ns. 62 (8)：4-5.
- 初宿成彦（2015.8）下北合宿の下見で見つかったツガルチシマシデムシ. ns. 62 (8)：15.
- 初宿成彦（2015.9）. 滋賀県におけるブナ帯のセミ類分布調査（2011-2015）. Came虫 (185)：10-11. AWF滋賀むしの会.
- 大阪ヤマトオサムシ保存会（2015.11）[P-1] ヤマトオサムシダマシ (*Blaps japonensis*) 九州での記録ご教示のお願い. 日本甲虫学会（北九州市）.
- 初宿成彦・林成多*・富永修*・林靖彦*・宮武頼夫*（2015.11）. [P-2] 青森県つがる市で産出した最終氷期 最寒冷期の甲虫化石. 日本甲虫学会（北九州市）.
- 初宿成彦（2015.11）[A-9] 近畿地方における氷期の自然環境と昆虫分布の推定. 第27回日本環境動物昆虫学会年次大会要旨集：30.
- 齋藤琢巳*・春沢圭太郎*・初宿成彦（2016.1）大阪府下における *Synona* 属テントウムシの記録. 月刊むし (539)：46-47.
- 初宿成彦（2016.1）ヒメハルゼミによる未明の大合唱を兵庫県城崎で観察. ns. 62 (1)：7.
- 初宿成彦（2016.2）韮公園セミのぬけがら調べ 22年間の調査を終えて. 昆虫と自然 51 (2)：24-27.
- 初宿成彦（2016.2）大阪市自然史博とクンストカーメラに所蔵される江戸時代の「虫の民芸品」. ns. 62 (2)：8-9.
- 初宿成彦（2016.1）奈良県南部におけるヒメハルゼミの分布. Cicada 22：59-60.
- 初宿成彦（2016.3）[P40] 大阪府のハルゼミを記録しよう. 地域自然史と保全研究発表会. 関西自然保護機構.
- 松本吏樹郎（2015.9）モイワウスバカゲロウとマダラウスバカゲロウの幼生期. 日本昆虫学会第75回大会講演要旨：39.
- 松本吏樹郎（2015.9）移入種アカハネオンブバッタの分布拡大と由来を探る～市民との共同調査から～. 日本昆虫学会第75回大会講演要旨：87.
- 松本吏樹郎（2016.1）アカハネオンブバッタ *Atractomorpha sinensis* の分布拡大と各地個体群の遺伝的特性. 日本昆虫学会近畿支部2015年度大会・日本鱗翅学会近畿支部第152回例会 講演要旨：8.
- 松本吏樹郎（2015.2）マツヘリカメムシ. ns. 61 (2)：1.
- 松本吏樹郎（2015.2）アリジゴクを探してみよう. ns. 61 (2)：5-9, 16.
- 松本吏樹郎（2015.7）いろいろなチョウの卵とコオイムシの卵 ns. 60 (7)：1.
- 松本吏樹郎（2015.12）近畿地方で分布を拡げつつある、瑠璃色の外来ヒメバチ. ns. 60 (12)：3-5, 16.

- Yoshida T.* and Matsumoto R. (2015.6) A revision of the genus *Chlorocryptus* (Hymenoptera : Ichneumonidae), with the first record of the genus from Japan. *Deutsche entomologische Zeitschrift* 62 (1) : 81-99.
- Takasuka K.*, Yasui T.*, Ishigami T.*, Nakata K.*, Matsumoto R.*, Ikeda K.*, Maeto K.* (2015.8) ~Host manipulation by an ichneumonid spider ectoparasitoid that takes advantage of preprogrammed web-building behaviour for its cocoon protection. *Journal of Experimental Biology* 218 (15) : 2326-2332.
- 松本吏樹郎 (2015.8) 「クモヒメバチのたどった道～分子情報からみた寄主利用と寄生様式の進化」(招待講演) シンポジウム「クモ研究における分子系統情報の利用：形態情報ではみえなかったこと」日本蜘蛛学会第47回大会(京都女子大学)。
- 【植物研究室】**
- 久米田裕子*・坂田淳子*・高鳥浩介*・木川りか*・佐藤嘉則*・佐久間大輔 2015.4 津波による被災植物標本のカビ被害調査 *保存科学*54 : 75-82
- Daisuke Sakuma, Masahiro Ôhara, Mahoro Suzuki and So Ishida (2015.5) Role of off-site museums for restoration - Experiences with salvage and restoration of natural history collection damaged by earthquakes and subsequent tsunami in East Japan, 2011, part II. 2015. The Society for the Preservation of Natural History Collections, 30th meeting, Florida Museum of Natural History FLORIDA, USA.
- 佐久間大輔 (2015.6) 二酸化炭素排出抑制と生物多様性の二兎をおうために利用促進から改めて里山管理を考える. *地域自然史と保全* 37 (1) : 5-10.
- 佐久間大輔 (2015.7) たねに生えるきのこ・カビ *ns. 61* (7) : 8.
- 佐久間大輔 (2015.7) きのこを見つめるために、描く～本郷次雄菌類図譜～ 『生き物を描くサイエンスのための細密描画』神奈川県立生命の星・地球博物館.
- 佐久間大輔 (2015.8) 地方独立行政法人という選択肢 *Muse* (111) : 20-21.
- 米澤里美・佐久間大輔 (2015.8) 大阪市立自然史博物館友の会60周年記念事業の報告 *ns. 61* (8) : 5.
- 佐久間大輔 (2015.9) ICOM NATHIST による自然史博物館の倫理規定. *全科協ニュース*45 (4) : 7-9.
- 佐久間大輔 (2015.9) センバヤマの妄想 近畿植物同好会会報 (121) : 28.
- 佐久間大輔 (2015.11) 全日本博物館学会第2回博物館教育研究会「博物館教育の担い手を考える ～多様な人材との協働の視点から～」ディスカッションコーディネーター (2015.11.6大阪)
- 佐久間大輔 (2015.11) 大阪市立自然史博物館に寄贈された「岸川椿蔵書」. *カメラアン* 55 : 12-13.
- 佐久間大輔 (2015.12) レッドリストを生物多様性保全ツールとして活用するために. *地域自然史と保全* 37 (2) : 83-86.
- 佐久間大輔・出川洋介* (2015.12) 日本の菌類インベントリー研究を充実させるために一菌類誌・図鑑・地域研究と博物館一. *日本菌学会西日本支部会報* 23 : 15-26.
- 麻生泉*・佐久間大輔・布施静香*・石井百合香*・石山麻子*・上田達也* (2015.12) 大阪府初記録のナツエビネを堺市で確認. *ns. 61* (12) : 2.
- 佐久間大輔 (2016.1) 博物館総合調査から見た直営館と中規模外郭団体運営館の現状と課題. *日本博物館協会研究協議会『運営の多様化と博物館登録制度の在り方―対話と連携の博物館』の総括 (3)』* (招待講演) .
- 飯沢耕太郎*・佐久間大輔・片山周子* (2016.2) 三人閑談 きのこの世界. *三田評論* (1197) : 72-83.
- 佐久間大輔・横川昌史・山中亜希子* (2016.2) 自然史系博物館における子どもワークショップの展開と課題. *全国科学博物館協議会 第23回研究発表大会要旨集* : 67-71.
- 佐久間大輔 (2016.2) 学術基盤としての博物館のネットワーク 研究活動と人材養成のために. *日本の博物館総合調査研究平成27年度報告書*.
- 佐久間大輔 (2016.2) 博物館 web サイトの URL タイプからみた博物館の情報発信の課題. *日本の博物館総合調査研究平成27年度報告書* : 185-195.
- 佐久間大輔 (2016.2) 自然史系博物館の資料保全. *日本の博物館総合調査研究 : 平成27年度報告書* : 211-214.
- Naoki Endo, Wanwisa Fangfuk, Daisuke Sakuma, Cherdchai Phosri, Norihisa Matsushita, Masaki Fukuda, Akiyoshi Yamada (2016.3) Taxonomic consideration of the Japanese red-cap Caesar's mushroom based on morphological and phylogenetic analyses. *Mycoscience* 57 (3) : 200-207.
- 佐久間大輔 (2016.2) ユーザーを育て博物館コミュニティを築く―博物館を社会の中で活かすしかけとしての人材養成プログラム―博学連携シンポジウム「大学の"学芸員養成"教育と博物館～文化の裾野を広げるために～」三重大学2016年2月29日(招待講演) .

- 西澤真樹子*・高田みちよ*・渡部哲也*・平田慎一郎*・田中良尚*・松浦宜弘*・佐久間大輔 (2016.3) 2012-2014年に「南三陸勝手に生物相調査隊」により収集された宮城県南三陸町周辺の生物標本目録・観察記録. 自然史研究 3 (16) : 273-292.
- 福永祐一*・末次健司*・長谷川匡弘・澤進一郎* (2015.3) エンシュウムヨウラン (ラン科) を近畿に記録する. 分類 15 (2) : 191-194.
- Nakahama N*, Hirasawa Y*, Minato T*, Hasegawa M., Isagi Y*, Shiga T*. (2015.12) Recovery of genetic diversity in threatened plants through use of germinated seeds from herbarium specimens. *Plant Ecology*, 216 (12), 1635-1647.
- 長谷川匡弘 (2015.4) 小難しい学芸員のやさしい小咄 都市部でも見つかるスマレたち. ns. 61 (4) : 5.
- 長谷川匡弘 (2015.6) 大阪市内の都市型水田と御田の植物の比較 ~御田の植物相の特異性について~. 住吉っさん 24 : 7-8.
- 長谷川匡弘 (2015.6) 行ってみよう科学探検 大阪市立自然史博物館 —市民といっしょに歩む博物館—. 理科教室 Vol.58 (6) : 74-75.
- 長谷川匡弘 (2015.8) ひつつきむしがひつつく仕組みと「隠れひつつきむし」 ns. 61 (8) : 2-3
- 長谷川匡弘 (2015.12) ママコナ属における花形態の進化とその要因 (近畿植物同好会総会 講演要旨) 近畿植物同好会会報121 : 15-18.
- 平澤優輝*・港翼*・長谷川匡弘・志賀隆* (2016.1) 標本種子の発芽可能性の評価と標本作製および管理方法の種子寿命への影響 日本植物分類学会第14回大会 (福島) 公開シンポジウム講演記録 これからの標本室 ~ハーバリウムの管理・運営や情報発信, 利用に関する新しい流れ~. 分類16 (1) 37-44
- 楠瀬雄三*・長谷川匡弘・村上健太郎*. (2016.3) 大阪府におけるハマツナノ分布状況. きしわだ自然資料館研究報告 No. 4, 48-50.
- 長谷川匡弘 (2016.3) 屋久島高地に分布するヤクシママコナの特異な送粉様式. 日本植物分類学会第15回大会講演要旨.
- Yuichi Toma*, Junichi Imanishi*, Masashi Yokogawa, Hiroshi Hashimoto*, Ayumi Imanishi*, Yukihiro Morimoto*, Yuki Hatanaka*, Yuji Isagi*, Shozo Shibata* (2015.10) Factors affecting the genetic diversity of a perennial herb *Viola grypoceras* A. Gray var. *grypoceras* in urban fragmented forests. *Landscape Ecology* 30 (8) : 1435-1447.
- Yuji Isagi*, Takashi Oda*, Keitaro Fukushima*, Chunlan Lian*, Masashi Yokogawa, Shingo Kaneko* (2016.1) Predominance of a single clone of the most widely distributed bamboo species *Phyllostachys edulis* in East Asia. *Journal of Plant Research* 129 (1) : 21-27.
- 横川昌史 (2015.7) 草原再生が半自然草原の植生と土壌に与える影響の検証. 平成26年度 (第29回) タカラ・ハーモニストファンダ研究助成報告.
- 横川昌史・古本良・大谷雅人 (2015.5) オキナワウラジロガシのドングリのせいぐらべ ns. 61 (5) : 6, 12.
- 横川昌史 (2015.5) 野焼きのあとに咲いたキスミレ. ns. 61 (5) : 1, 5.
- 横川昌史・山下和子*・山中亜希子* (2015.6) じっけんタネたねハカセ : ナツボダイジュのタネ飛ばし実験. ns. 61 (6) : 7-8.
- 横川昌史 (2015.9) 淡路島で見つかった逸出由来のモクビヤッコウ. ns. 61 (9) : 6-5, 12.
- 横川昌史 (2015.10) クロスカントリーコースに群生するアイナエ. 全国草原再生ネットワーク ニュースレター 24 : 4.
- Yuichi Toma*, Junichi Imanishi*, Masashi Yokogawa, Hiroshi Hashimoto*, Ayumi Imanishi*, Yukihiro Morimoto*, Yuki Hatanaka*, Yuji Isagi*, Shozo Shibata* (2015.7) Spatial arrangement of population within a forest affects genetic diversity of a violet in urban fragmented forests. 9th IALE World Congress.
- 藤馬裕一*・今西純一*・横川昌史・橋本啓史*・今西亜友美*・森本幸裕*・畑中佑紀*・井鷲裕司*・柴田昌三* (2015.6) 断片化した都市林に生育するタチツボスミレの遺伝的多様性に影響を及ぼす要因. 日本景観生態学会第25回大会講演要旨.
- 山中亜希子*・横川昌史 (2015.11) 大阪市立自然史博物館における子どもワークショップ~学芸員と教育スタッフの試み~. 第2回博物館教育研究会講演要旨.
- 横川昌史・井上雅仁*・増井太樹*・太田陽子*・白川勝信*・堤道生*・高橋佳孝* (2016.3) 島根県三瓶山東の原における草原の管理放棄に伴う種組成の変化. 第63回日本生態学会講演要旨.
- 大谷雅人*・佐伯いく代*・指村奈穂子*・澤田佳宏*・古本良*・横川昌史 (2016.3) 樹木600種を対象とした死環反応特性の評価 : 系統的保守性はどの程度存在するか?. 第63回日本生態学会講演要旨.

【地史研究室】

川端清司. (2015.8) 東大阪市鬼虎川遺跡から出土

- した, 銅剣鑄型の石材. 地学団体研究会第69回総会 (糸魚川) 講演要旨集: 166.
- 小倉徹也・川端清司 (2015.8) 大阪市難波宮跡および大阪城跡出土の石材, 地学団体研究会第69回総会 (糸魚川) 講演要旨集: 167.
- 川端清司. (2016.3) 小難しい学芸員のやさしい小咄 バージェス頁岩動物群 実物標本を見て下さい!. ns. 62 (3): 5.
- 塚腰実 (2015.5) スペインの中生代白亜紀前期の植物化石. ns. 61 (5): 2-3.
- 塚腰実 (2015.7) 生きている化石メタセコイアを観察してみよう. GREEN AGE (9): 31-33.
- 塚腰実 (2015.9) 大阪市立大学理学部附属植物園のメタセコイア. GREEN AGE (9): 32-33.
- 百原新*・三宅尚*・工藤雄一郎*・塚腰実・沖津進 (2015.11) 三木茂標本の炭素年代測定に基づく中部-西南日本の最終氷期最寒冷期植物化石群の再検討. 日本植生史学会講演要旨. 第30回日本植生史学会大会, 講演要旨: O-12.
- 塚腰実 (2015.11) 小難しい学芸員のやさしい小咄. フェニックスの葉序-葉の付いている順序を決める-. ns. 61 (11): 4-5.
- Yamada, T*, M. Yamada* and Tsukagoshi M. (2015.12) Taxonomic revision of *Pinus fujii* (Yasui) Miki (Pinaceae) and its implications for the phytogeography of the Section Trifoliae in East Asia. PLOS ONE. <http://journals.plos.org/plosone/article?id=10.1371/journal.pone.0143512>
- 林昭次. (2015.4) 空へ進出した恐竜たち. ns. 61 (4): 2-4.
- 林昭次. (2015.7) 世界一大きい恐竜のタマゴは大きい?. ns. 61 (7): 6-7.
- 林昭次. (2015.7) 恐竜のタマゴ タマゴからわかる恐竜の繁殖戦略. 特別展「たまごとたね」解説書, 大阪市立自然史博物館: 14.
- 林昭次・藤原慎一*・塚腰実 (2015.7) 特別展「恐竜 戦国時代の覇者! 世界大恐竜展」図録, 山口県立美術館・山口県立山口博物館・読売新聞社・KRY 山口放送. 103pp. (一部監修執筆)
- 林昭次. (2015.7) 骨の内部組織から読み解く恐竜の生態. 「メガ恐竜展2015 巨大化の謎に迫る」図録, 読売新聞社: 129.
- 林昭次・久保麦野*・藤田祐樹*・大城逸郎* (2015.7) 骨組織から考察する島嶼産化石リュウキュウジカの生活史. 日本古生物学会年会要旨: 17.
- Sander, M*, Hayashi S., Houssaye A*, Nakajima Y* and Sato T.* (2015.7) The evolution of plesiosaur bone histology: new evidence from new finds. Abstract book of 3rd International Symposium on Paleohitology.
- Kolb C*, Scheyer T. M*, Veitschegger, K*, Forasiepi A. M*, Amson E*, Geer A*, Ostende L., Hayashi S. and Sánchez-Villagra M. R.* (2015.10) Mammalian bone palaeohistology: a survey and new data with emphasis on island forms. Peer J 3: e1358; DOI 10.7717/peerj.1358
- Sander, M*, Hayashi S., Houssaye A*, Nakajima Y* and Sato T.* and Wintrich T.* (2015.11) The evolution of plesiosaur bone histology: evidence from long bones and vertebrae. Abstract book of 75st Annual Meeting Society of Vertebrate Paleontology: 206.
- Houssaye, A*, Waskow K., Hayashi S., Cornette R., Lee H. A.* and Hutchinson R. J.* (2016.2) Solid bones in large animals: a microanatomical investigation. The Biological Journal of the Linnean Society 117 (2): 350-371.
- 林昭次 (2016.3) 骨を切って恐竜の生態を復元する: 恐竜の骨組織学. 「恐竜化石研究所」図録, 名古屋科学館・読売新聞社・中京テレビ放送: 31.
- 林昭次・Burns M.*・Arbour V.*・渡部真人*・Tsogtbaatar K.* and Barsbold R. (2016.3) 成長様式から考察する鎧竜恐竜の生態と進化. 北海道大学総合博物館シンポジウム「絶滅動物化石の最新研究 in 2016」講演要旨集: 9.

【第四紀研究室】

- 中条武司・趙哲済* (2015.5) 伊勢湾櫛田川河口におけるウォッシュオーバー・ファンの内部構造. 日本堆積学会2015年筑波大会プログラム・講演要旨: 96.
- 佐藤隆春・鈴木桂子*・和田穰隆*・中条武司 (2015.6) 紀伊半島北部の中新世石仏凝灰岩部層の火砕性堆積物. 地質学雑誌 121 (6): 173-178.
- Nakajo, T. and Cho, C.* (2015.7) Relationship between development of beach ridge system and human activities in the western Osaka Plain, Japan. Abstract, XIX INQUA (International Union for Quaternary Reserch) Congress, Nagoya, Japan: C06-P14.
- Cho, C.*, Ichikawa, T.*, Matsuda, J.*, Nakajo, T., Tsujimoto, Y.*, Ogura, T.*, Takahashi, T.* and Hirata, Y.* (2015.7) Reconstruction of the paleogeography aided by GIS of the Uemachi Upland and its surrounding lowland, Osaka

- prefecture, Japan. Abstract, XIX INQUA (International Union for Quaternary Research) Congress, Nagoya, Japan : H32-02.
- 中条武司・大阪市立自然史博物館「都市の自然」調査グループ平野の坂班 (2015.9) みんなで坂を調べよう：坂から見る大阪平野の成り立ち. 日本地質学会第122年学術大会 (長野) 講演要旨：192.
- 中条武司 (2015.10) 市民による自然環境調査と特別展の企画・実施. 博物館研究 50 (10)：6-9.
- 中条武司 (2015.11) 島根県浜田市 石見畳ヶ浦の隆起波食棚. ns. 61 (11)：141, 152.
- 中条武司 (2016.1) 長崎県壱岐の「猿岩」. ns. 62 (1)：1, 12.
- 中条武司・趙哲済*・小倉徹也* (2016.3) 越波による砂嘴の破壊と復元：伊勢湾南西部櫛田川河口の例. 日本堆積学会2016年福岡大会プログラム・講演要旨：33.
- 小倉徹也*・中条武司 (2016.3) 福島県南相馬市小高川下流域における3.11津波堆積物の堆積状況と層相変化. 日本堆積学会2016年福岡大会プログラム・講演要旨：76-77.
- ISHII Yoko (2015.7) Effective description of the borehole cores with data among the museum collection for school teaching. Abstract, XIX INQUA (International Union for Quaternary Research) Congress, Nagoya, Japan : T09-P02
- 石井陽子 (2015.9) 博物館所蔵ボーリング標本を用いた学校向け貸し出し教材による地学教育支援：指導案の提案と研究授業の実施. 日本地質学会第122年講演要旨集：300.
- 石井陽子 (2016.2) ボーリングコアとデータから軟弱地盤を考える. ns. 62 (2)：10-11.
- 石井陽子 (2016.3) 博物館所蔵ボーリングコアから探る大阪平野の地質：市民参加型標本調査や学校向け貸し出し教材への展開. 関西自然保護機構2016年大会講演要旨.
- 【総務課】**
- 釋知恵子・宮前一郎* (2015.4) 学校と博物館をつなぐ—「教員のための博物館の日」. 初等教育資料 (925)：88-89.
- 釋知恵子・佐久間大輔・和田岳・広瀬祐司* (2015.8) 国語の教科書から理科の学習へ子どもの興味をつなぐ方略 大阪市立自然史博物館が開発した「国語で使える貸出キット」. 日本理科教育学会第65回全国大会論文集：379.
- 広瀬祐司*・釋知恵子・今西隆和*・都築功*・北浦隆生* (2016.1) 日本生物教育学会第99回全国大会 (大

阪) 報告. 日本生物教育学会第100回全国大会研究発表予稿集：73.

- 釋知恵子・佐久間大輔・和田岳・広瀬祐司* (2016.1) 国語と理科をつなぎ学習を深める博物館からの支援—国語で使える貸出キット「タンポポ」「虫の体」—. 日本生物教育学会第100回全国大会研究発表予稿集：74.
- 釋知恵子 (2016.3) 国語で使える貸出キット「タンポポ」「虫の体」の開発と調査研究報告. 32pp.

Ⅹ. 講演・館外活動・社会貢献など

報文一覧に含まれない講演などの館外活動をここに採録した。

谷田

- 応用生態工学会会長
日本陸水学会企画委員
Landscape and Ecological Engineering Chief Editor
陸水生物学報代表・編集委員
日本昆虫学会日本昆虫目録編集委員
水源地生態研究会委員長
同ダム湖生態系研究グループ長
大阪生物多様性保全ネットワーク構成員
紀伊半島研究会運営委員
日本水大賞委員会日本S J W P 審査部会委員
河川水辺の国勢調査スクリーニング委員会委員長
同底生動物スクリーニンググループ座長

波戸岡

- 日本魚類学会評議員
大阪市立大学非常勤講師「博物館資料保存論」

石田

- 日本貝類学会評議員 日本貝類学会研究連絡誌「ちりぼたん」編集幹事
日本ベントス学会自然史学会連合派遣委員
軟体動物多様性学会「Molluscan Diversity」編集委員
環境省モニタリングサイト1000沿岸域部会委員 (磯分科会代表)
大阪府レッドリスト改定検討委員会委員

金沢

- KANAZAWA Itaru (2015.11) Butterfly migration between Japan, Taiwan, and Mainland China - Speciation of *Parantica sita nipponica*. Butterfly Effect : Nature Conservation Education - from the experience of Species & Habitat Conservation of Butterfly in South East Asia.
- 金沢至 (2015.11) 海を渡って旅をする蝶・アサギマダラの移動と生物の交流. ミュージアム連続講座 2015「海からの贈り物～沈没船とさまざまな交流

調査研究事業

～」：第二回「海を渡る使者たち」.

金沢至 (2015.12) 中国広西・桂林における調査. 愛知アサギマダラの会.

金沢至 (2016.1) アサギマダラのマーキング調査と博物館におけるオープンサイエンス. どう活かす? 新しい研究のすすめ方 オープンサイエンス.

金沢至 (2016.2) 移動する虫たちーアサギマダラの戦略からー. 三重県植物防疫協会公開講演会.

金沢至 (2016.3) 中国南部の調査. アサギマダラの会. 日本昆虫学会評議員

日本環境動物昆虫学会評議員

日本鱗翅学会評議員

渡りチョウを調べる会HP・編集担当

大阪市立大学非常勤講師「博物館学資料保存論」

初宿

日本甲虫学会副会長

日本環境動物昆虫学会 生物保護とアセスメント手法研究部会運営委員

滋賀県生き物総合調査委員会昆虫類部会

松本

日本昆虫学会評議員

日本昆虫学会近畿支部幹事

大阪市立大学非常勤講師「生物学実験」

佐久間

日本菌学会評議員

大阪市立大学非常勤講師「博物館経営論」

全国科学系博物館協議会 編集委員

岸和田市環境審議会委員

吹田市文化財審議会委員

文化遺産推進ネットワーク有識者会議

大阪府レッドリスト改定検討委員会委員

長谷川

大阪府レッドリスト改定検討委員会委員

長谷川匡弘 (2015.4) 送粉者としての双翅目 ～最近の研究事例の紹介と訪花昆虫調査における留意点～ (双翅目談話会,大阪)

長谷川匡弘 (2015.12) ママコナ属でみる花形態の多様性と種分化. 2015 年度日本植物分類学会講演会 (大阪)

川端

日本地質学会理事、各賞選考委員、日本地質学会が選ぶ「県の石」選定委員会委員長

日本地質学会大122年学術大会夜間小集会「博物館における地質系学芸員の戦略」信州大学 (長野市) を主催

地学団体研究会大阪支部運営委員

大阪市立大学非常勤講師「博物館展示論」、「博物館

経営論」

塚腰

地学団体研究会大阪支部運営委員

大阪市立大学非常勤講師「大阪の自然」

愛媛大学農学部非常勤講師 集中講義「博物館資料論」

日本植生史学会談話会「大型植物化石研究のための植物形態学実習」講師 (2015.6)

林

大阪大学大学院工学研究科招聘研究員

中条

日本地質学会代議員、行事委員 (堆積地質部会)

地学団体研究会大阪支部委員

大阪府環境審議会温泉部会専門委員

大阪市立大学非常勤講師「博物館展示論」

大阪府小学校・支援学校10年経験者研修講師 (2015.11)

たかつき市民環境大学講師 (2015.12)

石井

きしわだ自然資料館ミニ実習講師 (2015.9、2016.3)

豊中市教育研究会理科部会講師 (2015.12)

高槻市立自然博物館あくあびあ芥川企画展「高槻にもワニがいた?!」展示監修 (2016.1)

きしわだ自然資料館企画展「そのとき大地が動いた～泉州に残るその爪痕～」展示協力 (2016.2)

X. 外部研究者の受け入れ

外部研究者の受け入れに関する要項により、平成27年度に受け入れた外部研究者は表1のようである。期間中に外部研究者が公表した業績は次の通り。

Ariyama, H. (2015) Three new species of the *Eriopisa* group (Crustacea: Amphipoda: Eriopisidae) from Japan, with the description of a new genus. *Zootaxa* (3949): 91-110.

Ando K., & O. Merkl (2015) Study of Tenebrionid Fauna of Sulawesi IV. The Genus *Tetragonomenes* Chevrolat, 1878 (Coleoptera, Tenebrionidae, Cnodalonini). *Elytra* (n. ser.) 5(1): 133-159.

Yamashita, S., K. Ando, H. Hoshina, N. Ito, Y. Katayama, M. Kawanabe, M. Maruyama & T. Itioka (2015) Food web structure of the fungivorous insect community on bracket fungi in a Bornean tropical rain forest. *Ecological Entomology* 40: 390-400

Bezdě, J., L. Purchart, & K. Ando (2015) Identity of *Chrysomela javanica* Thunberg, 1787 (Coleoptera: Chrysomelidae, Tenebrionidae). *Annales Zoologici*

- 65(3) : 473-478.
- Ando, K., 2015. A Note on the Japanese *Dioedus* (Coleoptera, Tenebrionidae), with a New Synonymy. *Elytra* (n. ser.) 5(2) : 347-351.
- Ando, K., & J. Yamasako (2015) A New Species of the Genus *Nesocaedius* Kolbe, 1915 (Coleoptera, Tenebrionidae) from Bali, Indonesia. *Elytra* (n. ser.) 5(2) : 353-356.
- Ando, K. (2015) A Proposition of New Genus for *Ischnodactylus loripes* Lewis (Coleoptera, Tenebrionidae, Diaperini). *Elytra* (n. ser.) 5(2) : 385-389.
- Ando, K. (2015) New Records of *Taiwanocryphaeus rhinoceros* from Vietnam and *T. phoupaneicus* from Myanmar (Coleoptera, Tenebrionidae). *Elytra* (n. ser.) 5(2) : 390.
- Ando, K. (2015) Notes on the Japanese Tenebrionidae (Coleoptera) with Changes of Taxonomic Treatment. *Elytra* (n. ser.) 5(2) : 391-354.
- Ando, K., & W. Schawaller (2015) Two New Species of the Genus *Phaedis* (Coleoptera, Tenebrionidae) from Taiwan and China. *Elytra* (n. ser.) 5(2) : 403-408.
- Ando, K., O. Merkl, M.-L. Jeng, M.-L. Chan, & Y. Hayashi (2016) Catalogue of Formosan Tenebrionidae (Insecta : Coleoptera). *Japanese Journal of Systematic Entomology, Supplementary Series*, 1 : 112pp.
- 今村彰生 (2015) 断片化したDNAの増幅とシーケンスによる本郷ハーバリウム未同定種の再同定と分類学的記載の促進. *IFO Research Communications* 29 : 94-95.
- 今村彰生・乾美浪・菊地淳一・脇村圭・佐久間大輔 (2015) 属特異的プライマーによる本郷次雄標本の断片化したDNA増幅の試み. 日本菌学会ポスター発表. P024.
- 宇都宮聡・川崎悟司 (2015) 日本の白亜紀・恐竜図鑑. 築地書館.
- 川上誠太 (2015) 資料紹介「中村定八日記」の矢倉和三郎関係記事の翻刻. *かいなかま* 49 (1) : 31-39.
- 川上誠太 (2015) 没後31年 品川和久先生を偲ぶ. *かいなかま* 49 (2) : 17-20.
- Negrobov, O. P., T. Kumazawa, T. Tago and O. V. Maslova (2015) Three new species of the genus *Dolichopus* Latreille, 1796 (Diptera : Dolichopodidae) from Japan. *Caucasian Entomological Bulletin* 11 (1) : 205-209.
- Negrobov, O. P., T. Kumazawa, T. Tago and O. V. Selivanova (2015) The species of the Genus *Syntormon* Loew, 1857 (Dolichopodidae : Diptera) from Japan, with the descriptions of two new species. *Japanese Journal of Systematic Entomology* 21 (1) : 29-33.
- 熊澤辰徳・大石久志 (2015) 豊田市(愛知県)の双翅目第5報 : アシナガバエ科. *はなあぶ* (40) : 33-37.
- 金沢至・清水裕行 (2015) ゴケグモ類の分布拡大の追跡. *日本昆虫学会第75回大会講演要旨* : 88.
- 金沢至・清水裕行 (2016) セアカゴケグモの日本における拡散とその被害. *衛生動物学会「衛生動物学の進歩 第2集」* : 287-296.
- 下野義人・大藪崇司・北出雄生・折原貴道・杉山賢子・堀井雅人・三井崇史・岩瀬剛二 (2015) いのちの森No.19 2014年度調査報告書「きのこ」分野の調査報告 : 20-32.
- 下野義人・高松進 (2015) rDNAおよび形態学的特徴に基づいたクロハツ節 *Russula eccentrica*, *R. cantharellicola* とニセクロハツ近縁種との関係. *日本菌学会講演要旨集* : 55.
- 下野義人 (2016) ノルウェーのオスロのベニタケ科. *関西菌類談話会講演要旨集* : 2.
- Suzuki, T., K. Yano, & H. Senou (2015) *Trimma yoshinoi*, a new gobiid fish from Japan (Perciformes : Gobiidae). *Journal of Ocean Science Foundation* 14 : 66-73.
- Yamasaki, Y. Y., M. Nishida, T. Suzuki, T. Mukai and K. Watanabe (2015) Phylogeny, hybridization, and life history evolution of *Rhinogobius gobies* in Japan, inferred from multiple nuclear gene sequences. *Mol. Phylogenet. Evol.* 90 : 20-33. Doi : 10.1016/j.ympev.2015.04.012.
- Suzuki, T., D. W. Greenfield & H. Motomura (2015) Two new dwarfgobies (Teleostei : Gobiidae) from the Ryukyu Islands, Japan : *Eviota flavipinnata* and *Eviota rubrimaculata*. *Zootaxa* 4007 (3) : 399-408.
- 鈴木寿之 (2015) 魚類の絶滅危惧種が日本一多い浦内川で湧水時に取水計画・西表. *自然保護* (547) : 30-31.
- Suzuki, T., K. Shibukawa, H. Senou & I.-S. Chen (2015) Redescription of *Rhinogobius similis* Gill 1859 (Gobiidae : Gobionellinae), the type species of the genus *Rhinogobius* Gill 1859,

- with designation of the neotype. Ichthyological Research, DOI : 10.1007/s10228-015-0494-3.
- 高木基裕・久門伸司・大原健一・関伸吾・米津俊彦・大迫尚晴・鈴木寿之 (2016) 琉球弧広域に生息するヒラヨシノボリの集団構造解析. 日本生物地理学会会報 : 123-130.
- 山本好和・高萩敏和・坂東誠 (2015) 京都府京都市嵐山の地衣類. 南紀生物 57 (2) : 218-220.
- 谷本正浩 (2015) モササウルス類化石が見つかった滝ノ池 : 地層観察のための好適地. Melange 14-5 : 12-13.
- 谷本正浩・金澤芳廣・佐藤政裕 (2016) 香川県さぬき市産小型モササウルス類 (モササウルス亜科) の歯のいくつかの特徴 : 和泉層群産の遊離歯解明のために. きしわだ自然資料館研究報告 4 : 41-49.
- 三島弘幸・谷本正浩 (2016) CTスキャンで観察したモササウルス類の歯の特徴. 化石研究会会誌 48-2 : 74-78.
- 奥村 潔・石田 克・樽野博幸・河村善也 (2016) 岐阜県熊石洞産の後期更新世のヤベオオツノジカとヘラジカの化石 (その1) 角・頭骨・下顎骨・歯. 大阪市立自然史博物館研究報告 (70) : 1-82.
- 中川亜希子・中川功 (2016) 自然が再生する可能性の高いため池の条件 (環境要因) を探す - 水草からのアプローチ. 地域自然史と保全研究発表会2016ポスター発表. 大阪市立自然史博物館.
- T. Kasuya, M. Nabe, M. Mikami, and K. Hosaka (2015) Taxonomy of yellowish *Leucoagaricus* species collected from Japan inferred from morphology and molecular phylogeny Asian Mycological Congress (インド・ゴア) にてポスター発表.
- 嶋橋直弘 (2016) アジア産キイチゴ属の分類学的ノート (8) ヒメバライチゴの1新品種ヤエノヒメバライチゴ. 植物地理・分類研究 63 (2) : 81-83.
- Naruhashi, N. (2016) Important Japanese *Rubus* collection deposited in the New York Botanical Garden. Bulletin of the Osaka Museum of Natural History (70) : 83-86.
- 西澤真樹子・高田みちよ・渡部哲也・平田慎一郎・田中良尚・松浦宜弘・佐久間大輔 (2016) 2012-2014年に「南三陸勝手に生物相調査隊」により収集された宮城県南三陸町周辺の生物標本目録・観察記録. 自然史研究 3 (16) : 273-292.
- 花崎勝司 (2015) 芥川水系 (大阪府高槻市) における魚類の記録 - 1962年~2015年 -. 2015年度日本魚類学会講演要旨. p.30.
- 浜田信夫 (2015) 洞窟で見つかった*Penicillium*属のカビの分布と生態. 日本菌学会59回大会講演要旨.
- 浜田信夫 (2015) 清涼飲料水とカビ. ソフト・ドリンク技術資料 2015年2号 : 293-299.
- 林寿一 (2015) フィリピンにおけるアリタエウスムラサキシジミのミンドロ島とボノニアヒダマリセセリのバラバック島からの記録. やどりが (246) : 29-30.
- 松井彰子・乾隆帝・渡辺勝敏・中山耕至 (2015) 日本沿岸域におけるミミズハゼ類の遺伝的系統と地理的分布. 2015年度日本魚類学会年会講演要旨集. 95.
- 松田真平・金沢至 (2015) 竹内栖鳳の描いた昆虫 (1) . ns. 61 (10) : 2-4.
- 松田真平・金沢至 (2016) 長居公園でホシミスジを捕獲. ns 62 (3) : 9, 12.
- 金沢 至・松田真平 (2016) バタフライガーデンとアサギマダラ. ミニガイド 28. 大阪市立自然史博物館. 48pp.
- 松田真平 (2016) ミニコラム和名の歴史探訪 - 「イシガケ」か「イシガキ」か. 大昆Crude (60) : 15.
- 松田真平・長田庸平 (2016) 大阪市鶴見緑地で観察された注目すべき蝶類. 大昆Crude (60) : 32-34.
- 手塚浩・松田真平 (2016) 猪名川町銀山産ヤマト (エゾ) スジグロシロチョウの化性と秋季羽化個体について. 大昆Crude (60) : 44-48.
- 長田庸平・松田真平 (2016) シオカラトンボによるミヤマセセリへの捕食事例. 大昆Crude (60) : 67.
- 松橋義隆・大八木和久 (2016) 三重県津市美里町の中新統一志層群産束柱目 (パレオパラドキシア) 脊椎骨化石. 東海化石研究会誌 (61) : 25-28.
- 道盛正樹 (2013) NPO法人大阪自然史センターのスタッフキャリアについて. Musa博物館学芸員課程年報 27 : 7-11. 追手門学院大学.
- 田村英子・道盛正樹・大石善隆 (2015) 信州大学西駒演習林 (長野県伊那市) のタイ類. Naturalistae 19 : 57-60.
- 道盛正樹 (2015) 堀田満先生を偲んで 友の会活動への貢献. ns. 61 (10) : 9-10.
- 道盛正樹 (2016) 「苔こけコケ展2015」への軌跡. 蘚苔類研究 11 (6) : 182-184.
- 道盛正樹 (2015.8) 日本蘚苔類学会特別賞受賞. 2015年8月5日
- 名部みち代・森本繁雄 2016.2. 青木資料の調査状況. 関西菌類談話会総会講演会要旨集
- 山西良平 (2015) 公開フォーラム「博物館に適した地方独立行政法人を考える@全日本博物館学会」. 全日本博物館学会ニュース (114) : 2.
- 山西良平 (2016) 博物館登録制度のあり方に関する調査研究委員会の論議から (中間報告). 博物館研究 51 (2) : 18-21.
- Yamamoto, O. (2015) Near surface structure of a

crater on mountain side of Mt. Shiretokoioizan and its mechanism of molten sulfur eruption. 日本地球惑星科学連合大会 (ポスター発表).

山本睦徳 (2015) 素人の僕でもできた! ペットボトル電極で自然電位探査- 知床硫黄山溶融硫黄噴火の謎に迫る!-. 物理探査ニュース (27): 5-6.

山本好和・高萩敏和・坂東誠 (2015) 京都府京都市嵐山の地衣類. 南紀生物 57 (2): 118-120.

山本好和・盛口満 (2016) 九州の地衣類IV. 沖縄本島の地衣類. 地衣類ネットワーク, 寝屋川, 43pp.

表 1. 平成27年度に受け入れた外部研究者

氏名	利用形態	依頼元	担当学芸員
秋山 彰子	外来研究員	本人	波戸岡清峰
有山 啓之	外来研究員	本人	石田 惣
安藤 清志	外来研究員	本人	初宿 成彦
石井 久夫	外来研究員	本人	中条 武司
石田 路子	外来研究員	本人	石田 惣
市毛 勝義	外来研究員	本人	松本吏樹郎
乾 美浪	外来研究員	本人	佐久間大輔
今村 彰生	外来研究員	本人	佐久間大輔
宇都宮 聡	外来研究員	本人	林 昭次
大石 久志	外来研究員	本人	松本吏樹郎
大古場 正	外来研究員	本人	石田 惣
大谷 道夫	外来研究員	本人	石田 惣
奥田 尚	外来研究員	本人	川端 清司
数見 保則	外来研究員	本人	佐久間大輔
川上 誠太	外来研究員	本人	石田 惣
河上 康子	外来研究員	本人	松本吏樹郎
熊澤 辰徳	外来研究員	本人	松本吏樹郎
佐藤 隆春	外来研究員	本人	中条 武司
清水 裕行	外来研究員	本人	川端 清司
下野 義人	外来研究員	本人	金沢 至
鈴木 寿之	外来研究員	本人	佐久間大輔
瀬戸 剛	外来研究員	本人	波戸岡清峰
高萩 敏和	外来研究員	本人	長谷川匡弘
谷本 正浩	外来研究員	本人	佐久間大輔
田村美美子	外来研究員	本人	林 昭次
樽野 博幸	外来研究員	本人	金沢 至
天満 和久	外来研究員	本人	金沢 至
中川亜希子	外来研究員	本人	横川 昌史
長江真紀子	外来研究員	本人	石田 惣
名部みち代	外来研究員	本人	佐久間大輔
鳴橋 直弘	外来研究員	本人	長谷川匡弘
西澤真樹子	外来研究員	本人	和田 岳
花崎 勝司	外来研究員	本人	波戸岡清峰
濱田 信夫	外来研究員	本人	佐久間大輔

林 寿一	外来研究員	本人
坂東 誠	外来研究員	本人
弘岡 拓人	外来研究員	本人
藤江 隼平	外来研究員	本人
前田 哲弥	外来研究員	本人
松江実千代	外来研究員	本人
松田 真平	外来研究員	本人
松橋 義隆	外来研究員	本人
丸井 英幹	外来研究員	本人
道盛 正樹	外来研究員	本人
森本 繁雄	外来研究員	本人
山住 一郎	外来研究員	本人
山西 良平	外来研究員	本人
山本 睦徳	外来研究員	本人
山本 好和	外来研究員	本人
吉田 浩史	外来研究員	本人
米澤 里美	外来研究員	本人
渡部 哲也	外来研究員	本人
渡部 真人	外来研究員	本人

金沢 至
佐久間大輔
松本吏樹郎
松本吏樹郎
佐久間大輔
塚腰 実
金沢 至
塚腰 実
林 昭次
長谷川匡弘
佐久間大輔
佐久間大輔
長谷川匡弘
石田 惣
川端 清司
佐久間大輔
松本吏樹郎
和田 岳
石田 惣
林 昭次
塚腰 実

XI. 収蔵資料を利用した研究

収蔵標本を研究材料として利用し、2015年度に寄贈された文献のリストは次の通りである (学芸員の業績としてあげたものを除く)。

■植物標本庫 (OSA)

遠藤直樹 (2015) 難培養性食用担子菌タマゴタケの人工栽培化に関する基礎的研究. 信州大学審査学位論文.

横山正弘・加藤啓子 (2015) 大阪市立自然史博物館所蔵の宮城県産蘚苔植物標本一標本で見える明治後期から昭和初期にかけての蘚苔植物研究史の一断面- 宮城の植物 40: 9-13.

支倉千賀子・池田博 (2015) ヤマキタダケ (イネ科) のレクトタイプ選定 植物研究雑誌 90 (3): 200-205.

Gelardi M., A. Vizzini, E. Ercole, Y. Taneyama, T-H Li, M. Zhang, W-J Yan, W-J Wang (2015) New collection, iconography and molecular evidence for *Tylophilus neofelleus* (Boletaceae, Boletoidae) from southwestern China and the taxonomic status of *T. plumbeoviolaceoides* and *T. microsperes* Mycoscience 56 (4): 373-386.

狩野登之助・佐伯雄史 (2015) 最明寺滝で見たコケ. 岡山コケの会ニュース40: 21-23

藤井伸二・上杉龍士・山室真澄 2015.10. アサザの生

調査研究事業

育環境・花型・逸出状況と遺伝的多様性に関する追試. 保全生態学研究 20 : 71-85.

Hayato Wasekura, Sachiko Horie, Shinji Fujii, Masayuki Maki (2016) Molecular identification of alien species of *Vallisneria* (Hydrocharitaceae) species in Japan with a special emphasis on the commercially traded accessions and the discovery of hybrid between nonindigenous *V. spiralis* and native *V. denseserrulata*. Aquatic Botany 128 : 1-6.

今村彰生 (2015) 断片化したDNAの増幅とシーケンスによる本郷ハーバリウム未同定種の再同定と分類学的記載の促進. 発酵研究所助成研究報告29 : 94.

寺嶋芳江・高橋春樹・種山裕一 (2016) 南西日本菌類誌 : 軟質高等菌類. 東海大学出版部, 東京.

福岡豪・白形毅史・早川宗志 (2016) 愛媛県におけるコバノヒルムシロの分布と現状および系統. 水草研究会誌 (103) : 13-19.

織田二郎・村長昭義 (2015) 花粉の色によるシロバナネコノメソウとハナネコノメ (ユキノシタ科) の判別とその地理分布. 分類 15 (2) : 163-173.

■化石標本

Kohei Yoshino, Atsushi Matsuoka (2016) Mode of occurrence and taphonomy of the heteromorph ammonite *Pravitoceras sigmoidale* Yabe from the Upper Cretaceous Izumi Group, Japan. Cretaceous Research 62 : 74-85.

動物・植物・昆虫・化石・岩石・鉱物等の資料を、大阪を中心に日本全国、さらに必要に応じ海外からも収集してきた。収集した標本は冷凍燻蒸などを実施した後、温度湿度管理が可能な収蔵庫において、資料ごとに最適な環境で保管し、研究・展示活動に活用している。また、資料情報のデジタル化を進め、可能なものについては広く標本情報を公開している。

この数年間、新規資料は主として寄贈によって増加している。27年度に寄贈を受けた主なコレクションは次の通りである。日本近海の貝類 (1,700点)、環境省浅海域生態系調査 (干潟調査2002・2004年) において採集された多毛類 (1,350点)、コアラ・トラなどの飼育哺乳類 (天王寺動物園、30点)、沖縄島産などハネカクシホロタイプ (6点)、シテムシ科・コブスジコガネ科甲虫 (春沢コレクション) (1,048点)、国内外産コメツキムシ等甲虫 (岸井コレクション) (64,800点)、コケ植物標本 (565点)、近畿地方産外来植物 (15点)、泉南市産モササウルス顎化石、香川県・徳島県・兵庫県の和泉層群化石金澤コレクション一式、GIA Japan 大阪校所蔵宝石・鉱物スーザコレクション一式 (約3,500点)、泉佐野市産モササウルス歯化石 (5点)。

平成27年度末の総資料数は1,644,633点である (昨年度末比 84,542点の増加)。

I. 寄贈および交換標本

■動物研究室

奈良県のカルガモ	1点	丸山健一郎氏	河内長野市のヒミズ	1点	佐藤 隆春氏
奈良県のノウサギ	2点	河原 風花氏	天王寺動物園のオオカミ・コアラ	11点	天王寺動物園
奈良県のノウサギ	1点	前田 露氏	三重県のオオミズナギドリ	1点	宮越 和美氏
大阪府のネコ	1点	河越 恵美氏	茨城県のオオセグロカモメ	2点	宮越 和美氏
堺市のタヌキ	1点		三重県のスズガモ・キジ	2点	安達 直孝氏
			北区のアカハラ	1点	
					積水ハウス環境推進部
			兵庫県のハシブトガラス	1点	運天 政元氏
			吹田市のモズ	1点	田中 正夫氏
日本近海の貝類	1700点	岡村親一郎氏	天王寺動物園のトラ等	10点	天王寺動物園
四條畷市のヤマシギ	1点	田中 光彦氏	和歌山県のノウサギ	1点	矢田部典子氏
柏原市のオシドリ	1点	木下 進氏	北海道のベニヒワ・ゴジュウカラ他	1点	中村眞樹子氏
岡山県のカルガモ他	3点	吉村 雅子氏	枚方市のチュウジシギ	1点	牧野 栄恵氏
三重県のハシボソミズナギドリ他	4点	宮越 和美氏	東住吉区のアオバト	1点	小林春平・智氏
兵庫県のハシボソガラス	1点	上田 裕子氏	五月山動物園のヒツジ他	2点	五月山動物園
長居のハシブトガラス	1点	杉本 伸氏	大阪府立農芸高校のアルパカ他	2点	大阪府立農芸高校
豊中市のハシボソガラス	1点	森田 邦利氏	イヌ (シェパード)	1点	田中 正視氏
北海道のイスカ他	3点	中村眞樹子氏	河南町のアナグマ	1点	森 ひとみ氏
千葉県のみつzubikaモメ	4点	宮越 和美氏	奈良県のアナグマ	1点	河原 和子氏
五月山動物園のマーラ	1点	五月山動物園	大東市のコブハクチョウ	1点	
茨木市のタヌキ	1点	佐竹 敦司氏			深北緑地パートナーズ
カイウサギ	1点	小川 知里氏	祝島のたこつぼ	1点	はまや旅館
堺市のイタチ	1点	下村 晴美氏	岡山県の無脊椎動物	61点	
阪南市のノウサギ	1点	三宅 壽一氏			大阪市立自然史博物館友の会合宿参加者
淀川区のアカショウビン他	2点	阿久津淳子氏	和歌山県他のモガニ属	31点	福井康雄氏他
茨城県のカムリカイツブリ	1点	小林 毅生氏	三重県のイノシシ他	6点	宮越 和美氏
東住吉区のカルガモ	1点	小林 智・温氏	長崎県のアナグマ他	4点	塩崎 彬氏
奈良県のカワウ	1点	植木 大介氏	滋賀県のアライグマ	1点	木村 悟氏
北海道のカラス	3点	中村眞樹子氏	広島県の養殖マガキ垂下連	1点	濱水産株式会社
埼玉県ハシブトガラス	1点	山畑美怜衣氏	マツバウミシダ タイプ標本	6点	小淵 正美氏
堺市のワニガメ	1点	浦野 信孝氏	堺市のタヌキ	2点	浦野 信孝氏
長居のイタチ	1点	伊藤 雄氣氏	沖縄県のジャワマンゲース	1点	古谷亜矢子氏
兵庫県のヒミズ他	2点	井内 由美氏	長居のカルガモ	1点	米澤 里美氏
高槻市のイタチ	1点	池田 裕計氏	石垣島のオサハシブトガラス他	3点	酒田千佳子氏
三重県のスナメリ	1点	宮越 和美氏	茨城県のオオタカ他	2点	小林 毅生氏
能勢町のシカ	6点	幸田 良介氏	北区のヤマシギ他	7点	
高石市のイルカ類	1点	大谷 吉次氏			積水ハウス環境推進部
高槻市のエナガ	1点	藤田 美美氏	住之江区のヒヨドリ他	2点	西尾フミ子氏
能勢町のアオバズク	1点	上條 健一氏	天王寺区のキビタキ	2点	石田 幸子氏
沖縄県のゴイサギ	1点	酒田千佳子氏	長居のムクドリ	1点	河越 恵美氏
枚方市のウグイス	1点		箕面市のヒヨドリ	1点	佐藤 雅史氏
			中央区のウグイス	1点	加藤 敦丈氏
			奈良県のイノシシ他	3点	
					河原 風花・河原 和子氏
奈良県のカルガモ	1点	河合 芳美氏	兵庫県のテン	1点	井内 由美氏
奈良県のキジ	1点	丸山健一郎氏	能勢町のアナグマ	1点	上條 健一氏
河南町のカルガモ・ムクドリ	2点	森 ひとみ氏	山口県のアナグマ	1点	沖田 絵麻氏
北海道のコムクドリ	1点	中村眞樹子氏			
三重県のハシボソミズナギドリ	1点	安達 直孝氏			

資料収集保管事業

宮城県のタヌキ・ハクビシン	2点	豊中市のウグイス	1点	高妻 勲氏
西澤真樹子・浜口 美幸・鈴木 卓也・山崎 浩子氏		鶴見区のミツユビカモメ	1点	宮崎 良彦氏
大東市のコブハクチョウ	1点	兵庫県のハイタカ	1点	谷 陽子氏
	深北緑地パートナーズ	西成区のクマネズミ	1点	浜口 美幸氏
堺市のヒヨドリ	1点	京都府のコウベモグラ	1点	榎本 聡子氏
茨城県のオシドリ	1点	愛知県のハツカネズミ	1点	鳥山 寛氏
堺市のヒドリガモ	1点	茨木市のコウベモグラ・ハツカネズミ・ヒミズ	3点	西川 喜朗氏
滋賀県のトビ	1点	高槻市のヒミズ	1点	藤田 美美氏
兵庫県のアオサギ	1点	大分県のヒミズ	1点	丹生 秋子氏
沖縄県のハシブトガラス他	2点	大分県のコウベモグラ	1点	丹生 忠嗣氏
大和川河口のマガモ	1点	三重県のジネズミ	1点	岩本 規子氏
北区の鳥	4点	兵庫県のキクガシラコウモリ	1点	下山 孝氏
	積水ハウス環境推進部	茨木市のハツカネズミ	1点	西川 喜朗氏
石垣島のシロハラクイナ他	2点	高槻市のハクセキレイ	1点	瀧端真理子氏
東京都のスズメ	1点	平野区のアオバト	1点	西田ゆたか氏
島本町のムクドリ	1点	三重県のオオバン・ウミアイサ	2点	宮越 和美氏
東住吉区のトラツグミ	1点	五月山動物園のモルモット他	2点	五月山動物園
堺市のシロハラ	1点	岬町の無脊椎動物	33点	
西表島のシロハラクイナ・ヘビ他	4点			大阪湾海岸生物研究会
岸和田市のテン	1点	香川県のマテ突き漁漁具	1点	九郎座 勝氏
兵庫県のアライグマ	1点	環境省浅海域生態系調査(干潟調査2002・2004年)において採集された多毛類	1350点	山西 良平氏
滋賀県のタヌキ	1点	和歌山県のタヌキ	1点	矢田部典子氏
和歌山県のタヌキ	1点	平野区のカセキレイ	1点	井垣 哲男氏
滋賀県のニホンザル	1点	兵庫県のオオムシクイ	1点	宮田 哲男氏
中央区のニホンザル	1点	東京都のカムリカイツブリ	1点	矢田部典子氏
能勢町のタヌキ	1点	兵庫県のカワウ	1点	宮崎 息吹氏
堺市のタヌキ	1点	河内長野市のトラツグミ	1点	佐藤 隆春氏
三重県のスナメリ	2点	宮城県のシジュウカラ	1点	西澤真樹子氏
堺市のワニガメ	1点	韓国のイシガイ類	16点	Jin Hee Lee氏
豊中市のヌートリア	1点	兵庫県のタヌキ	1点	谷 陽子氏
和歌山県のスミズメガキ他	9点	能勢町のタヌキ	1点	南 信夫氏
和歌山市他のフロヒメガキ他	18点	河南町のタヌキ	1点	都 基学氏
沖縄県のオウサマツブハダヒトデ	1点	兵庫県のヤマドリ	1点	正田美知子氏
兵庫県のシロハラ	1点	堺市のアオサギ	1点	木村 寛氏
天王寺動物園のダチョウ・シカ他	10点	三重県のヒドリガモ	4点	宮越 和美氏
滋賀県の哺乳類	19点	茨城県のカモメ類	7点	宮越 和美氏
茨城県のツノメドリ	1点	貝塚市二色浜の魚類	21点	松井 彰子氏
茨城県のオオタカ	1点	三重県神島のミミズハゼ類	4点	有山 啓之氏
吹田氏のヤマガラ	1点	近畿地方の淡水魚	132点	
三重県のシロチドリ	1点			シニア自然大学校水生生物科
和歌山県のミサキギボシムシ?	1点	熊本県合津の魚類	5点	渡部 哲也氏
兵庫県のマミチャジナイ	1点	大阪府石川の淡水魚	6点	ジュニア自然史クラブ
千葉県・茨城県の海鳥	15点	滋賀県の淡水魚	5点	
和歌山県のイヌ	1点			ジュニア自然史クラブ
長居のハシブトガラス	1点	日本各地のハゼ科他魚類	701点	松井 彰子氏
長居のシロハラ	1点			
茨木市のジョウビタキ	1点			

高槻市芥川の淡水魚	5点	松井 彰子氏	カワツルモ	1点	和田 岳氏
北海道のスケトウダラ・ニシン	9点	河合 俊郎氏	外来植物	9点	植村 修二氏
大阪湾沿岸の魚類	22点		外来植物、近畿地方産植物	350点	藤井 俊夫氏
2015年大阪湾生き物一斉調査参加者			近畿地方産植物	50点	田中 光彦氏
堺市のタウンナギ	1点	丸山健一郎氏	大阪府産ヤナギイチゴ、Cayratia	5点	岡本 素治氏
西淀川区のガンテンイシヨウジ	1点	村瀬りい子氏	阿蘇産ホソバオグルマ	2点	山住 一郎氏
大阪湾神戸沖の魚類	54点		アイラトピカズラ、ナタマメ(果実標本含む)	2点	山住 一郎氏
須磨海岸生物調査研究所			奄美大島産サキシマスオウノキの果実	1点	古谷亜矢子氏
兵庫県明石市のウナギ目レプトセファルス			トクサバモクマオウとカンニンガムモクマオウの果実	2点	西尾フミ子氏
	1点	山田 豊隆氏	西表島産 種子・果実	11点	島袋ときわ氏
石垣島の魚類	8点	古谷亜矢子氏	西表島産 種子・果実	3点	古本 良氏
大阪湾垂水沖の魚類	61点		サイコクヒメコウホネ	1点	志賀 隆氏
須磨海岸生物調査研究所			ナツエビネ	1点	
■昆虫研究室					上田達也氏・石山 麻子氏
アメリカ産テントウムシ	1点	澤田宗一郎氏	Lindsaea	2点	梶原 秀高氏
長野県産ハネカクシ完模式標本	1点	伊藤 建夫氏	Vallisneria	26点	藤井 伸二氏
外国産昆虫	3957点	富永 修氏	近畿・中部地方産植物	138点	藤井 伸二氏
兵庫県産ヒラズゲンセイ	2点	菊田 幸雄氏	ツチアケビ(果実)	2点	末次 健司氏
鹿児島県産カイコガ卵など	8点	川上 幸恵氏	ミヤマミズ	1点	近畿植物同好会
ヤコンオサムシ卵	2点	井藤 竜大氏	近畿地方産外来植物	15点	植村 修二氏
大阪市内産等の甲虫類	121点	千代松信治氏	日本産ベニタケ属標本	17点	下野 義人氏
外国産昆虫	483点	春沢圭太郎氏	Pandanus sp.	1点	小山 栄氏
国内産甲虫	906点	春沢圭太郎氏	大本花明山植物園	300点	大本花明山植物園
外国産ハンミョウ模式標本	4点	堀 道雄氏	日本産菌類標本	100点	関西菌類談話会
日本産昆虫類	1011点	内田 正吉氏	■地史研究室		
北海道・長野産ハネカクシ完模式標本	3点	伊藤 建夫氏	シカ骨格標本	2点	樽野 博幸氏
大阪市内産テントウムシ	1点	齋藤 琢巳氏	グリーンイグアナなど	3点	海 遊 館
外国産セミ	2点	林 靖彦氏	ブラジル産しのぶ石・魚化石	2点	森 洋子氏
大阪市内産クマゼミ	1点	樋口みゆき氏	ネコ骨格	1点	樽野 博幸氏
国内外シテムシ科・コブスジコガネ科	1048点	春沢圭太郎氏	シカ骨格標本	1点	樽野 博幸氏
日本産昆虫	898点	稲畑 憲昭氏	シカ骨格標本	1点	樽野 博幸氏
沖縄産ハネカクシ完模式標本	2点	伊藤 建夫氏	泉南市産モササウルス類顎化石	1点	灘高校地学部
日本産昆虫	228点	春沢圭太郎氏	アカシゾウ下顎化石	1点	
大阪市内産甲虫	4点	山崎 一夫氏			山下 勝昭・広吉氏
大分県産テントウダマシ完模式標本	4点	生川 展行氏	香川県・徳島県・兵庫県の和泉層群産化石一式		金澤 芳廣氏
国内外産コメツキムシ等甲虫	64,800点	岸井 尚氏	岳山火山岩	2点	樽野 博幸氏
■植物研究室			GIA Japan大阪校所蔵スーザーコレクション		
寄贈および交換(*)標本			一式(約3500点)		松倉 利彦氏
Adenantha属種子	6点	小山 栄氏	世界および日本の化石	11点	中川 智陽氏
カワモズク	1点	道盛 正樹氏	大阪府泉佐野市産モササウルス歯化石	5点	新庄 哲也氏
タイワンツガ、ニイタカトウヒ	5点	初宿 成彦氏	サギ類幼鳥	1点	樽野 博幸氏
コケ植物標本	565点	狩野登之助氏	化石標本	一式	木村 隆氏
海浜植物標本	7点	和田 岳氏	アスナロピシを含む大型ブロック	1点	
大阪府産ハナショウブ、オオハウマノズクサ	2点	柳生 英喜氏			岡本 隆氏・堀 利栄氏
南三陸町植物標本	32点	高田みちよ氏	北海道産白亜紀の植物化石を含むノジュール		
ヤマサギソウ・カキラン	2点			2点	多川 吉男氏
有川佳代子・正田美知子氏			北アメリカ産古第三紀メタセコイア・ <i>Quereuxia</i>		

5点 フロリダ自然史博物館

■第四紀研究室

海浜砂	5点	大西 清美氏
海浜砂	11点	中尾 茂氏
海浜砂	1点	須藤 智氏
海浜砂	2点	三井 聖子氏
海浜砂	1点	石井 久夫氏
海浜砂礫	1点	西澤真樹子氏
海浜砂	29点	米澤 里美氏
海浜砂	35点	古谷亜矢子氏
海浜砂	1点	藤田 芙美氏
海浜砂	1点	下湯瀬可奈子氏
海浜砂	2点	鳥山奈々瑚氏
海浜砂	2点	大地 祥子氏
海浜砂	4点	横山 康子氏
海浜砂	18点	河野 芳美氏
海浜砂	1点	古本 良氏
大阪市内ボーリング資料	36件	大阪市都市整備局

II. 館員による資料収集

■動物研究室

担当学芸員は、波戸岡…H、和田…W、石田…Iと略記する。

- 和歌山県和歌山市で魚類を採集
(4月、6月、3月、H)
- 岡山県笠岡市、倉敷市、玉野市で魚類を採集
(4月、5月、H)
- 大阪府岬町で魚類を採集 (5月、9月、H)
- 瀬戸内海西部周防灘沿岸で魚類を採集 (9月、H)
- 愛媛県今治市で魚類を採集 (12月、H)
- 香川県東かがわ市で魚類を採集 (1月、H)
- 大阪府高石市でイルカ類死体を回収 (6月、W)
- 大阪府岬町でザトウクジラ死体を回収 (9月、W)
- 大阪府岬町・和歌山県和歌山市で海産無脊椎動物を採集
(4～7、9月、I)
- 岡山県笠岡市・倉敷市で海産無脊椎動物を採集
(4～5、9～10月、I)
- 大阪府で陸産貝類を採集 (6月、I)
- 大阪府で淡水貝類を採集 (7、3月、I)
- 山口県上関町で海産無脊椎動物を採集(7～8月、I)
- 瀬戸内海西部周防灘沿岸で海産無脊椎動物を採集
(9月、I)
- 愛媛県今治市で海産無脊椎動物を採集 (12月、I)
- 広島県廿日市市・香川県丸亀市・兵庫県明石市・愛媛県
松山市で漁業関係資料を収集 (12～1、3月、I)
- 宮城県仙台市で海産無脊椎動物を採集 (3月、I)

■昆虫研究室

日本産昆虫の平均的収集、大阪府産昆虫の完全な収集等の目的で、担当学芸員(金沢…K、初宿…S、松本…Mと略記)が行った出張は次の通り。調査研究や資料収集のほか、普及行事やその予備調査の際の出張も含めて記した。

4月4日	東大阪市枚岡	昆虫の卵・カメムシ (S)
4月5・6日	岡山県笠岡市	昆虫全般 (M)
4月9～15日	台湾	ツガのカサアブラムシ (S)
4月18日	此花区	オンブバッタ (M)
4月26日	高槻市	レンゲ畑の虫 (M)
4月28日	茨木市	ヤマトオサムシダマシ (S)
4月30日	琵琶湖	水生昆虫 (S)
4月30日	京都府宇治市	タケクマバチ (M)
5月2～5日	岡山県笠岡市・倉敷市	昆虫全般 (M)
5月7日	此花区	オンブバッタ (M)
5月9日	奈良県奈良市高円山	昆虫全般 (M)
5月10日	兵庫県三田市	ウスバカゲロウ (M)
5月10・23日	高槻市萩谷	甲虫(行事) (S)
5月13日	奈良県奈良市	昆虫全般 (M)
5月15日	奈良県奈良市	昆虫全般 (M)
5月24日	京都府大山崎町	昆虫全般 (M)
5月24日	滋賀県大津市びわ湖パレイ	アサギマダラ (K)
5月25日	奈良県奈良市	昆虫全般 (M)
5月27日	泉北ニュータウン	ハルゼミ (S)
5月27日	此花区	オンブバッタ (M)
5月29～31日	石川県珠洲市狼煙	アサギマダラ (K)
6月1日	奈良県奈良市	昆虫全般 (M)
6月2・4日	京都府八幡市	昆虫一般 (S)
6月6日	東大阪市枚岡	昆虫の卵・カメムシ (S)
6月7日	奈良県十津川村釈迦ヶ岳	昆虫全般 (M)
6月10・14日	八尾市高安地区	昆虫全般 (K)
6月12日	東大阪市生駒山	ハルゼミ・昆虫の卵 (S)
6月13日	富田林市嶽山・河内長野市	ハルゼミ・オトシブミ (S)
6月14日	大阪市住之江公園	昆虫の卵 (S)
6月15日	奈良県生駒市	マルカメムシ (M)
6月17日	此花区	オンブバッタ (M)
6月20日	兵庫県香美町美方高原	昆虫全般 (K)
6月20～26日	沖縄県与那国町、竹富町	オンブバッタ (M)
6月25～28日	中国広西・花坪原生林	移動チョウ (K)
6月22・23日	奈良県十津川村	ヒメハルゼミ・昆虫の卵 (S)
6月28日	大阪城公園	クモ (M)

資料収集保管事業

9月7～10日	熊本県阿蘇市	植物一般 (Y)	凍結割れ目はぎ取り標本、海浜砂 (N)
9月10～11日	宮城県本吉郡南三陸町	植物一般 (S)	7月14日 長野県長和町 流紋岩・黒曜石 (I)
9月14～16日	周防灘沿岸	海岸植物 (Y)	9月14～16日 福岡県行橋市・大分県中津市
9月14～18日	鹿児島県屋久島	ママコナ属 (H)	海浜砂 (N)
9月13日	島本町若山神社	植物一般 (S)	9月30日～10月1日 岡山県笠岡市北木島
10月5～6日	熊本県高森町	植物一般 (Y)	海浜砂 (N)
10月12～14日	愛媛県・高知県	植物一般 (Y)	12月8～10日 三重県南伊勢町・大紀町・御浜町
10月14日	大阪市	植物一般 (H)	海浜砂礫 (N)
10月20～22日	鳥根県大田市三瓶山	植物一般 (Y)	1月20～21日
11月16～17日	岡山県蒜山	植物一般 (S, Y)	香川県沿岸 海浜砂、風化花こう岩、瀬戸内火山岩類 (N)
11月18日	大阪府泉南市	植物一般 (H)	2月18～19日 香川県高松市男木島・女木島
11月26～27日	熊本県高森町	植物一般 (Y)	海浜砂 (N)
12月21日	滋賀県草津市	外来植物 (H)	3月7～9日 長崎県対馬市
1月12日	滋賀県守口市	外来植物 (H)	海浜砂、対州層群岩石 (N)

■地史研究室

担当学芸員は、川端…K、塚腰…T、林…Hと略記する。

8月21日	新潟県上越市・糸魚川市	鮮新世～更新世堆積岩 (K)
8月31日～9月5日	北海道中川町	アンモナイト・貝化石 (H)
9月8日	愛媛県 久万層群産植物化石 (T)	
9月13日	泉南市 アンモナイト化石 (H)	
9月14日	長野県長野市	鮮新世～更新世堆積岩 (K)
9月17日	香川県さぬき市	アンモナイト化石・ウミガメ化石 (H, T)
9月30日	湖南市 古琵琶湖層群産植物化石	
11月5日	滋賀県湖南市野洲川	古琵琶湖層群産植物化石 (K, T)
1月22～24日	熊本県宇土市・上天草市	鮮新世～更新世堆積岩 (K)
11月12日	彦根市 最終氷期泥炭層 (T)	
2月29日	泉南市 アンモナイト化石 (H)	
3月13～15日	宮城県南三陸町	三疊紀動物化石、堆積岩 (K)
3月24～27日	愛媛県郡中層および久万層群産植物化石・岩石 (T)	

■第四紀研究室

担当学芸員は、石井…I、中条武司…Nと略記する。

5月22日	長野県木曾町・王滝村	火山灰試料 (I)
5月30～31日	長野県王滝村	火山灰試料、安山岩溶岩 (I)
7月12日	滋賀県高島市	古琵琶湖層群火山灰試料 (I)
8月2～6日	北海道稚内市・猿払村など	

Ⅲ. 資料

■動物研究室 (平成27年度末)

海綿動物	135点
刺胞動物・有櫛動物	709点
扁形・紐形動物	445点
触手動物	149点
環形動物	6,989点
甲殻類	16,179点
軟体動物	37,801点
棘皮動物	2,944点
原索動物	471点
その他無脊椎動物	1,034点
魚類	43,983点
両生類	22,043点
爬虫類	7,897点
鳥類	7,456点
哺乳類	3,002点
(計)	151,237点

■昆虫研究室 (平成27年度末、未登録標本を含む)

標本総数	1,037,955点
日本産昆虫	
カワゲラ目	534
カゲロウ目	10,183
トンボ目	18,800
カマキリ目	625
直翅目	23,402

ナナフシ目	516
ハサミムシ目	563
ガロアムシ目	99
ゴキブリ目	575
シロアリ目	93
シロアリモドキ目	25
チャテテムシ目	335
アザミウマ目	24
同翅類（カメムシなど）	15,129
異翅類（セミなど）	30,363
脈翅目	1,747
シリアゲムシ目	1,945
トビケラ目	2,284
蛾（ガ）	65,630
蝶（チョウ）	77,708
甲虫目	362,678
ハエ目	48,545
ハチ目	45,175
その他（各目）	17,006
クモなど	16,928
<hr/>	
（計）	740,912

<hr/>	
外国産昆虫	
<hr/>	
蝶（チョウ）	83,809
蛾（ガ）	7,775
ハチ目	5,446
ハエ目	3,527
甲虫	150,173
脈翅目	133
同翅類（セミなど）	6,415
異翅類（カメムシなど）	2,217
直翅型昆虫	6,526
トンボ目	1,394
カワゲラ目	66
その他（各目）	3,192
クモなど	1,582
南太平洋学術調査コレクション	4,700
田中竜三氏コレクション	12,439
韓国産昆虫コレクション	1,506
アフガニスタンの昆虫	6,143
<hr/>	
（計）	297,043

■植物研究室（平成27年度末、未登録標本を含む）

種子・シダ植物さく葉標本	285,677
蘚類標本	36,600
苔類標本	23,850
地衣類標本	353
海藻標本	12,708
菌類標本	17,900
木材標本	1,772
木材プレパラート	1,283
果実標本	6,071
<hr/>	
（計）	386,214

■地史研究室（平成27年度末、登録済標本数）

岩石	1,275点
鉱物	3,035点
脊椎動物化石	1,783点
古生代無脊椎動物化石	1,370点
中生代無脊椎動物化石	3,090点
有孔虫等微化石プレパラート	17,841点
放散虫化石	135点
古生代植物化石	185点
中生代植物化石	369点
第三紀植物化石	3,741点
<hr/>	
（計）	32,824点

■第四紀研究室（平成27年度末、登録済標本数）

人類遺物	29点
植物化石	25,974点
現生花粉プレパラート	2,114点
現生花粉	941（種）
現生シダ植物胞子	362（種）
無脊椎動物化石	5,564点
大阪市内ボーリング資料	1,719（件）
<hr/>	
（計）	36,703点（件・種）

IV. 自然史図書の収集と活用

当館の資料収集活動の一環として、自然史科学に関係した図書資料の収集を行っている。その大部分は当館発行物との交換で収集しているものであるが、個人、出版社、団体、自治体、政府機関等からの単行

資料収集保管事業

本、各種報告書等の寄贈や、当館予算による購入によるものもある。

普及書的な図書や図鑑類は、大半を「花と緑と自然の情報センター」内の自然の情報センターに配架し、入館者の閲覧と、市民からの各種の相談や質問への対応に使用されている。

専門図書は主として各研究室に、調査報告書・逐次刊行物は書庫に配置されている。また各種地図の収集も行っている。これら専門図書の閲覧や利用の希望が近年増加してきているが、司書が配置されていないため、市民が直接利用できる体制はとれていない。コピーサービスについては、学芸員が文化庁の著作権実務講習を受けることによって、法的には実施可能な体制を整え、自然の情報センターにおいて市民の要望に応えられるように備えているが、現在のところ、サービスを開始できていない。

平成9年度に開始した交換・寄贈による逐次刊行物と寄贈・購入書籍のコンピュータへのデータ入力は、平成27年度（2015年度）も、新しく受け入れたものについて引き続きおこなっている。

平成27年度末までにデータ入力をおこなった電子出版物を含む図書は、289部で、入力済み収蔵数は15,504部である。また、交換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物と調査報告書は平成27年度に2,792冊、平成27年度末現在の累計198,306冊である。

1. 個人・機関からの受贈（登録済みの分のみ。交換分は除く、敬称略）

●**個人**：林勇夫、林美英、平野弘二、富永則子、渡邊淳一、長田勝、秩父志行、池田良幸、西澤真樹子、水野弘造、小山栄、室戸美紀、市川顕彦、山西良平、三時輝久、黒住耐二、幸塚久典、吉松定昭、岩間春芽、横田真理子、塚腰実、初宿成彦、佐久間大輔、松本吏樹郎、石田惣

●**民間団体、出版社、企業など**：有限会社むし社、辻井隆昭さんを偲ぶ会、長良川鶉飼文化の魅力発信事業実行委員会、大日本図書、共立出版株式会社、株式会社平凡社、株式会社東京美術、株式会社小学館「週刊ビッグコミックスピリッツ」編集部、株式会社学研教育出版、株式会社学研プラス、ブティック社、トヨタ自動車株式会社 社会貢献推進部、だんじりを活かした地域共働事業実行委員会、さかだちブックス、こどもひかりプロジェクト、きつつき21編集部、JT生命誌研究館、昆虫文献六本脚、北海道大学出版会、東海大学出版部

●**政府機関及び自治体及び関連団体、大学、研究所など**：（地独）北海道立総合研究機構地質研究所、AWF滋賀むしの会、CISEネットワーク事務局、か

んさい・大学ミュージアムネットワーク、こうちミュージアムネットワーク、なごや生物多様性保全活動協議会、のだふじの会、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会、フィールドソサイエティ、ふじのくに地球環境史ミュージアム、マダガスカル研究懇談会事務局、愛知県陶磁美術館、安威川ダム建設事務所、宇都宮大学教育学部、滑川市立博物館、株式会社地域環境計画、茅ヶ崎市教育委員会、環境局自然環境局生物多様性センター、環境省、環境省近畿地方環境事務所、環境省庁連絡会議、京丹後市役所、京都大学生態学研究センター、京都大学総合博物館、京都府自然環境保全課、金沢大学理工研究域、九州大学総合研究博物館、熊本県博物館ネットワークセンター、公益財団法人京都服飾文化研究財団、公益財団法人笹川平和財団海洋政策研究所、公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団、公益財団法人土佐山内家宝物資料館、公益財団法人日本学術協力財団、公益社団法人大阪自然環境保全協会、高槻市今城塚古代歴史館、国土交通省近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所、国立科学博物館はくボランティア変形菌・きのこグループ、国立研究開発法人森林総合研究所、堺野鳥の会、産業技術総合研究所地質調査総合センター、滋賀県、神戸・阪神間美術館・博物館連携プログラム実行委員会、神奈川県博物館協会、吹田市教育委員会、西日本高速道路株式会社関西支社、全国美術館会議、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、総合地球環境学研究所、大阪府、大分自然博物誌編集委員会、地球環境関西フォーラム、町見郷土館、長野県立歴史館、都島区役所、東京貝類同好会、東京都美術館、東北植物研究会、東北大学植物園、独立行政法人国立文化財機構、灘高等学校、南方熊楠研究会準備委員会、日本野鳥の会京都支部、白山産大型菌類調査報告書編集委員会、兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課、北海道博物館友の会設立実行委員会、名古屋市、名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課、明治地域活動協議会/明治連合振興町会、練馬区立石神井公園ふるさと文化館、和歌山県教育委員会、

2. 購入等によるもの

●**図書購入費による購入**（科研費によるものは除く）
平成27年度 30冊

●**消耗品費による購入**
国内7誌

[平成27年度購入雑誌]

国内：科学、遺伝、海洋と生物、月刊地球、別冊地球、月刊海洋、別冊海洋。

●学会への加入による収集

10学会へ団体会員として加入し、会誌を収集した。学会名は以下の通りである。この他にも、多く収集すべき学会が国内外に多数あるが、予算の状況から入会できていないのが現状である。

日本動物学会（動物学雑誌）

日本生物地理学会（Biogeography, 日本生物地理学会会報）

日本衛生動物学会（衛生動物）

日本遺伝学会（遺伝学雑誌）

日本藻類学会（The Japanese Journal of Phycology, 藻類）

日本陸水学会（Limnology, 陸水学雑誌）

日本地学研究会（地学研究）

日本博物館協会（博物館研究）

全国科学博物館協議会（全科協ニュース）

国際トンボ学会（ODONATOLOGICA）

この他、交換により、会誌を受領している学会も多い。

3. 文献交換状況

当館発行の研究報告・自然史研究・収蔵資料目録・展示解説・館報および大阪市立自然史博物館友の会発行（当館編集）Nature Study と交換に、国内国外の研究・教育機関と文献交換を行っており、各種自治体・団体・個人から調査報告書等の寄贈を受けた。

■研究報告など出版物の配布

2015年度の配布は以下の通り。

	国内		国外	
研究報告687号	470ヶ所	480冊	399ヶ所	401冊
自然史研究 第3巻16号	364ヶ所	374冊	178ヶ所	181冊
収蔵資料目録 第47集	238ヶ所	247冊	53ヶ所	54冊
展示解説 第46回特別展解説書 トリケラトプス展 図録 ミニガイド No.27	268ヶ所	278冊	0ヶ所	0冊
館報 40号	664ヶ所	673冊	11ヶ所	11冊

展 覧 事 業

自然史博物館の展示は、常設展示を主体とし、特別展示、特別陳列が、これを補っている。常設展示室としては、旧来の博物館建物（以下本館）にナウマン・ホールならびに第1～第5展示室があり、平成13年4月にオープンした「花と緑と自然の情報センター（略称：情報センター）」1階には、地域自然誌展示室がある。特別展示は情報センター2階のネイチャー・ホールで開催している。特別陳列はネイチャー・ホールまたは本館2階のイベント・スペースで開催している。

平成27年度の常設展入館者数は、常設展214,822人（うち有料87,263人）、特別展115,205人（うち有料41,419人）であった。常設展、特別展を合わせた総入館者数は、330,027人であった。常設展入館者は前年度比103.5%で7,296名増、総入館者数も前年度比2,381名増となった。

I. 常設展

常設展示は「自然と人間」を基本テーマとし、具体的に身近な自然現象から出発し、分野的、地理的に、そして歴史的にも視野を広げることによって、人と自然とのかかわりをも含めた自然界の法則性に至ろうとする考えのもとで展開されている。したがって、本館の展示は、一つのストーリーに従って組み立てられている。本館入口のナウマン・ホールでは、上記の基本テーマに基づき、自然史博物館の展示のねらい、すなわち、私たち人間が、どのように自然とかかわってきたのか、そしてこれから、どう自然とつきあっていけばよいのか、ということ、を、象徴的に展示している。

第1展示室「身近な自然」と第2展示室「地球と生命の歴史」では、身近な大阪の自然から出発して、その歴史を地球の誕生まで遡り、第3展示室「生物の進化」では、その地球上のさまざまな環境において、生物は、他の生物と関わりを持ちながら、常に進化し分布を広げようとしてきたし、今もそうであることを述べている。締めくくりの第5展示室では、「生き物のくらし」をテーマに、生き物たちは、生き物同士、そして私たちの生活と、どのようにつながって、どんな環境でくらしているのかを、展示している。

情報センター1階の「大阪の自然誌」展示室は、大阪の自然に関するものはすべて知りたいという市民の要望に応えることをめざしたものである。ここでは、大阪各地域の自然の特徴を地域ごとに解説する展示、大阪で見られる生物や化石の標本をできるだけ網羅するコーナー、そしてパソコンによる大阪の自然に関する情報検索コーナーを設け、多くの市民が大阪の自然について自主的に学ぶことが可能な施設となっている。さらに、学芸員による相談コーナーが、情報検索

コーナーに隣接した場所に設けられ、常時、市民の質問に答えられる体制をとっている。

平成27年度には、2月の休館期間中に第1展示室と第3展示室のあわせて3コーナーの展示更新を実施し、第2展示室の解説パネルの一部を更新した。第1展示室では「9 淀川 河川敷とワンド」の展示内容が地域自然史展示室と重なっていたため、「9 外来生物の影響」に全面的に展示内容を変更した。第3展示室では、「20B 植物も動く 種子散布」の展示が古くなっていたので、テーマと展示構成はそのままに展示物の大部分を入れ替えた。「21A 花と動物」のハナバチの模型が第5展示室に移動となって空きスペースができていたので、花粉媒介のテーマは変えずに、ハナバチに限らず、花に来て花粉を運ぶさまざまな昆虫や鳥を展示した。

II. 特別展

特別展示は、地元大阪とその周辺地域の自然誌を紹介したり、学芸員の研究成果を広く市民に還元するという趣旨で、開催してきた。13年度からは、ネイチャーホール新設を契機として、新聞社などが企画する、自然史科学あるいは生命科学に関する展覧会を積極的に誘致し共催することによって、さらに広い分野の展覧会を市民に提供することとしている。館主催特別展のテーマについては、少なくとも数年先までの計画を立てている。

(1) 第46回特別展「たまごとたね ーいのちのはじまりと不思議ー」

本特別展では、多様なタマゴ、タネを展示するとともに、タマゴとタネを「対決」という形で比較しながら、子孫を残すためや分布を広げるための仕組みについて紹介した。

殻をもつようなタマゴの多くは自ら動くことができず、それらを守るために親が様々な工夫をしている。一方で、自分では動けない植物にとって、タネの時期は分布を広げるチャンスである。このためタネには分布を広げるための様々な工夫が施されている。展示では、このようなタマゴ、タネの生き残りをかけた戦略や生態について学べるよう工夫し、また、その結果生み出されたタマゴとタネの多様な形と色を実感できるように、様々な生態、生活史を持つ動植物のタネ、タマゴを展示した。

●内容（主な展示物）

タマゴとしては、エピオルニス（史上最大のタマゴ）、ダチョウ、キーウイ、その他各種鳥類、軟体動物、魚類、昆虫類、両生類、爬虫類等のものを展示した。鳥類、昆虫類等は親の標本についても展示した。

タネとしては、フタゴヤシ（世界最大のタネ）風散布のもの、ひつつきむし各種、海流散布のもの、ラン科植物などの小さいタネ、胎生種子、ドングリなど貯食型散布のもの、鳥散布のもの等を展示した。このほか、スクミリンゴガイ、タイリクバラタナゴなどの生品展示を行った。このほか、スーパーボールを用いて、大卵少産と小卵多産が実感できる展示や、滑車により飛ぶタネの模型を展示室の天井近くまで上げ、飛ばしてみることができタネリフト等のハンズオン展示も設置した。展示は「きれいなのはどっち?」「へんな形なのはどっち?」などの22のテーマを設け、それぞれのテーマの中で、観覧者が解説パネルや担当学芸員のアピールを読みながら、タネとタマゴを比較していく「対決」形式とした。観覧者には投票用紙も配り、テーマごとに勝ったと思う方をチェックし投票してもらった。

●会 期：平成27年7月18日（土）～10月18日（日）

●主 催：大阪市立自然史博物館

●後 援：大阪府教育委員会

●協 力：伊丹市昆虫館、大阪市立中央図書館、大阪府立環境農林水産総合研究所、大阪府立豊中高等学校生物研究部、海遊館、橿原市昆虫館、神奈川県立生命の星・地球博物館、京都大学iPS細胞研究所、京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所、京都大学理学研究科生物科学図書室、近畿大学水産研究所大島実験場、倉敷市立自然史博物館、神戸市立須磨海浜水族園、国立研究開発法人水産総合研究センター 増養殖研究所、千葉県立中央博物館分館海の博物館、天王寺動物園、動物行動の映像データベース、長居パークセンター、日本野鳥の会大阪支部、八尾市歴史民俗資料館

●観覧料：大人500円、高校生・大学生 300円（30人以上団体割引あり）、中学生以下無料。本館（常設展）とのセット券は、大人700円、高大生400円。障害者手帳などをお持ちの方、市内在住の65歳以上の方（要証明）は無料。期間フリーパス（一般1000円、高大生600円）。期間フリーパスは特別展会期中に限り、ネイチャーホールのみ何度でも入館可能。

●入場者：21,489人。有料合計6,184人、28.8%（大人5177人、高大生599人、フリーパス大人237人、フリーパス高大生1人、団体大人129人、キャンパスメンバーズ41人）。無料合計15,305人、71.2%（中学生以下5,956人、高齢者1,322人、その他個人2,713人、団体5,314人）。

●キッズマップ・パネル：子どもに展示の見どころを、楽しく、判りやすく伝えるために、キッズマップ・パネルを設置し、キッズマップ（A4判両面刷り）を配布した。子ども向けを意識して、イラストを

用い、平易な表現を用いたため、大人の来場者にとっても、展示を見学する手がかりとして機能していた。

●展示見学ワークシート：多くの中学生や高校生に、課題意識を持ちながら展示を見学してもらうために展示見学ワークシート（A3判両面刷り）を作成し、中学校、高等学校に配布した。

●展示解説書：「動かないタマゴと動くタネのひみつ」というタイトルをつけ、展示構成にこだわらず、様々なタネ、タマゴを紹介するとともに、タマゴとタネをめぐる生物の関係や、タマゴとタネの利用について紹介した。カラーページ12ページ、本文92ページ。

●連携展示：大阪市内の図書館12館および府立図書館において、会期前から会期中の4月～10月にミニ展示を行った。また、8月にインテックス大阪において開催された夏休みこども冒険博でもミニ展示を行った。

●関連行事

・子どもワークショップ

特別展会場のワークショップスペースにおいて、小学生以下を主な対象として、3種類のワークショップを実施した。

「おしえてハカセ 鳥たまご」：タマゴと巣の関係について標本を見ながら紹介。展示してある巣やタマゴを見学後、タマゴの模型作りや巣の様子を考えながらスケッチを行った。1日3回、1回につき60分のプログラム。7月25日、7月26日、8月1日、8月2日。参加者175名

「くらべっこ たね・たまご」：自分だけのタネとタマゴの「くらべっこ」のテーマを設定し、展示室でタマゴとタネをスケッチした。1日6回、1回あたり30分のプログラム。8月8日、8月9日、8月15日、8月16日、8月22日、8月23日、9月12日、9月13日。参加者343名。

「実験！タネたねハカセ」：ハカセからタネの役割について話を聞き、種子散布の実験を紹介した後、参加者にタネを使った種子散布の実験をしてもらった。実験ノートを作成。1日3回、1回につき60分のプログラム。8月29日、8月30日、9月22日、9月23日。参加者121名。

・特別展普及講演会「タマゴの模様をめぐる托卵鳥と宿主の共進化」

カッコウの托卵行動を軸に、托卵する側とされる側のタマゴの模様をめぐる攻防について紹介。

日 時：7月18日

場 所：大阪市立自然史博物館 講堂

講 師：高須夫悟氏（奈良女子大学）

参加者：66名

・特別展普及講演会「タネのはなし、ときどきタマゴも」

展 覧 事 業

タネの形態・色に秘められた様々な種子散布の工夫を紹介。

日 時：8月15日

場 所：大阪市立自然史博物館 講堂

講 師：岡本素治氏（きしわだ自然資料館）

参加者：56名

・ギャラリートーク

主に毎週土曜日に担当学芸員が展示を紹介した。7月25日、8月1日、8月8日、8月15日、8月22日、8月29日、9月5日、9月12日、9月19日、9月26日、10月3日、10月10日、10月11日、10月17日に実施。参加者366名。

・投票結果発表会

タマゴとタネの対決項目ごとに投票結果の発表を行った。8月22日中間結果発表会、10月10日に最終結果発表会を行った。

・その他

8月14日に谷口高司氏による「谷口高司のたまご式鳥絵塾」を実施した。参加者40名

(2) 特別展「スペイン奇跡の恐竜たち」

●会 期：平成27年3月21日（土）～5月31日（日）
66日間（うち平成27年度は55日間）

●会 場：大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール
（花と緑と自然の情報センター2階）

●主 催：大阪市立自然史博物館、読売新聞社、読売テレビ

●後 援：スペイン大使館、大阪スポーツみどり財団（長居植物園）、大阪府公衆浴場生活衛生同業組合

●協 賛：大和ハウス工業、ダイワボウ情報システム

●特別協力：スペイン教育・文化・スポーツ省、カステイリャ＝ラ・マンチャ州、カステイリャ＝ラ・マンチャ州立博物館、マドリード自治大学、スペイン国立通信教育大学

●学術協力：福井県立恐竜博物館

●協 力：国立科学博物館、栃木県立博物館、兵庫県立人と自然の博物館、北海道大学総合博物館、丹波竜化石工房 ちーたんの館

●観覧料：大人1,000円、高大生700円。特別展入場料にて、自然史博物館常設展（大人300円、高大生200円）も入場可能。中学生以下、障がい者手帳などなどをお持ちの方は無料。30人以上の団体割引あり。

支倉常長（はせくらつねなが）を大使とする慶長遣欧使節団派遣（1613年）から400年にあたる2013年から2014年にかけて、日本とスペインで「日本スペイン交流400周年事業」として、特別展「スペイン 奇跡の恐竜たち」が企画された。本展では、中生代白亜紀

（約1億4500万年前から6600万年前）のスペインの地層から見つかった肉食恐竜「コンカベナトル」と日本の肉食恐竜「フクイラプトル」が近縁な関係であることから、これらの恐竜を比較するとともに、スペインの様々な恐竜を紹介した。2010年にイギリスの科学誌「ネイチャー」で発表された、腰部分に奇妙な突起をもち、羽毛や手足の裏の肉球のあとが残る“奇跡的”な保存状態の恐竜「コンカベナトル」の全身骨格標本をはじめ、スペインから発見されている白亜紀の様々な恐竜化石や初期の鳥類化石、そして生息環境を示す動植物の化石を多数展示した。

日本ではこれまで、北アメリカ、南アメリカ、モンゴル、中国などで産出した恐竜化石がしばしば紹介されてきたが、スペインも世界有数の恐竜化石産地である。これほど大規模なスペイン恐竜展は国内では初めてで、展示物もほぼすべてが日本初公開となった。また本展示では、当館学芸員の「恐竜の骨組織」の研究成果も展示し、新しい切り口で恐竜研究の展示を行った。

●入場者：110,681人。有料42,296人（38%）、無料入場者68,385人であった。うち平成27年度の入場者は93,716人。

●関連行事

3月20日（金）	内覧会	242名
3月21日（土）	自然史オープンセミナー（3月） 「スペイン奇跡の恐竜たち」	107名
3月21日（土）	ギャラリートーク	43名
3月26日（木）	「恐竜の化石産地を観察しよう」	29名
3月28日（土）	ギャラリートーク	43名
4月4日（土）	ギャラリートーク	28名
4月11日（土）	ギャラリートーク	28名
4月11日（土）	ジオラボ（4月）「恐竜のかざり」	51名
4月18日（土）	ギャラリートーク	23名



図1. 特別展「スペイン奇跡の恐竜たち」展示風景
左側に写っている背ビレのある恐竜はコンカベナトルの生体復元模型

4月18日(土)	自然史オープンセミナー(4月)	
	「スペインの恐竜・植物・昆虫の化石」	64名
4月19日(日)	子どもワークショップ(4月)	
	「おしえてハカセ恐竜のハネ」	46名
4月25日(土)	ギャラリートーク	20名
4月26日(日)	子どもワークショップ(4月)	
	「おしえてハカセ恐竜のハネ」	46名
5月2日(土)	ギャラリートーク	33名
5月9日(土)	ギャラリートーク	55名
5月18日(土)	ジオラボ(5月)	
	「中生代の植物化石」	31名
5月16日(土)	ギャラリートーク	60名
5月23日(土)	ギャラリートーク	23名
5月30日(土)	ギャラリートーク	47名

Ⅲ. 特別陳列

特別陳列は、特別展と同様な趣旨で行っているが、より小規模なもの、あるいはテーマを絞ったものであり、また市民からの寄贈品・コレクションの紹介も含めて、随時実施している。

■ミニ展示「タンポポの不思議を探ろう」

サクラや菜の花同様、誰もが春の花としてその名を知るタンポポ。春休み、そして春の遠足シーズンを前に、タンポポのちょっとした生態とともに自然史博物館が開発した学校向け貸出教材の紹介の意味を含めて、本館1階入口脇の展示スペースで平成27年2月17日から6月30日まで展示を行った。

■ミニ展示「高校生が見つけた大阪のモササウルス類」

兵庫県灘高校の生徒が泉南市の山中でみつけ、当館に寄贈されたモササウルス類化石をナウマンホールにて、平成27年5月5日(火)～6月19日(金)に展示した。

■ミニ展示「植物食恐竜ステゴサウルスの骨から感染症の証拠を発見！」

世界で初めて、恐竜の多発的な感染症の痕跡、およびステゴサウルスで初めて、骨の表面に現れない骨内部への感染症を、当館学芸員が発見した。その研究に用いた標本を、平成27年8月26日(火)から9月28日(日)まで、本館第2展示室ステゴサウルスの全身骨格の前で展示した。

■2015年国際土壌年記念巡回展「土ってなんだろう？」

会 期：平成27年9月19日(土)～10月18日(日)
 会 場：大阪市立自然史博物館 本館2階イベントスペース

主 催：大阪市立自然史博物館、埼玉県立川の博物館
 共 催：日本ペドロロジー学会、一般社団法人日本土壌肥料学会、ミュージアムパーク茨城県自然博

物館

後 援：国立研究開発法人 農業環境技術研究所、日本土壌動物学会

協 賛：公益社団法人 日本左官会議

協 力：INAX ライブミュージアム(LIXILグループ)、眞藤憲政、鈴木忠(慶應義塾大学)、鈴木智也(信州大学)、福島釉薬株式会社、宮本卓也

主な展示物：日本各地の土壌モノリス標本を中心に約100点

■来館者1,000万人突破記念展示「大阪市立自然史博物館が開館した1974年」

現在の場所で「大阪市立自然史博物館」として開館して以来、10月10日で来館者1,000万人になった。開館した1974(昭和49)年当時の長居公園周辺や博物館の写真、開館告知のポスターや第1回特別展のポスター、2006年まで本館に展示していた、大阪万博由来のヘラジカの剥製など、当時を振り返る懐かしの品々を展示した。

会 期：平成27年10月10日(土)～11月8日(日)

会 場：本館1階・ナウマンホール



図2. 1,000万人目のご家族との記念写真

■ジュニア自由研究標本ギャラリー

会 期：平成27年12月5日～平成28年1月31日

場 所：本館2階イベントスペース

主 催：大阪市立自然史博物館

小中高生が日頃から採集している標本や夏休みの自由研究を展示した。生き物や化石・岩石がテーマの作品を対象とし、関連する分野の学芸員による手書きの講評を付けた。昨年までは、「夏休み自由研究・標本展」としていたが、今年からは夏休みの自由研究にこだわらず小中高生の成果物を対象にした。

Nature Study11月号で募集をし、23名と1団体の小中学生の作品が集まった。展示した作品の分野は、昆虫が9点、植物が6点、化石が2点、総合が2点、鳥が2点、貝・甲殻類が2点、キノコが1点、古生物が

展 覧 事 業

1点、哺乳類が1点であった。総合は、ある地域の生物相について分類群を限らずに調べたものや、河川環境から生物相まで幅広く調べたものであった。地学系の出展が少なかったため、来年度に期待したい。学年別では、小学1～2年生が8点、小学3～4年生が5点、小学5～6年生が7点、中学生が4点、高校生が0点であった。今後は中高生からの応募にも期待したい。なお、1人が複数点応募したケースがあったため、分野別の点数と学年別の点数の合計数は一致しない。

■ミニ展示「骨を硬く緻密にすることで体を支えた重量型の大型恐竜・哺乳類」

研究で使用した大阪市立自然史博物館所蔵のゾウと恐竜の化石標本を展示した。標本を切断し骨組織を調べたことで、重量型巨大脊椎動物の進化に関する新たな発見につながった。標本は本館・第2展示室ステゴサウルスの全身骨格の前にて、平成27年12月11日（金）～平成28年1月31日（日）に展示した。

■・ミニ展示「しぜんしワークショップ展」

11年に及ぶ当館の子供向け普及活動の歴史を、約200作品に及ぶ作例やワークショップの小道具などで振り返る展示。平成27年12月20日（日）～28年1月31日（日）までナウマンホールで開催した。多くの博物館関係者の興味を集めた。詳細は別途記録集を参照。関連して、1月9日には「ワークショップ研究会」を開催し、各博物館から39名が参加した。

■新春企画「サルにちなんだ生き物たち」

申年にちなみ、サルにちなんだサル以外の生き物ということで、植物の「サルノコシカケ」や「サルトリイバラ」、貝の「サルボウ」、昆虫の「アカガネサルハムシ」など12種を1月5日（火）～1月31日（日）の間に展示した。

■ミニ展示「マツボックリ化石にミキマツ (*Pinus mikii*) と命名一名前が無くなった化石に新たな名前を与える」

期 間：平成28年3月1日（火）～6月19日（日）

場 所：本館第2展示室「地球と生命の歴史」

オオミツバマツ（三葉松の化石種）の化石を研究した結果、学名が変更されることになった。その変更の過程で、よく見つかる化石であるにもかかわらず名前を失ったものが発生し、その化石に対し、新たな名前として「ミキマツ」と命名した。研究の元になったオオミツバマツおよびミキマツの化石（当館所蔵標本）を展示した。

IV. 館外での展示

市立図書館・市民学習センターなどの依頼に応じて、また特別展の広報を兼ねて、小規模な移動展示を行っている。

■「夏休み こども冒険博」

期 間：平成27年7月25・26日、8月1～16日

会 場：インテックス大阪

主 催：（一財）大阪国際経済振興センター、テレビ大阪

後 援：大阪府、大阪市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会

協 力：大阪市立自然史博物館他

概 要：「出張 大阪市立自然史博物館 たまごとなね、世界のチョウ、大阪の化石」というタイトルで、同時期に開催中の特別展のダイジェスト展示を中心に紹介した。

V. 「たんけんクイズ」

平成8年7月より「自然史探検すくらっちクイズ」を実施してきた。入館時、小中学生に各1枚手渡し、5問中正解4問以上の場合には、絵はがきまたは昆虫カードを記念品として配布している。ただし学校団体での見学は対象外としている。

問題のカードは各5問で、当初は10種類であった。平成16年7月からは、あらたに低学年（小学1～3年生）向けに4種類のカードを制作し配布を始め、従来のカードは4年生～中学生向けとした。

さらに平成17年7月以降の土・日曜日には、専任スタッフによるカードの配布を開始した。その際カードに自由に書き込みできる用紙を添付し、毎月テーマを決めて参加者に絵を描いてもらい、その絵を館内に掲示するなどした。

平成18年3月からは名称を「たんけんクイズ」にあらためた。平成24年度の春には、第5展示室の問題を入れるなど、改訂を行った。

VI. その他

- (1) 「関西文化の日」の11月14日（土）ならびに15日（日）を無料開放とした。
- (2) 4月6日（月）・27日（月）に臨時開館した。
- (3) 平成28年2月1日（月）～29日（月）に改修工事のため本館のみを臨時休館とした。

I. 各種普及教育活動

市民が自然をより深く理解するためには、展示を見るだけでなく、野外で実物の自然に触れることも重要である。自然史博物館ではこのような観点から、多様な博物館利用者とその要望に応えるため、各種の普及行事を行っている。観察会のテーマの多様化と参加者数の増加にともない、館外からの講師を招いている（**印）。また、市民の社会奉仕活動への参加意欲を満ち、よりきめ細かい普及教育活動を行うために、普及行事にボランティアによる補助スタッフを導入している（*印）。補助スタッフ制度は、下見を兼ねた事前学習や学習会等をそれぞれの行事について行うのが特徴であり、補助スタッフにとっては少人数制の中身の濃い学習の場として活用されている。各種行事はこうした多数の方々の理解と協力によって支えられている。特に2007年度より、野外学習会や野外実習・室内実習などの行事を、特定非営利活動法人大阪市自然史センターとの共催で実施している。自然史センターとの連携により、柔軟な講師配置、補助スタッフによるサポート体制の拡充、より充実した教材の提供を行う事が可能になり、行事の質の向上につながるものと考えている。

近年、自然観察や、標本作りをする人が減少していると言われている。若い世代の標本作りや自然観察への支援を強化するために、昨年度より標本作製関係の行事を増やした。また、小中高生による夏休み自由研究や標本を展示する「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」も引き続き行っている（詳細は展覧事業31～32ページ）。今後も、若い世代の自然観察や標本作りを支援する普及行事や展示に力を入れて継続する予定である。

これら普及教育事業の開催は226回、参加者総数は26,537人（昨年度は38,882人）であった。以下に各行事の記録を、行事名、実施場所、実施月日、参加者数の順に略記する。なお、各種特別展に関連して実施した普及行事はここでは略記するか省略した。行事の詳細は展覧事業29～31ページの各特別展関連事業の項を参照のこと。

■やさしい自然かんさつ会

これまでに自然史博物館の行事に参加したことのない人を主な対象に、自然の面白さを野外で直接体験してもらい、自然に親しむ糸口をつかんでもらうことをねらいとした行事。普及行事の中では初級向け。独自の広報用チラシを作成し、区役所、社会教育施設および当館内で配布し、野外活動に参加したことのない新しい層の開拓に努めている。

定員を超過した行事もあるが、自然史センターとの共催に伴い外部講師を増員して抽選率を緩和した行事もある。また補助スタッフの導入により、安全性と教育効果の両面を確保しながらも大人数での行事を行うことが可能になっている。

「レンゲ畑のいきもの」*、**	高槻市		
4月26日	申込270名（当選270名）	参加168名	
「海べのしぜん」*、**	岬町長崎海岸		
5月17日	申込280名（当選280名）	参加184名	
「はじめてのキノコ」*、**	東大阪市枚岡公園		
7月5日	申込174名（当選139名）	雨天中止	
「ツバメのねぐら」*	奈良市		
8月1日	申込156名（当選156名）	参加83名	
「バッタのオリンピック」*、**	藤井寺市石川		
10月12日	申込182名（当選182名）	参加129名	
「ドングリと秋の木の実」*	東大阪市枚岡公園		
10月25日	申込85（当選85名）	参加58名	
「化石さがし」	泉佐野市		
11月29日	申込245名（当選172名）	参加156名	
	6回実施	延べ参加者数787名	

■地域自然誌シリーズ

大阪周辺の地域を歩き、その地域の自然をさまざまな分野の観点から観察し、自然の特徴とそこを利用する人との関わりについて総合的に考えることを目的とした行事。普及行事の中では中・上級向け。

「八尾市高安地区」	八尾市		
6月14日	申込77名（当選77名）	参加57名	
「岩湧山」*	河内長野市		
9月27日	申込91名（当選39名）	参加21名	
	2回実施	延べ参加者数78名	

■テーマ別自然観察会

自然の中の諸現象からテーマと対象をしぼって観察することで、自然に対する理解をより深めようとする行事。学芸員の専門分野を基礎にしたテーマが多く、さらに掘り下げた学習機会の提供を可能にしている。他の博物館施設や図書館、研究団体との共催が増えている。

「活断層の地形：有馬－高槻断層帯」	茨木市		
4月12日	申込49名（当選49名）	参加34名	
「はじめてのバードウォッチング 春の渡り鳥を見つけよう」	長居植物園		
4月29日	申込166名（当選101名）	参加71名	
	（大阪府立図書館と共催）		
「初夏の甲虫いろいろ」*、**	高槻市		
5月23日	申込48名（当選48名）	参加34名	
	（あくあびあ芥川と共催）		
「外来鳥ソウシチョウを探そう！」	大阪市東淀川区～淀川区		
5月24日	申込50名（当選50名）	参加30名	

普及教育事業

「カエルのたまご」* 能勢町～川西市
 5月31日 申込95名(当選51名) 参加39名
 「六甲山山麓の地質と活断層」* 芦屋市～神戸市
 6月7日 参加26名
 (地学団体研究会大阪支部と共催)
 「高槻のカエル探し」*、** 高槻市
 6月21日 申込92名(当選73名) 雨天中止
 (あくあびあ芥川と共催)
 「夏の終わりのきのこ」* 島本町
 9月13日 申込83名(当選51名) 参加40名
 「アカハネオンブバッタ」** 大阪市南港野鳥園
 10月4日 申込46名(当選46名) 参加36名
 「鳴くシカの声聞く会」** 奈良市
 10月24日 申込57名(当選57名) 参加50名
 「岸和田市南部の地質」*、** 岸和田市
 10月25日 申込85名(当選44名) 参加34名
 (きしわだ自然資料館、地学団体研究会大阪支部、日本地質学会近畿支部と共催)
 「サルの行動観察」** 京都市
 12月6日 申込105名(当選31名) 参加20名
 「大阪層群の地層と化石」 岸和田市
 2月28日 申込106名(当選26名) 参加数23名
 (きしわだ自然資料館と共催)

13回実施 延べ参加者数438名

■野外・室内実習

野外実習については、野外における自然観察から得られたデータがどのような意味を持つのかななどを詳細に分析しながら、自然に対する理解をより深める行事。室内実習については、生物・化石などを材料に、博物館に備え付けの研究機器を活用しながら、野外では行えない分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。今年度は、野外での試料収集を含めた野外・室内を複合させた行事も行った。普及行事の中では上級向け。

「鳥の調査の勉強会」
 4月5日 申込20名(当選20名) 参加11名
 「植物の標本づくり」
 5月17日 申込13名(当選13名) 参加数13名
 「たまご標本の作り方」*、**
 6月28日 申込67名(当選37名) 参加32名
 「昆虫標本の作り方」*
 7月25、26日、8月2日 申込207名 参加148名
 「ウニの受精と発生を観察しよう」*
 8月9日 申込30名(当選22名) 参加20名
 「ホネの標本の作り方(子ども向け)」*、**
 8月16日 申込36名(当選32名) 参加26名
 「鳥の仮剥製づくり」*、**

9月22日 申込41名(当選24名) 参加23名
 「ホネの標本の作り方(大人向け)」*、**
 9月23日 申込34名(当選29名) 参加27名
 「火山灰」
 10月18日 申込28名(当選28名) 参加26名
 「樹脂包埋標本の作製1」
 10月25日 申込11名(当選11名) 参加10名
 「平野の近の地層の調べ方」
 11月8日 申込23名(当選23名) 参加20名
 「地層のはぎ取り標本の作り方」
 11月23日 申込64名(当選37名) 雨天中止
 「樹脂包埋標本の作製2」
 11月29日 申込11名(当選11名) 参加10名
 「地層のはぎ取り標本の作り方(再実施)」
 1月24日 申込40名(当選40名) 参加30名
 ※11月23日の雨天中止だった行事を再実施したもの
 「解剖で学ぶイカの体のつくり」*
 2月7日 申込23名(当選23名) 参加19名
 「魚のからだ」
 2月28日 申込11名(当選11名) 参加10名
 「裸子植物」*
 3月6日 申込25名(当選25名) 参加23名
 16回実施 延べ参加者数448名

■長居植物園案内

第4土曜日に長居植物園で行う植物研究室の学芸員の案内による観察会。近年は参加者が多いため、補助スタッフによる観察の手引きが不可欠である。また、補助スタッフが自主的に学芸員による解説の記録を発行しており、参加者の学習効果を高めることに貢献している。6、12、2月には、他分野の学芸員とのコラボレーションによるスペシャル編の植物園案内を行った。

4月25日* 参加95名
 5月23日* 参加94名
 6月27日「昆虫と植物」* 参加111名
 7月25日* 参加70名
 8月22日* 参加62名
 9月26日* 参加85名
 10月24日* 参加69名
 11月28日* 参加96名
 12月26日「木の実と鳥」* 参加119名
 1月30日* 参加82名
 2月27日「球果スペシャル」* 参加71名
 3月26日* 参加87名

12回実施 延べ参加者数1041名

■長居植物園案内：動物・昆虫編

季節の変化に応じた身近な都市公園の自然を知るこ

とで、身の回りの自然をより知ってもらいたいがある。原則として毎月第1土曜日に開催している。普及行事の中では初・中級向け。

「公園の鳥の巣をさがそう」*	
4月11日	参加50名
「かわいい甲虫・くさい甲虫」	
5月5日	参加41名
「バタフライガーデン」	
6月6日	参加65名
「大池の生き物」	
7月4日	参加28名
「夏の昆虫」	
8月1日	参加40名
「公園の秋の渡り鳥」*	
9月5日	参加64名
「はじめての鳥の羽根ひろい」*	
10月3日	参加43名
「ダンゴムシ・ワラジムシ」*	
11月7日	34名
「冬越しの虫さがし」	
12月5日	参加40名
「みじかな冬鳥を見つけよう」*	
1月9日	参加47名
「冬の羽根ひろい」*	
2月6日	参加54名
「花と鳥」*	
3月5日	参加52名
	12回実施 延べ参加者数624名

■自然史オープンセミナー

自然史科学に関する話題を市民に普及する講演会。当館学芸員が自らの調査・研究の成果に基づいて行ったほか、外部講師も招いた。原則として、毎月第三土曜日の午後1時～2時30分に、当館集会室で開催。夏から秋には、特別展に関連して都市の自然に関するテーマで4回実施した7月と8月は特別展「たまごとたね」の普及講演会、4月は特別展「スペイン 奇跡の恐竜たち」の講演会を兼ねた。

「スペインの恐竜・植物・昆虫の化石」	
4月18日	参加64名
「外来生物キックオフ」	
5月16日	参加51名
「外来生物キックオフ」	
6月20日	参加40名
「タマゴの模様をめぐる托卵鳥と宿主の共進化」**	
7月18日	参加66名
「タネのはなし、ときどきタマゴも」**	
8月15日	参加66名

「虫のたまご、貝のたまご」	
9月19日	参加27名
「魚のたまご、鳥のたまご」	
10月17日	参加33名
「謎の絶滅哺乳類デスマスチルスの生態と進化を探る」	
11月21日	参加50名
「川虫で河川の環境を調べる」	
12月19日	参加34名
「菌類学セミナー2016 アマチュア菌学の活性化に必要な仕掛けを考える」**	
1月23日	参加96名
「台風の地層」	
3月19日	19名
	11回実施 延べ参加者数414名

■ジオラボ

普段はくわしく観察するチャンスが少ない化石や岩石、鉱物、地層などについて、展示解説、簡単な実験、顕微鏡観察などの方法により体験学習してもらう行事。当日の来館者に気軽に参加してもらえるよう、展示室内や展示室に隣接した場所で行っている。普及行事のなかでは、初・中級向け。原則として第2土曜日の午後に行っている。

「恐竜のかざり」*	
4月11日	参加51名
「中生代の植物化石」*	
5月9日	参加31名
「いろいろな火山灰を調べる」*	
6月13日	参加37名
「海の砂を見てみよう」*	
7月11日	参加27名
「石ころ調べ」*	
8月8日	参加28名
「中生代の海のは虫類」*	
9月12日	参加88名
「メタセコイア」*	
10月10日	参加30名
「軟弱地盤を考える」*	
12月12日	参加22名
「防災地図を作ってみよう」*	
1月16日	参加26名
「台風の地層」*	
3月12日	参加19名
	11回実施 延べ参加者数390名

■標本作りまつり**

小学生から大人までを対象とし、1日で植物と貝の標本作りを体験することができる。さらに、昆虫標本づくり、キノコ標本づくり、植物化石のクリーニン

普及教育事業

グ、鳥の剥製づくり、鳥の卵標本づくりを見学できるブースをつくった。この行事で標本作りを体験し、夏休みに自分でもやってみて、「標本の名前をしらべよう」で講師と一緒に名前を調べて夏休みの自由研究を完成させることができる。また、作成した標本や自由研究は、「ジュニア自由研究標本ギャラリー」（31～32ページ）で多くの人に見てもらえることができる。

日 時：7月20日（月・祝）

場 所：自然史博物館 講堂、集会室、実習室、ミュージアムサービスセンター

申込127名（当選127名） 参加113名

■標本の名前を調べよう&達人による標本トーク*、**

一般市民が採取して作成した標本の名前を、講師と一緒に調べる行事。生き物や化石・岩石の名前をしらべることにより、自然をより身近なものとしてとらえ、探究心を育てることをねらいとしている。子どもだけでなく、大人の参加も多い。館外から多数の専門家に講師として参加していただき、8月下旬に実施している。講師に自身が専門とする分野の標本作りや標本から分かることについて話をしてもらう「達人による標本トーク」をミュージアムサービスセンターにおいて行った。なお、この行事の効果を高めるため、夏休みの始めに「標本作りまつり」（7月20日）を行った。

日 時：8月23日（日）

場 所：自然史博物館 集会室、実習室、会議室、ミュージアムサービスセンター

件 数：87件 参加者数：106名

■講演会・シンポジウム・実習（学会等と共催）

学会や図書館などと共催した講演会やシンポジウムなどを開催し、多数の市民や学生に聴講いただき、好評を得た。特別展普及講演会と友の会総会招待講演会は、それぞれ別項に記した。

博物館・センター報告会

4月25日 参加82名

第32回地球科学講演会

「阪神淡路大震災以降の近畿の活断層研究」

5月10日 参加148名

「いろいろ、たまごの話」

5月30日 参加47名

（大阪市立中央図書館との連携行事）

「中高生のための菌類観察講座2015 胞子を観察してみよう」

8月6日 申込15名（当選15名） 参加13名

（日本菌学会との共催行事）

「きのこのおはなし」

11月3日 参加38名

（大阪府立中央図書館との連携行事）

関西自然保護機構総会「地域自然史と保全研究発表会」

3月6日 参加162名

■はくぶつかん・たんけん隊*

実験室や収蔵庫などのバックヤードを中心とする館内見学行事。普段は見ることのできない博物館の施設を、学芸員の具体的な仕事内容とともに紹介する。博物館を身近で親しみやすいものとして感じ、自然史についての興味をそだてることをねらいとしている。2008年度からタイトルを変更し、対象を小学生から小中学生に広げた。参加者とは別枠で、参加者の家族（保護者や未就学児）を対象に、ガイドンスとバックヤードショートツアーを行った。

1月10日（日）・11日（月祝） 申込 87名 参加68名

■ジュニア自然史クラブ

従来から普及行事の参加者を見ると、小学生連れの親子の参加は多いものの、中学生の参加は少なく、さらに高校生や大学生の参加がほとんど見られないことが指摘されていた。それを克服すべく、高校の教員との懇談（1999年2月20日）を持った中で、高校生は小学生連れの家族や年輩と一緒にの行事には参加しないとの指摘を受けた。

それらをふまえて、2000年から中学生・高校生を対象にした「ジュニア自然史クラブ」を開始している。単に中高生向けの行事を実施するだけでなく、クラブ組織とすることによって、学校外の友人と出会う場となることと、継続的な参加を意識した。

●部員の募集

博物館の通常の行事案内で、ジュニア自然史クラブの行事を告知し、部員を募集した。また、前年度の部員にも引き続き行事案内を送付した。

●ジュニア自然史クラブへの参加者

一度申し込んだ中高生を部員とし、申込者にはその後も、行事の案内を直接送ることとした。2016年3月31日現在の部員数は66名。

●2015年度の活動内容

当初は、2ヶ月に1度のペースでの行事を学芸員が企画した。その他に、部員からの希望に応じて、行事を追加した。また、昆虫学会での標本展示するため、長居植物園の花にくるハチの調査も行った。

「ミーティング」 4月2日 34名

「田んぼのカエルと虫さがし」 5月6日 29名

「磯観察」 6月14日 11名

「友ヶ島、リスとシカ探し」 7月19日 雨天中止

「ミーティング」 8月5日 16名

「植物園の花にくるハチ調べ」

8月12～13日 12名

「キノコ狩り」	9月6日	雨天中止	
「甲山の生き物さがし」	10月4日	10名	
「黄鉄鉱さがし」	11月3日	10名	
「ミーティング・フェスティバルの準備」	11月8日	15名	
「地層観察と化石採集」	12月13日	21名	
「河原で焼き芋」	1月5日	14名	
「雪山の生き物さがし」	2月7日	8名	
「田上山で鉱物採集」	3月30日	21名	
企画15回、実施13回、延べ参加者数201名			

■ビオトープ

バックヤードを利用してビオトープ作りをし、どんな生き物が集まってくるのか継続的に調査している。ビオトープ作りに関心のある方、自然に興味がある方、体を動かすのが好きな方など、一緒に作業や調査をする方を募集して行った。原則として毎月第3土曜日に実施した。

4月18日	参加87名
5月16日	参加43名
6月20日	参加25名
7月18日	雨天中止
8月15日	参加22名
9月19日	参加34名
10月17日	参加21名
11月21日	参加20名
12月19日	参加12名
1月23日	参加23名
2月20日	雨天中止
3月19日	参加15名
10回実施 延べ参加者数302名	

■子ども向けワークショップ～

未就学児や小学生、親子連れの来館者にも、楽しみながら展示の内容を理解していただくために、子ども向けワークショップを2005年から実施している。テーマは常設展示に関わるものや、特別展に関連したものなどから、ワークショップスタッフと担当学芸員で決定している。

2007年から、行事をより円滑に進めるために、18歳以上の学生からサポートスタッフを15～20名程度募集し研修を実施した上で、2ヶ月に1回程度プログラムに参加してもらっている（年間登録制）。サポートスタッフには、学芸員やワークショップスタッフと一緒にオリジナルプログラムを製作、3月の「はくぶつかん 子どもまつり」において実施してもらった。特別展関連行事として行ったワークショップについての詳細は、展覧事業29～31ページからの各特別展の関連行事を参照のこと。

「おしえてハカセ 恐竜のハネ」	4月19日・26日、12月12日・13日	参加155名
「クジラスタンプラリー」	5月5日・6日	参加917名
「みっけ！ いきものの親子」	6月13日・14日、7月4日・5日	参加232名
「くらべっこ！ ドングリ」	10月17日・18日、11月1日・3日	参加121名
「おしえてハカセ 大阪の地層」	1月16日・17日、3月5日・6日	参加64名
「はくぶつかん こどもまつり」	3月26日・27日	参加205名
36日実施、延べ参加者数2331名（特別展関連含む）		

Ⅱ. 学校教育への対応

博物館には学校の授業の一環として、多くの生徒、児童、園児が訪れている。来館当日だけではなく、事前学習・事後学習において、博物館の展示や資料を教材にして授業が行われている。また、博物館の訪問とは別に、博物館の展示や資料は授業の教材として活用されている。

博物館には、収集された標本・資料と学芸員の専門的な知識を基に、学校教育活動を多面的に行なえる素材がたくさんある。この多面的な教育活動をより充実させるためには、博物館と学校、それぞれの特徴を活かして、双方が連携することが重要である。

これまで博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、学校の先生と情報交換をしながら、様々な素材を準備してきた。今後も、博物館・学校の双方が連絡を密にして、新たな博物館と学校の連携の方法を創り出す必要がある。

1. 体制

学校と博物館の連携を中心とした普及教育事業を担当する教育スタッフ1名を配置している。教育スタッフと学芸員数名によって、委員会（TM（Teachers-Museum）委員会）を組織し、学校と博物館の連携について検討し、連携の推進を図っている。

2. 連携のための事業

博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、以下の様々な事業を行っている。

<児童・生徒向け事業>

・博物館マップ・ワークシートの配布

見学に便利な博物館マップとワークシートを作成し、学校で印刷して持参できるようにしている。博物館マップは小学校低学年・高学年の2種類、ワークシートは小学校低学年・高学年各1種類、中学校2種

普及教育事業

類の合計4種類がある。特別展「スペイン奇跡の恐竜たち」「たまごとたね」では、中学生・高校生向けのワークシートを作成し、春夏の課題として学校に案内した。また、特別展「たまごとたね」では、校外学習時に使える小学生向けのワークシートも作成した。

・博物館での授業（学芸員によるレクチャー）と質問対応

当館を訪れた児童・生徒に対して、各分野の学芸員が、設定したテーマに基づく展示の解説、学芸員レクチャー、質問対応などを行なっている。テーマによっては、展示だけでなく長居植物園の見学、収蔵標本の鑑賞、実習室を使った実習などを組み込んでいる。実施に当たっては、先生からの要望を基に、先生と学芸員の十分な事前打ち合わせを行い実施している。児童・生徒が博物館に来られない事情がある場合は、学芸員が出向いて授業を行っている（長居植物園は除く）。

2015年度は保育所・幼稚園 1件、小学校 16件、中学校 8件、高校 4件、大学 4件、専門学校 1件合計34件の授業を行った。

2015年度の授業例：「植物の一生」、「ドングリ・秋の植物」、「身近な哺乳類・動物」、「虫の体と生活」、「学芸員・博物館の仕事」など。

・職場体験学習・就業体験（インターンシップ）の受け入れ

受け入れの運用方針を定め、受け入れている。運用方針はホームページに掲載している。2015年度は、大阪府内の中学校6件、大阪市内の高等学校1件、京都府内の高等学校1件（計12人）を受け入れた。

<先生向け事業>

・遠足下見時の説明

遠足等の下見に来た学校園の先生に対して、教育スタッフおよび博物館警備員が、博物館見学についての説明を行っている。施設利用の手続きや注意事項、見学の見所などの博物館見学の概要説明に加え、学校向け貸し出し資料や学校向けの博物館事業の紹介も行っている。学芸員によるレクチャーなどのリクエストの受付、見学やレクチャーについて提案するなど、学校と博物館をつなぐ窓口となっている。また、電話等による問い合わせにも対応している。

春の下見集中時に合わせ、展示室の教員向け案内行事を行い、遠足で来るときの参考にしてもらえるようにしている。2015年度は4月7日、8日に実施した。

下見の時には、見学時や事前学習に役立つ様々な資料を配布している。配布している資料：団体見学の案内、貸し出し資料の一覧、博物館と学校連携の紹介資料、子ども向け館内マップ（小学生低学年用・高学年

用）、ワークシート（中学生用、小学低学年用・高学年用）など。

・資料の貸し出し

見学の事前学習、先生の教材研究のために、博物館の出版物、ビデオ、標本キット（授業用に準備された標本と解説資料）を貸し出している。それらの内容、貸し出し方法はホームページに掲載している。

2015年度は、博物館の出版物等書籍18件、ビデオ・CD-ROM・DVD 12件、紙芝居18件、標本キット46件の貸し出しを行った。

・貸出資料

博物館の出版物：特別展展示解説書、ミニガイド、博物館叢書シリーズ、「ナガスケ」紙芝居セットなど。

ビデオ・CD-ROM・DVD：ようこそ自然史博物館へ、大和川と生きものたちなど。

標本キット：国語で使える貸出キット「タンポポ」「虫の体」、川原の石ころ、ポーリングコア、セミ、テントウムシ、ドングリ、ホネキット（肉食・草食動物の頭骨、アライグマの全身骨格）など。

・教員向けの研修

小中学校、高校、特別支援学校、教員を目指している大学生、総合的な学習の時間に関わる活動をされている方を対象に研修を行っている。2015年度は3回開催した。これら以外に、各地の理科教育研究会等からの依頼教員研修を7件行った。

・情報誌「TM通信」の発行とTMネットワーク（Teachers-Museum Network）

先生と博物館の交流を深め、情報を交換することを目的としたTMネットワーク（Teachers-Museum Network）をつくっている。125名が登録しており、電子メールや郵送により、「総合学習の支援プログラム」をはじめ、特別展、自然観察会、実習、講座など、学校の先生に役立つ博物館の行事を掲載した情報誌「TM通信」を4回発行した。

<その他>

・教員のための博物館の日 in 大阪市立自然史博物館の実施

国立科学博物館が全国的に進めている事業である「教員のための博物館の日」を8月7日に行った。ガイドツアー・体験型のプログラムなどさまざまな教員向け研修を実施した。大阪市・大阪府の研修の一つとして位置づけ、また、他館（あくあびあ芥川、大阪くらしの今昔館、大阪市立科学館など）からもブース出展してもらい、89名の参加があった。

プログラム 学芸員と一緒に歩く解説ツアー1：長居植物園で学ぶ植物の見分け方、学芸員と一緒に歩く解説ツアー2：特別展で学ぶタマゴの多様性、学芸員

と一緒に歩く解説ツアー3：常設展で学ぶ大阪平野の地層と防災、体験型プログラム1：イカの体を観察しよう、体験型プログラム2：昆虫の体の不思議、体験型プログラム3：レプリカってなあに？ など。

※ 教員のための博物館の日はJSPS科研費（課題番号25350411）の助成を受けて実施した。

図3：体験型プログラム「レプリカってなあに？」

・大阪府内の高校との連携

大阪府高校生物研究会および地学研究会と連携し、特別展の情報提供を行っている。2015年度の大阪府の高校の生徒生物研究発表会を博物館で実施した。

・教科の単元と博物館の展示の対応関係の紹介

小学校の生活科・社会科・理科・国語・家庭科・保健、中学校の社会科（地理・歴史）・理科・国語・家庭科・技術・保健体育の指導要領における学習内容と博物館の展示の対応を博物館ホームページで公開し、学校での事前学習、事後学習の資料としている。

・ホームページでの情報提供

博物館ホームページに「学校と博物館」のページを開設し、上記の学校向けの博物館事業についての情報提供を行っている。「教科書から見た展示」では、展示や貸出キット、ワークシートがどの単元に対応しているのかを見られるようにしている。ワークシートやマップなどの配布資料はホームページからダウンロードできるようにし、学校の博物館利用計画に役立つ情報を提供している。

・ミュージアムサービスセンターでのスクールサポート

自然史博物館の国会1階の展示室に面したエリアに、ミュージアムサービスセンターがあり、スクールサポートの場として位置づけられている。学校の先生の相談に応じたり、貸出資料（標本キット、ビデオ・CD-ROM・DVDなど）、授業に役立つ博物館の出版物などを展示・紹介している。

・今年度は武田科学振興財団2015年度中学校理科教育



図3：体験型プログラム「レプリカってなあに？」

振興奨励を受け、ボーリング標本を貸し出し教材として運用し、指導案の作成、教材の改良を行った。また、JSPS科研費（課題番号25350411）の助成を受け、国語で使える貸出キット「タンポポ」と「虫の体」の2種を改良し、貸出を開始した。

Ⅲ. ボランティア事業

当館のボランティア事業は、自然史科学の普及や研究に積極的に参加するアマチュア養成の場として、普及事業に位置づけられて行われている。各種普及行事において学芸員や講師の補助を行う補助スタッフ制度、大学生が学びながら子どもワークショップのサポートを行うサポートスタッフ制度が、当館の主なボランティア事業である。これに加え、アマチュア研究者に標本整理にもご協力いただいている。

1. 補助スタッフ制度

1995年より、各種普及行事を学芸員や講師と協力して運営する補助スタッフを、当館の良き理解者である友の会会員から募集している。補助スタッフを対象に、行事实施に必要な知識や技術を身に付けるために、行事の内容に応じて学芸員による事前研修や勉強会、打合せ、事後研修を実施している。補助スタッフは、このような研修の場で自らの興味・関心に応じて学習を深め、その成果を普及行事の運営を通して社会に還元する意欲のある方々であり、当館の普及事業を支える重要な存在である。補助スタッフの協力を得て行われた行事は以下の通りであり（括弧内は行事当日とは別の日程で行われた事前研修の日付と人数）、補助スタッフとして活躍いただいた方は、延べ315名であった。

■やさしい自然観察会

- 「レンゲ畑のいきもの」4月26日（日）9名
（4月16日（木）8名）
- 「海べのしぜん」5月17日（日）16名
（5月16日（土）6名）
- 「はじめてのキノコ」7月5日（日）雨天中止
（7月3日（金）2名）
- 「ツバメのねぐら」8月1日（土）4名
（7月26日（日）4名）
- 「ドングリと秋の木の実」10月25日（日）7名
（10月15日（木）4名）

■テーマ別自然観察会

- 「はじめてのバードウォッチング～春の渡り鳥を見つけよう～」4月29日（水祝）2名
（4月4日（土）3名）
- 「初夏の甲虫いろいろ」5月23日（土）3名

普及教育事業

(5月10日(日) 2名)

「外来鳥ソウシチョウを探そう!」5月24日(日) 2名

(5月9日(土) 2名)

「カエルのたまご」5月31日(日) 2名

「夏の終わりのキノコ」9月13日(日) 2名

■室内実習

「昆虫標本の作りかた」7月25日(土) 3名

26日(日) 6名

「ウニの受精と発生を観察しよう」8月9日(日) 4名

(8月8日(土) 4名)

「ホネ標本の作りかた」8月16日(日) 5名

「鳥の仮剥製づくり」9月22日(火祝) 4名

「ホネ標本の作りかた(大人)」9月23日(水祝) 4名

「イカの体のつくりを調べよう」2月7日(日) 1名

(2月6日(土) 1名)

「裸子植物」3月6日(日) 2名

(2月20日(土) 2名)

■植物園案内

4月25日(土) 10名

5月23日(土) 10名

6月27日(土) 8名

7月25日(土) 9名

8月22日(土) 7名

9月26日(土) 10名

10月24日(土) 9名

11月28日(土) 7名

12月26日(土) 7名

1月30日(土) 7名

2月27日(土) 9名

3月27日(土) 6名

■植物園案内動物・昆虫編

「公園の鳥の巣をさがそう」4月11日(土) 3名

(4月4日(土) 3名)

「公園の秋の渡り鳥」9月5日(土) 2名

(8月29日(土) 2名)

「はじめての鳥の羽根ひろい」10月3日(土) 2名

(9月26日(土) 2名)

「ダンゴムシ・ワラジムシ」11月7日(土) 3名

(11月3日(火・祝) 2名)

「みづかな冬鳥を見つけよう」1月9日(土) 1名

(12月19日(土) 1名)

「冬の羽根ひろい」2月6日(土) 2名

(1月30日(土) 2名)

「花と鳥」3月5日(土) 2名

(2月27日(土) 2名)

■ジオラボ

「恐竜のかざり」4月11日(土) 10名

「中生代の植物化石」5月9日(土) 9名

「いろいろな火山灰を見比べる」6月13日(土) 11名

「海の砂を見てみよう」7月11日(土) 9名

「石ころ調べ」8月8日(土) 6名

「中生代の海のは虫類」9月12日(土) 10名

「メタセコイア」10月10日(土) 9名

「軟弱地盤を考える」12月12日(土) 9名

「防災地図を作ってみよう」1月16日(土) 6名

「はぎ取り標本から地層の観察」3月12日(土) 9名

■標本作りまつり7月20日(日祝) 1名

■はくぶつかん・たんけん隊1月10日(日) 4名

11日(月祝) 5名

(1月9日(土) 3名)

■ジュニア自然史クラブ

「ミーティング裏方見学と標本実習」4月2日(木) 2名

「田んぼのカエルと虫さがし」5月6日(土) 4名

「磯観察」6月14日(日) 3名

「ミーティング 標本作り」8月5日(水) 4名

「植物園の花にくるハチ調べ」8月12日(火) 1名

8月13日(水) 2名

「甲山で生き物観察、タカの渡り付き」10月4日(日) 1名

「黄鉄鉱さがし」11月3日(火祝) 2名

「地層観察と化石採集」12月13日(日) 2名

「田上山で鉱物採集」3月30日(水) 5名

■ビオトープの日1月23日(土) 1名

(1月17日(日) 1名)

2. 子どもワークショップ サポートスタッフ

博物館で開催している「子どもワークショップ」の運営補佐をする学生ボランティア「子どもワークショップ・サポートスタッフ」を、年間登録制で募集している。対象は18歳以上の学生で、登録期間は4月～翌3月である。4月の初回研修を経て、12月までは各月のワークショップに補佐役として参加してもらう。その後、12月頃からサポートスタッフがチームを組んでプログラムを企画し、3月に開催するワークショップ「はくぶつかん こどもまつり」でそのプログラムを実施・運営し、1年間を締めくくるといって行っている。本事業は2007年度から継続して行っている。

2015年度の登録者数は17名(当年度の新規登録13名、前年度からの継続登録4名)であった。

3. 標本整理

当館の標本の多くはアマチュアを含めた多くの外部研究者の努力により収集されたものである。寄贈後も、こうした方々の標本利用・整理作業への協力が続けられ、質的な向上が図られている。これは、一般に言う「ボランティア活動」とは異なったものである。

が、博物館活動へのボランティアな協力でありより原初的なボランティア活動といえる。当館がこうした協力により支えられていることを示すため、この項目に感謝して示す。どの分野にも多くの協力者がいるが、特に現在、昆虫（甲虫および双翅目）・植物で定期的な活動がおこなわれている。昆虫（甲虫および双翅目）では今年度も継続的にのべ月に20人近い専門家がボランティアとして標本の整理・検討を行っており、その成果が当館の収蔵資料目録としてまとめられている。

植物標本の整理作業、マウント作業については、近畿植物同好会の方々に全面的にご協力いただいた。本年度は毎月1～2回の作業日を設け、主にシダ植物の標本整理を実施した。

IV. 大阪市立自然史博物館友の会

自然史博物館友の会は、博物館を積極的に利用して、自然に親しみ、学習しようとする人たちの会である。友の会の会計年度は1～12月で、博物館とは独立した組織として運営されている。2001年からは特定非営利活動法人 大阪自然史センターの事業として運営されており、その活動の輪を広げている。

友の会では、博物館主催行事とは別に行事を50回実施し、延べ2535名の会員とその家族が参加した。友の会行事では、自然観察と同時に会員相互の交流・会員と評議員や学芸員の交流が行われている。

■庶務報告

1.2015年度の会員数は1690名（一年会員1369名、4月会員88名、半年会員126名、10月会員35名、賛助会員72名）であった。

※2015年度賛助会員（五十音順、敬称略）

麻野 浩、安部みき子、天野雅雄、池上研二、石井久夫、石田美禰子、乾 公正、乾 俊弥、猪野 守、上北都男、浦野動物病院、大岩 誠、大久保幸子、大塚ちか子、大宮文彦、河越恵美、木下 進、呉 華璋、粉川正博、小郷一三、小菅康孝、小山 栄、斎藤君代、佐木伸一郎、佐々木万里子、佐竹敦司、佐藤興治、下湯瀬可奈子、釋 知恵子、白川勝正、高橋弘志、瀧川久子、瀧端真理子、田代 貢、田村芙美子、辻野寿彦、土屋慶丞、寺田雅章、豊島邦光、内貴章世、中井悦子、中尾はな、中村 肇、鍋島靖信、西尾秀雄、西川喜朗、西澤真樹子、西村静代、丹波三千代、野村典子、樋渡諦児、藤田芙美、益田晴恵、松浦宜弘、松下宏幸、丸山健一郎、宮木新平、宮城達雄、三宅規子、宮武頼夫、向井 均、森口 猛、

山崎敏雄、山下良寛、山西良平、吉田晴彦、吉田芳子、和田 岳、渡邊淳一、他匿名3名

2. 5回の定例評議員会を開催し、友の会事業や庶務について審議した。
3. 事業ワーキンググループで9回の事業に関する議論を行い、評議員会に提案を諮った。事業ワーキンググループメンバーは、評議員からだけでなく一般会員からも募っている。

■事業報告

1. 印刷物の刊行：Nature Study誌61巻1号（通巻728号）～12号（通巻739号）を発行した。また2月号の付録として「友の会のしおり」を発行した。
2. 大阪バードフェスティバル2015（11月14日～15日）に出展し、評議員による観察会「鳥の暮らす森の自然」、友の会会員による「自慢の鳥の羽根」展示、バッジ作り、友の会の紹介、入会の案内を行った。
3. 行事を54回計画し、うち50回を実施した（実施しなかった4回は、雨天中止）。これらの行事には延べ2535名の参加があった。

(1) 友の会総会2015

1月25日（日） 272名

(2) 月例ハイキング（11回計画、9回実施、795名参加）

1月18日（日）五月山と五月山動物園 101名

2月15日（日）早春の里山で苔、虫、蛙さがし 98名

3月15日（日）大阪の里川、芥川で河原の石ころと川虫・川魚さがし 78名

4月19日（日）春の公園の花、鳥、虫 雨天中止

5月17日（日）淀川河口の干潟 135名

6月21日（土）枚岡公園で陸貝を探そう 58名

7月19日（日）比良山麓の溪流 雨天中止

8月16日（日）妙見山のブナ林 64名

9月19日（土）ウミホテルと海浜植物 142名

11月22日（日）生駒山 くさかコース～辻子谷 56名

12月20日（日）箕面川で川の生き物を探そう 63名

(3) 友の会秋祭りとその準備行事

5月30日（土）

セイヨウカラシナのタネ集め 38名

9月21日（月・祝）友ヶ島でタネ拾い 43名

10月11日（日）

友の会秋祭り「たねとたまごを使って遊ぼう」 107名

(4) 友の会限定！博物館裏側まるごとツアー

普及教育事業

2月8日(日)	35名	7月25~26(土~日)	95名
2月11日(火祝)	58名	(16) 氷河地形模型を作って展示しよう (特展展示品作成) 12月5・6・19・20・26日	66名
(5) 友の会の夕べ			
7月18日(土)	86名		
(6) 友の会合宿		4. 補助スタッフ事業	
5月3~5日(日祝~火祝)		博物館の行事に、友の会会員から募集する補助スタッフとして協力した。(Ⅲ. ボランティア事業の項目を参照)	
「岡山県の干潟めぐり」	52名	5. その他	
7月11~12日(土)		友の会総会2016で募集しコンテストを行った「友の会自然観察写真ギャラリー」の作品を、平成28年3月1日~4月3日の期間、本館イベントスペースで展示した。	
昆虫採集入門講座合宿「美方高原」	64名		
8月8~10日(土~月)「木曾御嶽山」	46名		
(7) ビオトープの日(12回計画11回実施、354名参加)			
1月17日(土)	34名		
2月21日(土)	16名		
3月21日(土)	40名		
4月18日(土)	87名		
5月16日(土)	43名		
6月20日(土)	25名		
7月18日(土)	雨天中止		
8月15日(土)	22名		
9月19日(土)	34名		
10月17日(土)	21名		
11月21日(土)	20名		
12月19日(土)	12名		
(8) 鳥類フィールドセミナー			
(8回計画8回実施、225名参加)			
1月31日(土)	26名		
2月28日(土)	27名		
4月4日(土)	45名		
5月9日(土)	26名		
7月26日(日)	19名		
8月29日(土)	27名		
9月26日(土)	28名		
12月19日(土)	27名		
(9) 春の磯で海藻を食べよう			
3月21日(土祝)	103名		
(10) 平日観察会「まちなかスミレウォーク」			
4月6日(月)	23名		
(11) 友の会観察会「比良山八雲ヶ原」			
6月28日(日)	23名		
(12) クモの網の標本パネルづくり			
6月28日(日)	29名		
(13) シカがいるかもナイトハイク			
7月4日(土)~5日(日)	雨天中止		
(14) 飛ぶタネづくり(特展展示品作成)			
7月4日(土)・11日(土)	21名		
(15) 博物館に泊まろう!			
「自然史ナイトミュージアム」			

■友の会役員(2015年度)

会長：鍋島靖信

副会長：谷田一三、山西良平

評議員：板本瑤子、稲本雄太、浦野信孝、河合正人、橋高加奈子、小林春平、高田みちよ、田代貢、西川喜朗、西澤真樹子、花岡皆子、弘岡拓人、藤江隼平、堀田満、道盛正樹、三宅規子、宮崎智美、村井貴史、森康貴、山崎俊哉、米澤里美

会計監査：加納康嗣、左木山祝一

広 報 事 業

多くの市民が博物館へ来館し、また、博物館が企画しているイベント（特別展、普及行事）に参加いただけるよう、様々な媒体・手段を通して広報活動を行っている。平成27年度の取り組みとしては、プレス発表の件数増加のため、特別展やフェス以外にも館の事業を積極的にリリースした。またリリース先の拡大として、大阪市情報公開室経由のリリース件数を増やした。

<体制>

定例では月1回、必要に応じて臨時に、学芸課（5名）と総務課（3名）の広報担当が集まり、広報計画の立案・検討と実施に取り組んでいる。特別展の広報に関しては、特別展担当者も出席している。学芸課のメンバーの1名は普及活動全体を把握している学芸課の普及担当が毎年交代で参加している。

<広報の種類（項目、媒体）>

定期的な博物館行事情報提供	マスコミ向け行事情報の作成、市民向け催し物案内の作成、大阪市関係広報紙・各種情報誌への情報提供、館内でのポスター掲示を行っている。
ホームページへの情報掲載	博物館および大阪市、様々なメディアのホームページに情報を掲載している。SNS（twitter、facebook、LINE）、ブロガー内覧会などを用いた情報発信に力を入れており、今後も強化していく予定である。
プレス発表	大阪市の情報公開室を通して市政記者クラブと大阪科学・大学記者クラブへ、その他大阪教育記者クラブ、南大阪記者クラブ、関西レジャー記者クラブへも特別展や自然史フェスなど博物館の事業開催を発表している。
写真・テレビ撮影への対応	様々なメディアの取材窓口となり、取材に対応している。
交通広告	特別展では大阪市営地下鉄に吊り広告を掲出している。また大阪市営地下鉄の駅構内にポスターの掲出、チラシ類の配置を行っている。新聞社と共催の特別展の場合には、広報予算が多くなるので、大規模に交通広告を行っている。
掲示物	博物館内：今月のイベント案内を本館と花と緑と自然の情報センターの受付カウンターに掲示している。特別展開催時には、情報センターの階段に大型看板を掲出し、特別展・本館への誘導を行っている。

公園内：博物館周辺にイベントの案内などを掲出している。掲示箇所：地下鉄長居駅出口、公園内の掲示板、花と緑と自然の情報センター出入り口の看板、長居公園地下駐車場。また、特別展の際にはのぼりを80本製作し、長居公園や周辺商店街に掲出し、長居公園を訪れる人への広報と地下鉄出口から博物館までの誘導案内になっている。

情報センター西門・南門・入口：表示が無く、これらの入口から自然史博物館へ入館できることが市民にわかりにくいため、特別展の会期以外はスチール看板を利用して、自然史博物館の表示と申し込み不要のイベントを掲示することにした。

最寄り駅：特別展の際には、地下鉄長居駅の他にJR長居駅、JR鶴ヶ丘駅の改札口付近に、B1ポスターを掲出している。

他施設の情報の提供
博物館には大阪市内をはじめ全国の博物館施設からポスター・チラシが送付されてくる。それらのうち、当館来館者の関心が高いと予想されるものについては、館内で掲示・配布している

大阪市経済戦略局文化
文化部の博物館施設担当へは、すべての情報を提供し、月ごとに他館との調整が行われ、文化部から市の広報媒体の紹介を受け、テレビ、ラジオ、出版物、ホームページなどへ情報提供を行っている。大阪市動画サイト、携帯サイト、いちよう並木、毎日新聞「満載イベント」編など

大阪市博物館協会内での共同広報
指定管理者である大阪市博物館協会と管理委託されている大阪歴史博物館・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市文化財研究所・大阪市立自然史博物館の5施設で共同広報を行っている。

<広報先>

メディア関係	これまでコンタクトのあった各社のアドレスを蓄積し、イベントの内容に応じて広報している。
--------	---

広 報 事 業

学校・社会教育施設	チラシ類は、大阪市内・府下を中心に、社会教育施設、学校・幼稚園・保育園へ発送している。市立の学校には通送便を活用している。特別展等、広範囲に広報する場合は、日帰り圏内まで送付範囲を拡大する。
地元小学校への広報	イベントの種類および規模に合わせて、地元小学校の全生徒にチラシの配布を行っている。
大阪府内の高校への広報	大阪府高校生物教育研究会と大阪府高校生物地学教育研究会の協力により、大阪府内のすべての高校へ特別展やイベントの案内を送付している。
地元への広報	連合町会長会議を通じて、地元町内会へ特別展のチラシの掲出依頼、内覧会招待の案内を行っている。また、地元の商店街へは、ポスター等の掲示依頼などを行っている。

<2014年度の広報状況>

印刷物の発送先（学校以外）	件数：大阪市内164件、大阪府内223件、その他の府県396件。施設種類：博物館、大学、図書館、青少年施設、教育委員会、市役所、集会学習施設など
チラシ類の印刷・配布枚数	やさしいはくぶつかん春・秋（40,000枚）、ワークショップ4回（121,000枚）、地球科学講演会（15,000枚）、特別展「たまごとたね」（ポスターB2 1,500枚、B3 3,000枚、チラシ 106,000枚）、大阪バードフェスティバル（ポスターB2 1,370枚、チラシ 65,000枚）、毎月の催し物案内（1,700枚）
情報提供しているメディア関係	約200社（特別展関係約100社、行事情報約100社）
特別展プレス発表の送信先	市政記者クラブ21社、大阪科学・大学記者クラブ18社、大阪教育記者クラブ14社、南大阪記者クラブ7社、関西レジャー記者クラブ14社、大阪市内区役所広報24区

テレビ放送（特別展以外）	5/5	NHKニュース	モササウルス類化石の寄贈
	7/20	NHKニュース	標本づくりまつり
新聞報道（特別展以外）	10/12	eo光ニュース	来館者数1000万人突破
	1/1	ベイコム地元ニュース	重量型の大型恐竜・哺乳類
	3/1	NHK「ニュースほっと関西」	常設展一部リニューアルなど、14件
	4/13	日本経済新聞	「メタセコイア」
	5/5	毎日新聞	「モササウルス類化石の寄贈」
	6/29	読売新聞	「クマゼミ」
	7/16	読売新聞夕刊	「ステゴサウルス」
	9/12	朝日新聞be	「虫へんTシャツ」
	10/10	読売新聞	「アサギマダラ」
	10/11	大阪日日新聞	「来館者数1000万人突破」
	12/17	朝日新聞夕刊	「重量型の大型恐竜・哺乳類」
	1/26	読売新聞	「ヤベオオツノジカの成長は速かった」
	2/17	朝日新聞	「ミキマツ」
	2/26	毎日新聞	「友の会総会・バックヤードツアー」
	など、36件		

<2015年度のプレスリリース一覧（投げ込み含む）>

	日付	内容
1	4月28日	高校生が大阪で発見した国内最大級のモササウルス類化石の寄贈（林学芸員）
2	5月8日	特別展「たまごとたね -いのちのはじまりと不思議-」開催について
3	6月19日	夏休みの自由研究にぴったりな標本作りの行事の開催について
4	7月1日	「教員のための博物館の日2015」の開催について
5	8月11日	特別展「たまごとたね -いのちのはじまりと不思議-」たまごvsたね対決 投票中間結果発表

6	8月18日	特別展「たまごとたね -いのちのはじまりと不思議-」史上最大といわれるエピオルニススのタマゴが登場します
7	8月20日	2015年国際土壌年記念 巡回展「土ってなんだろう？」開催について
8	9月10日	特別展「たまごとたね -いのちのはじまりと不思議-」たまごvsたね 対決 投票最終結果発表
9	9月24日	「大阪バードフェスティバル2015」開催について
10	10月6日	入館者数1,000万人突破について
11	11月20日	日本にいた絶滅哺乳類ヤベオオツノジカの成長は速かった（林学芸員）
12	11月27日	ミニ展示「しぜんしワークショップ展」開催について
13	12月10日	骨を硬く緻密にすることで体を支えた重量型の大型恐竜・哺乳類（林学芸員）
14	1月26日	特別展「生命大躍進 -脊椎動物のたどった道-」開催について（大阪市報道発表資料のみ）
15	2月12日	特別展「生命大躍進 -脊椎動物のたどった道-」開催について
16	2月16日	マツボックリ化石にミキマツ（ <i>Pinus mikii</i> ）と命名（塚腰学芸員）
17	2月18日	常設展のリニューアルについて



図4. 特別展「たまごとたね」の階段サイン

<特別展の広報>

■特別展「スペイン 奇跡の恐竜たち」

会 期：2015年3月21日（金・祝）～5月25日（日）※3月24・31日（月）は臨時開館（詳細は前年度の館報に掲載）

■第46回特別展「たまごとたね -いのちのはじまりと不思議-」

会 期：2015年7月18日（土）～10月18日（日）

プレス発表：2015年5月8日（金）

内 覧 会：2015年7月17日（金）

プレス内覧会：4社4名（ジェイコム、あべの経済新聞、タイガー魔法瓶、バイ・コミュニケーションズ）

一 般 内 覧 会：79名（大阪市関係、地元町内会関係者、友の会会員、招待者など）

広 報 媒 体：55の広報媒体で扱われた。そのうち放送関係は、テレビ5、ラジオ2。

刊行物・情報システム

*は館外研究者、[No.]は当館業績番号。

■研究報告 (Bulletin of the Osaka Museum of Natural History)

第70号、2016年3月31日発行、88ページ。

奥村 潔・石田 克・樽野博幸・河村善也：岐阜県熊石洞産の後期更新世のヤベオオツノジカとヘラジカ化石 その1 角・頭骨・下顎骨・歯. 1-84. [No.451]
 鳴橋直弘：ニューヨーク植物園に収蔵されている重要な日本産バラ科キイチゴ属の標本. 85-88. [No.452] (英文)

■自然史研究 (SHIZENSHI-KENKYU, Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History)

第3巻第16号、2016年3月22日発行、20ページ。

西澤真樹子・高田みちよ・渡部哲也・平田慎一郎・田中良尚・松浦宜弘・佐久間大輔：2012～2014年に「南三陸勝手に生物相調査隊」により収集された宮城県南三陸町周辺の生物標本目録・観察記録. 273-292. [No. 450]

■常設展解説書

ミニガイド No.28「バタフライガーデンとアサギマダラ」一般市民向け、A5版、本文48ページ（総カラー）、2016年3月31日発行、500円。

■特別展解説書

第46回特別展「たまごとたね」解説書「動かないタマゴと動くタネのひみつ」一般市民向け、B5縦版、本文92ページ、2015年7月18日発行、800円。

館事業を広く周知し、より多くの市民に博物館を利用してもらうことを目的として、特に Web・SNS を利用した情報発信に積極的に取り組んでいる。

ホームページ (HP) に関しては、タイムリーで内容豊富な情報の発信に努めており、平成 27 年度の HP アクセス数 (トップページ) は約 40.5 万件であった。HP 掲載の新着情報を中心に「Twitter」、「FaceBook」を通じて情報提供するなどしている。Twitter の発信数は 477 件、フォロワー数は約 4,900 (700 の増) であり、広報媒体として良好に機能していることがうかがえる。FaceBook については、情報がどのくらいの人に到達したかの指標でもある合計リーチ数が、昨年度が 23 万人だったのに対し、今年度は約 33 万人と増加し、この 3 年間で 4 倍以上に増えた。SNS の利用は昨年度に引き続き増加している。

今年度から特別展の解説用に作成した映像を動画投稿サイト You Tube に試行的に掲載しており、「都市の自然」展会場の動画 (アシダカゲモ) は 9 カ月で 50 万回の視聴になっている。1 日あたり約 2000 人が、博物館名とロゴマークを見たことになる。また特別展の内覧会には、特別展を宣伝協力いただくブロガーを招待し、市民参加型の広報を実施した。

ホームページアクセス実績	
4月	41,142
5月	35,077
6月	29,751
7月	38,908
8月	53,355
9月	36,664
10月	28,377
11月	27,866
12月	22,456
1月	27,284
2月	23,953
3月	40,335
合計	405,168

Twitter

年間 477 件、フォロワー 4919 人、493 リスト掲載

FaceBook

投稿の平均合計リーチ数 1 日あたり 889 (前年 600)

自然史博物館の5項目にわたるミッションと中期目標の中には以下のような項目がある。

〔ミッション3〕

地域との連携を促進してより広範な市民との交流に努めます。

博物館活動のパートナーとなるNPOやアマチュアを大切にし、自然愛好家の層を厚くしていきます。

(中期的目標)

- ・学校・地域との連携事業など市民との交流をNPOと協働して進めます。
- ・アマチュア研究活動や、地域での自然体験活動を支援します。このために博物館も地域で実施する観察会を充実させます。
- ・地域の文化財行政・自然保護行政に積極的に貢献します。

〔ミッション4〕

他の機関との連携を進め、ノウハウの交流に努めます。

広域のネットワークや学術連携、協働でのプロモーションにより、より高度な博物館活動を目指します。

(中期的目標)

- ・西日本自然史系博物館ネットワークを中心とした他の博物館との連携・交流や共同事業を強めます。
- ・研究・教育において大学など高等教育機関との連携を進めます。
- ・大阪市の博物館群や長居植物園などとの連携を進めます。

いずれも、大阪市立自然史博物館が「地域の自然の情報拠点」として機能するために欠くことのできない項目であり、連携によって多様な相乗効果を生んでいけることを挙げるができる。

ミッション3に関連して、学校教育、地域、アマチュアとの連携の要になっているのが、大阪自然史センターとのパートナーシップである。自然史センターは関西自然保護機構と合流を果たし、自然科学的な面からの自然環境保全への取り組みを強めている。このため、関西各地で自然環境の保全や保護に取り組む団体などとの連携を強化した。学校教育面では今年度は大阪府高校生物教育研究会との自然史センター・博物館との連携を強化してきたところである。

西日本自然史系博物館ネットワークとの連携はGBIF 関連の自然誌情報発信事業を中心に、多様な展

開を見せている。

研究・教育においての大学など高等教育機関との連携については、既に各種団体との協力の事例については普及教育事業に、共同研究については調査研究事業に記されている。大阪市の博物館群・長居植物園との連携についてもミュージアムウィークスの開催をはじめとして、多様な展開を見せている。これらの各項目については以下に改めて記載する。

大阪府内の高校との連携

大阪府高校生物研究会および地学研究会と連携し、特別展の情報提供、ワークシートなど博物館を活用した教育用素材の提供、意見交換を行っている。2015年度の大阪府の高校の生物クラブ発表会を博物館で実施した。

2015年度は特に大阪市博物館の連携事業として大阪府教育センター、大阪市立大学とともに「高校生のための博物館の日」を8月11日に開催した。高校生など参加者58名に対し、大学院生9名ほかスタッフが自らの研究の魅力や動機について語り、「科学の目となる日常の中の謎」について伝える機会となった。詳細、大学院生らの講演要旨は以下を参照いただきたい。

http://www.omnh.net/whatsnew/2015/05/811_2.html

西日本自然史系博物館ネットワーク

西日本自然史系博物館ネットワークは、学芸員同士の意見・知識・情報の交換、博物館運営の知識・情報の交換、研究者の育成・援助、広範囲での調査協力などを活動内容として、2004年に設立されたNPO法人である。会員も150名を越し、西日本の自然史系博物館の安定なネットワーク組織として活動している。

当館も中核となる加盟館として連携し以下のような共同事業をおこなった。自然史標本救済に関するネットワーク運用、企業との共催による生物多様性協働フォーラムの開催、研究会「自然史博物館は「オープン化」にどうむきあうか？」開催、2015年度第4回全日本博物館学会研究会共催、小さいとこサミット「小規模ミュージアムのつどい」後援、自然系博物館における標本情報の発信に関する研究会開催、樹脂包埋・プラスチックネーション標本作成講座開催、博物館と市民連携に関する研究会(友の会サミット)開催、タンポポ調査協力、100円ショップグッズ巡回展示協力、2011年の東日本大震災に関しては、ンボジウム「自然史標本の保全を考える日常から緊急時、復興まで」の開催を行った(2015.1.1~2015.12.31)

連携（ネットワーク）

大阪生物多様性保全ネットワーク

大阪府・大阪市・堺市など行政と、大阪市立自然史博物館、大阪環境農林水産総合研究所など研究機関、大阪自然史センター、生物多様性かんさいなど市民ネットワークの協働事業として、NPO法人大阪自然史センターが事務局となり設立された。「新しい公共の場」として、教育機関・研究機関・NPO・行政・地域などの相互の連携をはかり、生物多様性の保全に向けた取り組みを行う組織である。2015年12月には「地域自然史と保全」誌に同ネットワークが主催したシンポジウム「 つくるレッドリストでなくつかうレッドリストへ ―レッドリストを生物多様性保全ツールとして活用するために―」の特集が掲載された。2015年度は、このほか大阪自然史フェスティバルなどに協賛、出展したほか、ホットスポットに関する普及教育冊子の執筆協力などの活動を行った。

大阪の博物館群など

■国際生物多様性の日 シンポジウム

長居植物園が植物多様性保全拠点園となったことを受け、動植物園と共催し5月22日に「生物多様性講演会～大阪の植物の多様性～」を開催した。講師として認定特定非営利活動法人 大阪自然史センター理事長梅原徹氏に基調講演をいただいた他、パネルディスカッションとして「植物園の役割について～長居植物園として出来ること」を行い、当館からは佐久間学芸員が登壇した。シンポジウムの詳細は同植物園の報告を参照頂きたい。

■ミュージアム連続講座2015

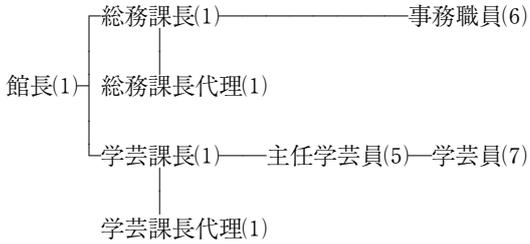
「海からの贈り物～沈没船とさまざまな交流～」の第二回「海を渡る使者たち」において、当館からは金沢学芸員が、11月19日に「海を渡って旅をする蝶・アサギマダラの移動と生物の交流」というテーマで講演を行った。

I. 沿革

- 昭和24年11月8日 - 自然科学博物館開設準備委員会設置
 昭和25年4月1日 - 自然科学博物館費予算に計上
 昭和25年11月10日 - 市立美術館2階廊下にて展示開設
 昭和27年4月17日 - 博物館相当施設に指定
 昭和27年6月2日 - 大阪市立自然科学博物館条例および規則制定
 昭和27年7月10日 - 博物館法第10条により登録(第2号)
 昭和27年10月1日 - 筒井嘉隆 館長に就任(39. 7. 4 退任)
 昭和32年6月7日 - 市立美術館より西区靱2丁目(元靱小学校校舎改造)に移転
 昭和33年1月13日 - 開館
 昭和34年 - 新館建設について本市社会教育審議会の意見具申
 昭和39年 - 日本育英会の第一種奨学金の返還を免除される職を置く研究所に指定(文部省)
 昭和39年8月1日 - 筒井嘉隆 館長に就任(非常勤嘱託-40. 7. 31退任)
 昭和40年8月1日 - 千地万造 館長に就任(58. 6. 1 退任)
 昭和42年 - 大阪市総合計画局30年後の大阪の将来計画により長居公園内に新館敷地確定
 昭和44年8月 - 新館建設のための基本構想審議委員会組織
 昭和47年1月21日 - 自然史博物館建設工事着工
 昭和48年3月31日 - 自然史博物館建設工事竣工
 昭和48年7月 - 新館へ移転開始並びにディスプレイ契約締結(竣工49年3月)
 昭和49年4月1日 - 大阪市立自然史博物館条例公布
 昭和49年4月26日 - 自然史博物館開館式挙行
 昭和49年4月27日 - 開館
 昭和51年8月19日 - 文部省科学研究費補助金取扱規定第2条第4号に規定する学術研究機関として指定
 昭和58年7月1日 - 千地万造 館長に就任(非常勤嘱託-61. 3. 31退任)
 昭和59年6月 - 常設展更新基本計画案策定
 昭和60年3月 - 常設展更新計画書策定
 昭和61年3月31日 - 常設展更新業務完成
 昭和61年4月1日 - 新装開館
 昭和61年4月1日 - 小川房人 館長に就任(兼務-2. 3. 31定年退職)
 昭和61年4月1日 - 千地万造 顧問に就任(非常勤嘱託-2. 3. 31退任)
 平成2年4月1日 - 小川房人 館長に就任(非常勤嘱託-3. 3. 31退任)
 平成2年度 - 文化施設整備構想調査
 平成3年4月1日 - 小川房人 顧問に就任(非常勤嘱託-5. 3. 31退任)
 柴田保彦 館長兼学芸課長に就任(4. 3. 31定年退職)
 平成3・4年度 - 自然史博物館整備構想調査事業
 21世紀に向けての館のあり方・問題点の改善策の調査
 平成4年4月1日 - 柴田保彦 館長に就任(非常勤嘱託-7. 3. 31定年退職)
 平成7年4月1日 - 宮武頼夫 館長に就任(9. 3. 31定年退職)
 平成7年度 - 自然史博物館・長居植物園付帯施設整備構想委員会設置
 平成8年度 - 展示更新基本計画及び(仮称)花と緑と自然の情報センター設計検討
 平成9年4月1日 - 宮武頼夫 館長に就任(嘱託-10. 3. 31退職)
 平成9年度 - 展示更新実施設計及び増築にかかる基本・実施設計
 平成10年4月1日 - 那須孝悌 館長に就任(13. 3. 31定年退職)
 平成10年12月 - 花と緑と自然の情報センター建築工事着工
 平成13年3月 - 花と緑と自然の情報センター竣工
 平成13年4月1日 - 那須孝悌 館長に就任(非常勤嘱託)
 平成13年4月27日 - 花と緑と自然の情報センター開館式挙行
 花と緑と自然の情報センター開館
 平成17年4月1日 - 山西良平 館長に就任(27. 3. 31退任)
 平成18年3月1日 - 本館エントランス及びポーチリニューアルオープン
 平成18年4月1日 - (財)大阪市文化財協会が指定管理者となる
 平成19年3月24日 - 第5展示室一部リニューアルオープン
 平成20年4月26日 - 第5展示室全面リニューアルオープン
 平成22年4月1日 - 財団統合により(財)大阪市博物館協会が指定管理者となる
 平成24年3月 - 本館・大阪の自然誌コーナー・ネイチャーホールの展示照明等LED化
 平成27年4月1日 - 谷田一三 館長に就任
 平成27年10月10日 - 長居公園に移転してからの通算入場者数が1,000万人を突破

Ⅱ. 組 織

■職員数（平成27年4月1日現在） 計23名



■職員名簿（平成27年4月1日現在） 計23名

職 名	氏 名	職 種	氏 名
館 長	谷田 一三	学芸課長	川端 清司
総務課長	北野 昌紀	学芸課長代理	金沢 至
総務課長代理	大坪 秀行	主任学芸員	波戸岡清峰
事務職員	高橋 郁子	〃	塚腰 実
〃	木野 美奈	〃	初宿 成彦
〃	(釋 知恵子)	〃	佐久間大輔
〃	樋口 祥子	〃	和田 岳
〃	松岡 由布	学芸員(四紀)	石井 陽子
〃	大江 彩佳	学芸員(四紀)	中条 武司
〃	山上 香代	学芸員(昆虫)	松本吏樹郎
		学芸員(動物)	石田 惣
		学芸員(植物)	長谷川匡弘
		学芸員(植物)	横川 昌史
		学芸員(地史)	林 昭次

■人事異動

平成27年4月1日 谷田 一三 館長新規採用
 大坪 秀行 総務課長代理新規採用
 山上 香代 事務職員新規採用
 北野 昌紀 総務課長に大阪文化財研究所より転入
 樋口 祥子 事務職員に協会総務部より転入

Ⅲ. 庶務日誌

■平成27年度 博物館関係者来訪

- 27. 7. 4 三重大学教育学部理科教育講座
ホーチミン師範大学（ベトナム）の学生の引率
- 27. 11. 7 北谷町教育委員会、社会教育課、社会教育課文化係
町立博物館整備のため視察
- 28. 1. 19 東京都市大学
研究に関するヒアリング

- 28. 2. 6 川口市立科学館
展示視察及びヒアリング
- 28. 3. 8 豊田市建設部河川課矢作川研究所
展示視察及びヒアリング

■館長受嘱委員

- 公益財団法人日本博物館協会参与
平成27年4月1日～平成29年3月31日
- 公益財団法人河川財団評議員
平成27年4月9日～平成29年6月頃
- 一般財団法人大阪科学技術センター評議員
平成27年4月2日～平成28年6月頃
- 公立大学法人大阪府立大学客室研究員
平成27年4月1日～平成28年3月31日
- 水源地環境技術委員会 委員
平成27年5月22日～平成31年3月31日
- 一般財団法人水源地環境センター 理事
平成27年6月25日～平成29年6月評議員会
- 豊かな環境づくり大阪府民会議 委員
平成27年4月1日～平成29年3月31日
- 公益財団法人リバーフロント研究所 河川・海岸環境機能等検討委員会 委員
平成27年4月1日～平成28年3月31日
- 一般社団法人国際環境研究協会 環境研究企画委員会
自然共生型社会部会委員
平成27年5月11日～平成28年3月31日
- 大阪府環境審議会専門委員（環境・みどり活動促進部会）
平成27年6月18日～平成28年7月22日
- 国立研究開発法人国立環境研究所 平成27年度今後の水生生物保全に関する検討会 委員
平成28年1月24日～平成28年3月31日
- 環境省 中央環境審議会水環境部会水生生物保全環境基準類型指定専門委員会 委員
平成28年3月3日～
- 国土交通省 社会資本整備審議会河川分科会 河川整備基本方針検討小委員会 委員
平成28年3月8日～平成30年3月31日

Ⅳ 決算

■平成25年度～平成27年度

(単位 千円)

区分	事 項	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
収 入	入 館 料 ほ か	28,757	26,163	22,819	
		常 設 展 観 覧 料	14,597	13,767	16,151
		特 別 展 観 覧 料	13,653	11,852	6,286
		施 設 使 用 料	507	544	382
	雑	収	3,326	2,667	2,300
		図 録 販 売 収 入 等	1,411	1,096	1,313
		そ の 他	1,915	1,571	987
		合 計	32,083	28,830	25,119
	支 出	展 覧 事 業	22,289	22,302	9,140
			常 設 展 覧 事 業	2,360	2,912
特 別 展 覧 事 業			19,929	19,390	7,666
調 査 研 究 事 業		6,716	6,198	6,687	
資 料 収 集 保 管 事 業		2,876	1,890	1,820	
普 及 教 育 事 業		4,649	4,475	4,849	
充 実 活 性 化 事 業		1,144	930	949	
施 設 管 理 費		114,204	118,997	116,326	
一 般 維 持 管 理 費 等		184,484	195,402	203,813	
		合 計	336,362	350,194	343,584

V. 入館者数 (平成27年度)

■本館常設展入館者数

区分 月	有 料					無 料								計	開館 日数
	個 人		団 体		有料計	団 体					個 人		無料計		
	大人	高校生 大学生	大人	高校生 大学生		幼・保 育園等	小学生	中学生	特別支援 学校等	団体 引率者	中学生 以 下	優待・招 待・その他			
(27) 4	15,077	579	64	149	15,869	226	5,791	29	3	388	6,739	4,466	17,642	33,511	28
5	24,827	1,183	392	63	26,465	1,355	9,101	698	264	1,019	9,885	7,771	30,093	56,558	27
6	4,062	133	1,165	34	5,394	663	1,310	668	198	314	1,829	1,180	6,162	11,556	25
7	3,735	218	120	35	4,108	622	85	105	17	99	3,164	1,292	5,384	9,492	27
8	5,759	555	241	48	6,603	24	7	59	0	12	5,836	2,307	8,245	14,848	26
9	6,663	263	169	2	7,097	850	709	46	84	201	3,881	1,529	7,300	14,397	26
10	3,863	244	303	92	4,502	1,751	10,537	196	168	1,045	2,387	1,731	17,815	22,317	27
11	2,867	214	81	72	3,234	807	1,030	1,426	19	201	2,145	14,285	19,913	23,147	25
12	3,586	129	57	2	3,774	94	281	708	12	78	1,392	937	3,502	7,276	24
(28) 1	2,673	149	68	32	2,922	172	340	416	0	112	2,167	965	4,172	7,094	24
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	6,539	368	199	189	7,295	1,089	122	157	16	215	3,987	1,745	7,331	14,626	27
計	79,651	4,035	2,859	718	87,263	7,653	29,313	4,508	781	3,684	43,412	38,208	127,559	214,822	286

※本館改修工事のため2月休館

■無料団体観覧内訳 (平成27年度)

区 分	市 内		市 外		計	
	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数
幼 稚 園 ・ 保 育 所	77	3,472	78	4,181	155	7,653
小 学 校	138	11,609	208	17,704	346	29,313
中 学 校	50	2,318	64	2,190	114	4,508
特 別 支 援 学 校 ・ 他	7	136	10	244	17	380
福 祉 施 設	26	301	8	100	34	401
団 体 引 率 者		1,584		2,100		3,684
計	298	19,420	368	26,519	612	45,939

■特別展入館者数（平成17年度～平成27年度）

区分 年度	個人				団体			合計	開催期間	日数	タイトル
	大人	高校生 大学生	優待・ 他無料	中学生 以下無料	大人	高校生 大学生	中学生以下 他無料				
17	959	87	3,361	9,038	0	0	0	13,445	7.16～9.4	44	ナチュラリスト展
	103,419	5,203	81,640	28,497	280	51	24,834	243,924	10.8～11.27	45	恐竜博
18	2,544	336	2,597	3,971	15	0	227	9,690	7.29～9.18	45	大和川展
19	8,591	506	4,040	10,532	55	0	392	24,116	7.7～9.2	51	世界一のセミ展
	31,244	1,518	18,131	31,815	679	81	18,409	101,877	9.15～11.25	62	世界最大の翼竜展
	8,483	267	4,661	11,659	0	0	269	25,339	3.15～3.31	14	ようこそ恐竜ラボへ！
20	28,882	1,000	18,491	39,120	153	0	18,387	106,033	4.1～6.29	79	ようこそ恐竜ラボへ！
	30,389	6,218	18,560	18,708	2	59	564	74,500	7.19～9.21	56	ダーウィン展
	1,887	357	4,103	1,414	19	152	2,226	10,158	10.25～12.7	38	地震展
21	4,069	221	4,532	3,360	217	0	9,298	21,697	4.18～5.31	38	世界のチョウと甲虫展
	1,584	120	17,567	14,801	12	99	292	34,475	7.4～8.30	50	ホネホネたんけん隊
	4,920	529	3,938	2,153	143	0	4,921	16,604	9.19～11.3	39	きのこのヒミツ展
	12,413	697	4,907	14,608	7	0	32	32,664	3.20～3.31	10	大恐竜展
22	48,600	2,904	20,381	49,034	205	124	20,836	142,084	4.1～5.30	52	大恐竜展
	1,405	1,262	3,535	2,724	92	0	1,264	10,282	7.24～10.8	58	みんなでつくる淀川大図鑑展
23	11,864	2,237	5,140	10,625	56	42	195	30,159	7.2～8.28	50	来て！見て！感激！大化石展
	22,864	1,700	15,048	25,108	14	102	16,035	80,871	9.10～11.27	67	OCEAN！海はモンスターでいっぱい
	14,179	527	7,745	17,057	1	31	719	40,259	3.10～3.31	19	新説・恐竜の成長
24	39,844	1,215	13,101	38,459	110	102	19,093	111,924	4.1～6.3	56	新説・恐竜の成長
	7,353	1,489	6,005	6,885	23	32	5,300	27,087	7.28～10.14	68	のぞいてみよう ハチの世界
	25,519	1,330	8,524	22,317	48	114	3,256	61,108	11.23～3.31	104	モンゴル恐竜化石展
25	24,439	1,197	9,401	21,561	217	69	13,705	70,589	4.1～6.2	55	モンゴル恐竜化石展
	5,075	1,366	5,616	5,216	26	46	3,315	20,660	7.20～10.14	75	いきものいっぱい 大阪湾
	8,054	261	2,583	9,391	4	12	276	20,581	3.21～3.31	11	恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス
26	28,452	863	12,521	31,113	7	78	16,846	89,880	4.1～5.25	50	恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス
	3,330	509	3,919	3,528	27	48	1,914	13,275	7.19～10.13	73	ネコと見つける都市の自然
	6,783	255	2,199	7,457	4	19	248	16,965	3.21～3.31	11	スペイン 奇跡の恐竜たち
27	33,701	1,306	12,034	29,970	94	134	16,477	93,716	4.1～5.31	55	スペイン 奇跡の恐竜たち
	5,414	600	4,035	5,956	129	41	5,314	21,489	7.18～10.18	80	たまごとなね

VI. 貸室の利用状況

■講堂 平成27年度 15件

年月日	団体名	使用目的	人数
H27. 5. 16	長居パークセンター	万葉講演会	80
H27. 5. 24	大阪市立長居植物園	生物多様性講演会	120
H27. 6. 24	NPO法人大阪府高齢者大学校	自然不思議発見 授業	55
H27. 8. 21	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマとした講演会と会議	110
H27. 8. 22	株式会社プランニングオフィスエスエムエス	ナショナルオープンキャンパス2015	266
H27. 9. 18	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマとした講演会と会議	110
H27. 9. 19	NPO法人シニア自然大学校	植物が動く方法 授業	52
H27. 10. 3	いであ株式会社	第8回大阪湾生き物一斉調査結果発表会	100
H27. 10. 4	応用生態工学会	ミュージアム連携ワークショップ in 大阪	60
H27. 10. 6	NPO法人シニア自然大学校	植物が動く方法 授業	62
H27. 10. 16	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマとした講演会と会議	110
H27. 12. 18	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマとした講演会と会議	110
H28. 1. 15	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマとした講演会と会議	110
H28. 2. 10	NPO法人大阪府高齢者大学校	自然不思議発見 授業	55
H28. 3. 18	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマとした講演会と会議	110

■特別展示室（ネイチャーホール） 平成27年度 1件

年月日	団体名	使用目的	人数
H27. 11. 27～29	一般社団法人日本書道技術師認定協会	第3回日本書道展	1000

Ⅶ. 施設

自然史博物館本館

■所在地 大阪市東住吉区长居公園1番23号

■敷地面積 6,743.68㎡

■建築面積 4,392.67㎡

■延床面積 7,066.01㎡

■構造 鉄筋コンクリート造、一部屋根鉄骨造
地下1階、地上3階

■主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計	2,427.48㎡	(天井の高さ)
ナウマンホール	550.35㎡	11.00m	
第1展示室	360.55㎡	3.30m	
第2展示室	486.64㎡	7.20m	
第3展示室	403.10㎡	4.70m	
第5展示室	360.55㎡	4.20m	
2階ギャラリー	266.29㎡	6.80m	
(研究用施設)	計	1,802.82㎡	
館長研究室・暗室	各18.27㎡	2.70m	
動物・昆虫・植物・地史研究室	各47.56㎡	2.40m	
第四紀・外来研究室	各36.54㎡	2.40m	
生物実験室	49.20㎡	2.40m	
化学分析室・サーバー室	各18.27㎡	2.40m	
電子顕微鏡室	37.43㎡	2.70m	
動物標本作室	37.71㎡	2.40m	
昆虫・植物標本作室	各36.54㎡	2.40m	
化石処理室	47.56㎡	2.40m	
石工室	22.21㎡	2.70m	
展示品製作室	28.05㎡	2.70m	
旧第1収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
旧第2収蔵庫	310.08㎡	3.00m	
旧第3収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
旧第4収蔵庫	310.08㎡	3.00m	
書庫	100.30㎡	7.40m	
編集記録室	36.54㎡	2.40m	
(普及教育用施設)	計	604.27㎡	
講堂(映写室・控室含む)	319.09㎡	2.60m(平均)	
ミュージアムサービスセンター	93.30㎡	2.70m	
集会室	95.12㎡	2.70m	
旧実習室	96.76㎡	2.70m	
(管理用施設)	計	907.49㎡	
館長室	36.54㎡	2.70m	
1階部屋	18.27㎡	2.70m	
事務室	83.34㎡	2.70m	
応接室	29.54㎡	2.70m	

休憩室	16.85㎡	2.55m
警備員室	17.64㎡	2.70m
会議室	47.56㎡	2.70m
機械室	472.35㎡	5.85m
電気室	89.92㎡	5.85m
旧自家発電室	49.16㎡	5.85m
旧中央監視盤室	28.05㎡	2.40m
(共通部分)	計	1,323.95㎡
1階廊下	118.27㎡	2.70m
2階廊下	102.29㎡	2.40m
ロッカールーム	60.59㎡	2.85m
エレベーターホール(荷物用)	123.16㎡	
ファンルーム(南・北側)	各16.80㎡	
荷捌室	161.69㎡	2.70m
玄関ホール	125.10㎡	3.25m
ナウマンホールエレベータ	7.00㎡	
倉庫	106.56㎡	
1階ホール便所	76.26㎡	
2階ホール便所	37.56㎡	
管理棟便所	43.47㎡	
ダクトスペース	102.70㎡	
階段	179.30㎡	
その他	46.40㎡	
総計	7,066.01㎡	

■階数別面積

地階……………	855.07㎡	3階……………	550.95㎡
1階……………	3,178.35㎡	屋階……………	76.93㎡
2階……………	2,404.71㎡		

■各室定員

講堂……………	266人	集会室……………	48人
会議室……………	22人	旧実習室……………	31人
展示室(1階)	415人	展示室(2階)	400人
地階……………	3人		

■工期 昭和47年1月21日～昭和48年3月31日

■総事業費

総事業費	10億1,000万円
(建設工事費)	7億9,500万円
・本体工事(株竹中工務店)	4億9,200万円
・付帯工事	3億300万円
(設計監督委託料)	2,700万円
(その他)	3,800万円
事務費、移転費、公園樹木移設工事費 ネットフェンス設置工事費等	
(内部設備費)	1億5,000万円
・第1展示室ディスプレイ(株日展)	2,200万円
・第2展示室ディスプレイ(株乃村工芸社)	2,500万円

・第3展示室ディスプレイ (株丹青社)	2,100万円
・オリエンテーションホールディスプレイ (株電電広告)	600万円
・展示品購入費	3,200万円
・庁用器具、調査、研究用機器、 資料保管用物品等	4,400万円
■国庫補助金・起債	
・国庫補助金	3,000万円 (47. 10. 13付交付決定)
・起債	3億8,762万円 (47. 8. 25付交付決定)

花と緑と自然の情報センター

■所在地 大阪市東住吉区長居公園1番23号

■敷地面積 1,203.81㎡

■建築面積 1,203.81㎡

■延床面積 5,000.00㎡

■構造 鉄骨鉄筋コンクリート造
地下1階、地上2階塔屋付建物

■主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計	1,403.76㎡	(天井の高さ)
大阪の自然誌		638.82㎡	4.20m
ネイチャーホール		764.95㎡	7.00m
(研究用施設)	計	1,971.50㎡	
準備室兼置場 (1)		47.99㎡	4.00m
準備室兼置場 (2)		68.34㎡	4.00m
冷蔵庫室		21.99㎡	5.00m
資料前処理室		20.14㎡	4.00m
一般収蔵庫		748.34㎡	5.00m
特別収蔵庫		688.22㎡	5.00m
液浸収蔵庫		323.48㎡	5.00m
前室 (1)		36.80㎡	4.00m
前室 (2)		16.20㎡	4.00m
(普及教育用施設)	計	256.08㎡	
自然の情報センター		111.11㎡	5.00m
ミュージアムサービス		39.22㎡	5.00m
実習室		105.75㎡	3.00m
(管理用施設)	計	937.36㎡	
総合監視センター		32.78㎡	5.60m
空調機械室		116.93㎡	6.50m
機械室		722.99㎡	5.60m
E V機械室		49.08㎡	5.60m
技術スタッフ室		15.58㎡	3.00m
(共通部分)	計	431.30㎡	
地下1階廊下		28.74㎡	3.00m

1階廊下	48.30㎡	3.00m
1階渡り廊下	15.21㎡	3.00m
2階渡り廊下	15.21㎡	3.00m
プロムナード	28.00㎡	5.00m
2階便所	57.02㎡	2.50m
E V室	47.52㎡	2.90m
トラックヤード	88.13㎡	
階段	103.18㎡	
総計	5,000.00㎡	

■階数別面積

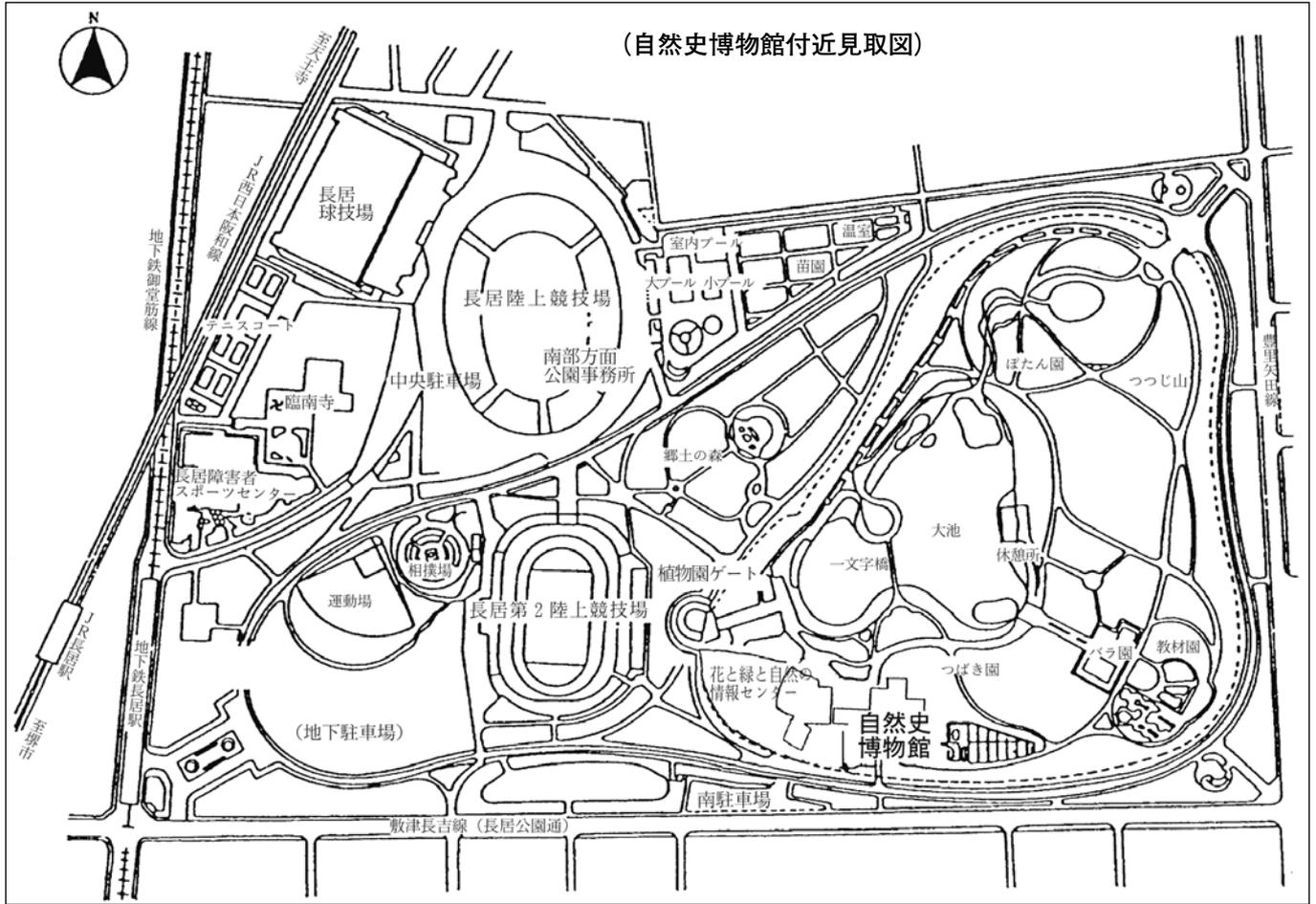
地階……	2,754.07㎡
1階……	1,203.81㎡
2階……	993.04㎡
3階……	49.08㎡

■工期 平成10年12月～平成13年3月

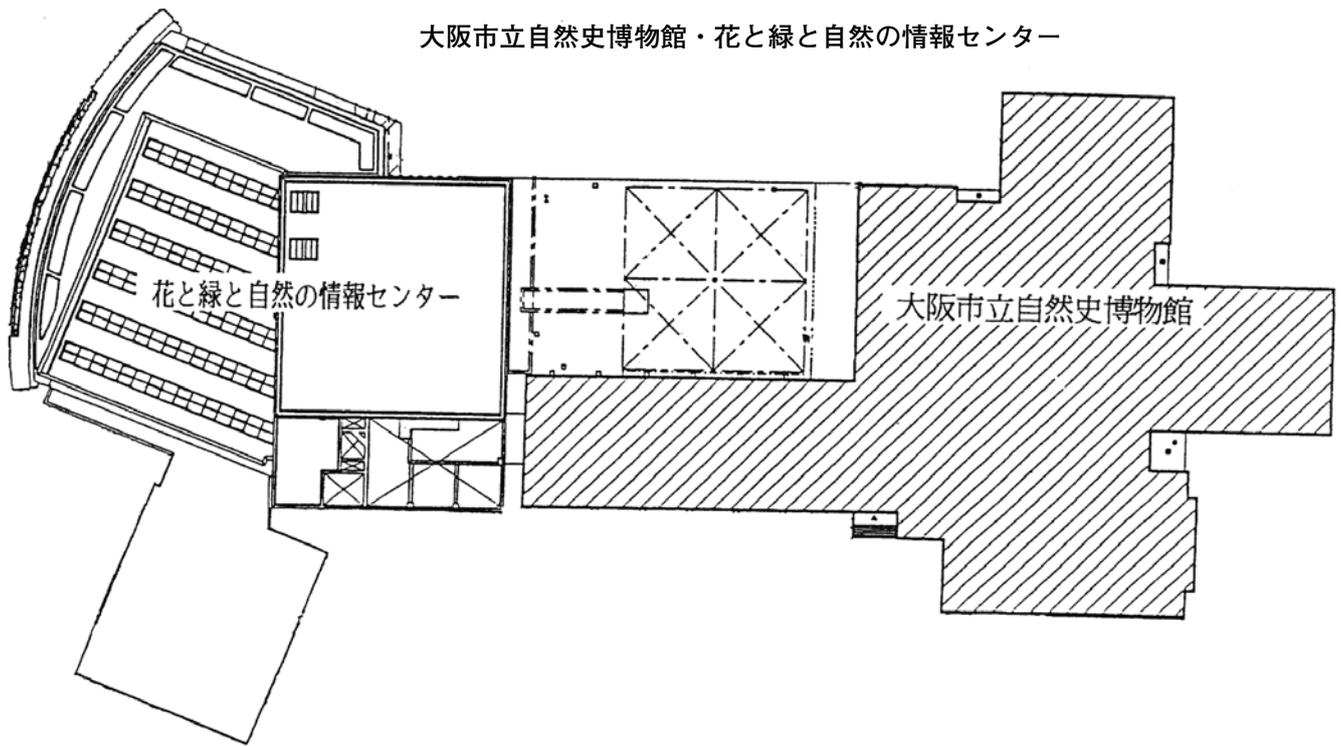
■総事業費	41億6,665万円
(建設工事費)	24億4,558万円
(設備工事費)	11億9,650万円
(設計監督委託料)	5,751万円
(外溝工事費他)	4億6,706万円

■起債等

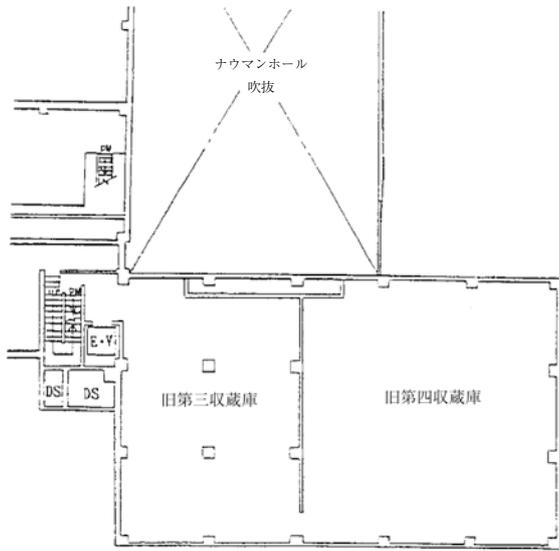
・起債	34億7,477万3千円
・雑収 (宝くじ協会)	3億6,001万7千円



大阪市立自然史博物館・花と緑と自然の情報センター



3階

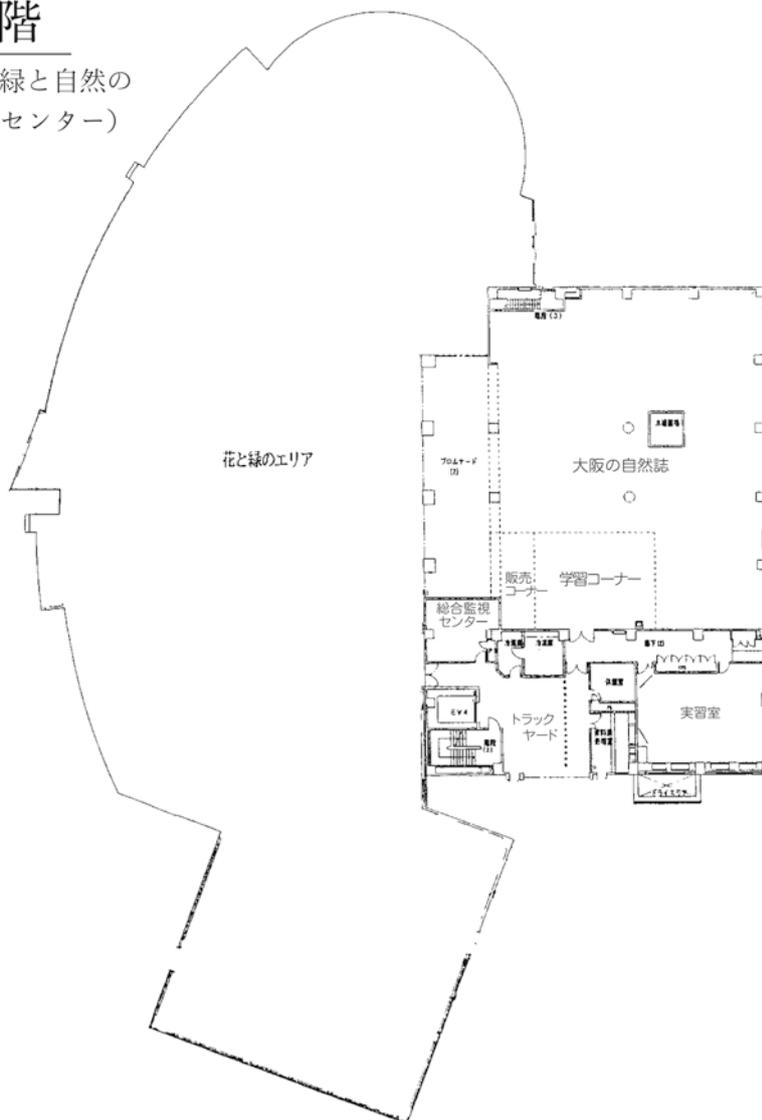


地下

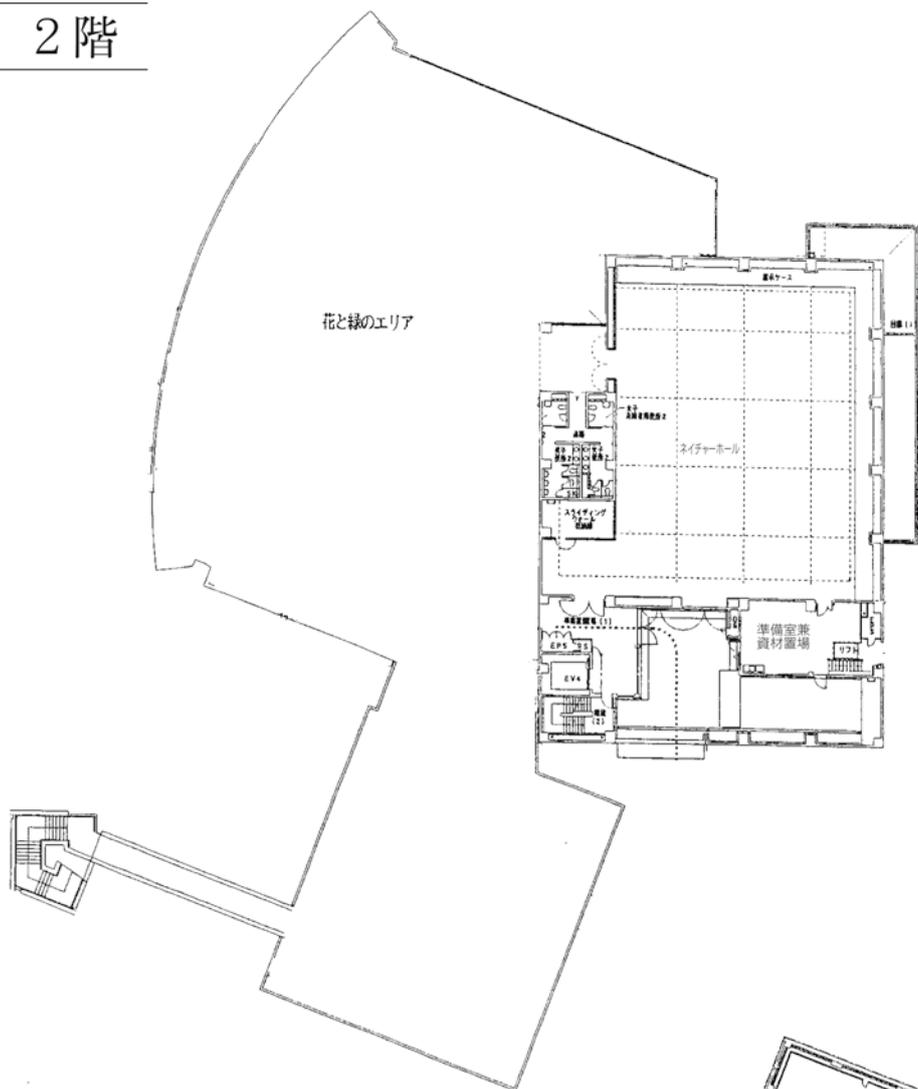


1階

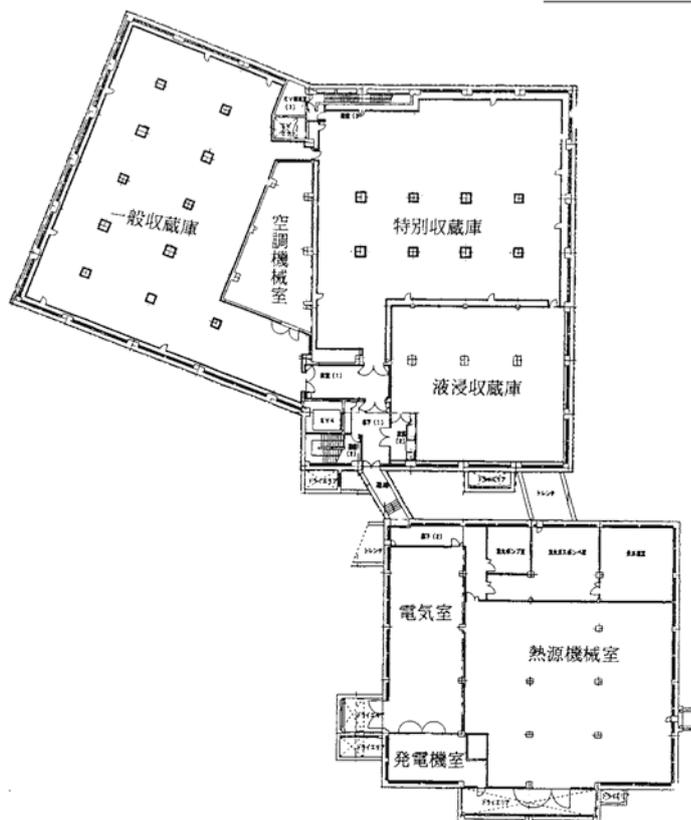
(花と緑と自然の
情報センター)



2階



地下





ANNUAL REPORT

of the

Osaka Museum of Natural History

for the fiscal year of 2015

Nagai Park, Higashi-sumiyoshi-ku, Osaka, 546-0034 JAPAN

Issued : June 1, 2016.